

1250迄 (2474件)

1201年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラン国王「ンガス」(~1205年)
1201年-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Ari Deva Ari Deva (Ari Mallal1世)」(~1216年)
1201年-05:45|ネパール| |||<即位>リッチャビ 朝国王「Arideva Arimalla」
1201年-04:00|アルメニア| |||<建国>サカリト・アルメニア(~1360年/1236年までゲルジアの宗主権下、その後、モンゴルとイル・ハナの下)
1201年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「カタダ・ブン・イトリス・アル=ハサニ・アル=アラウイ」(~1220年息子に殺される)
1201年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アンティオキア公「ホ・エモン3世」
1201年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ギュラ・ハーン」(1回目~1202年)
1201年-02:00|ラトヴィア| |||<就任>リガ 司教「アルブレヒト1世フォン・ブクシュヘフテン」リガ 市を建設(⇒1207年、リガラント公~12290117)
1201年-02:00|トルコ| |||<即位>アルタウ朝スルタン「アルタウ・アルスラーン・ナーシル」(~1239年)
1201年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アンティオキア公「ホ・エモン4世」トリポリ伯(~1216年)
1201年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「ティートリヒ5世」(~1260年死去)
1201年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ベネイクト・オスロ」(~1202年)
1201年-01:00|ナイジェリア| |||西アフリカでヨルバ族のベニン王国の形成が始まる
1201年 06:00|アメリカ| |||13世紀、ヒチ人がハワイに移住
1201年2月5日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|正治3年|金華山頂に鎌倉幕府執事二階堂行政が砦を築く(→稲葉山城→岐阜城/岐阜県)
1201年2月5日-08:00|中国| ||大理・鳳歴1年|後理国の英宗亨天帝段智廉が鳳歴と改元
1201年2月5日-08:00|中国| ||宋・嘉泰1年|南宋の寧宗が嘉泰(-1204年)と改元
1201年2月5日-08:00|中国| ||金・泰和1年1月1日|金の章宗が泰和(-1208年)と改元
1201年2月27日-09:00|日本|京都府京都市|正治3年1月23日|<建仁の乱>夜、御家人城長茂が三条大路南・東洞院大路東に所在する小山朝政(梶原景時追放の首謀者の一人)の邸宅を襲撃、朝政は不在であり、長茂は朝政邸の郎党らと戦ったのちに留守邸から引き上げた
1201年3月1日-09:00|日本| ||正治3年1月25日|<死去>式子内親王(53歳)後白河天皇の皇女、賀茂斎院
1201年3月19日-09:00|日本| ||建仁1年2月13日|建仁に改元
1201年3月22日-01:00|ポーランド| |||<死去>ホーレ公「ヤロスワ」
1201年3月22日-01:00|ポーランド| |||<就任>ホーレ公「ホーレスワフ1世グィキ」(~12011207死去)
1201年3月24日-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・ヌー伯「ティボ-3世」フランス北部のトロワで急死、22歳
1201年3月28日-09:00|日本|奈良県|建仁1年2月22日|<建仁の乱>城長茂らは鎌倉勢と戦って敗れ、長茂とその郎党新津四郎以下が吉野の奥で討たれ、5人が捕虜にされた
1201年4月4日-09:00|日本|京都府京都市|建仁1年2月29日|<建仁の乱>城長茂の甥で有力な残党であった城資家・資正兄弟と奥州藤原氏の生き残りで幕府の食客となっていた藤原高衡が追討を受けて誅殺された
1201年4月14日-09:00|日本|京都府京都市|建仁1年3月10日|卯刻地震あり。若宮大路西頬焼失
1201年4月28日-09:00|日本|千葉県千葉市|建仁1年3月24日|<死去>下総国千葉城主・千葉常胤/84歳。子の千葉胤胤政が継ぐ
1201年5月5日-09:00|日本|新潟県胎内市|建仁1年4月2日|<城資盛・越後の反乱>城資盛(長茂の甥)が越後国で城郭を構えて鳥坂城に立て籠もる/佐渡・越後両国の御家人らが襲撃するも、抵抗をうけてことごとく敗北
1201年5月30日-01:00|フランス| |||<就任>ジャン・ヌー伯「ティボ-4世」ティボ-3世の息子(⇒1234年サアル王「ティボルト1世」~12530708死去)
1201年6月-01:00|チェコ| |||<死去>ブルコ公「スヴァトプルク」モラヴィア辺境伯領に編入
1201年6月3日-09:00|日本| ||建仁1年5月|古来風体抄(藤原俊成)完成
1201年6月11日-09:00|日本|新潟県胎内市|建仁1年5月9日|佐々木盛綱が越後国において反乱した城資盛を討伐
1201年6月22日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシグ) 法話者「ハルルギズアルソン」(~1210年)
1201年7月5日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イラク| |||エジプト、シリア、イラクで地震、死者3万人
1201年7月20日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王フィリップ2世の妻アネスト・メーネ(-1180~)
1201年7月25日 00:00|イギリス| |||<死去>デハバース公「Gruffydd ap Rhys」
1201年7月31日-01:00|フランス/イギリス| |||ルジャン家への処遇のことでフランス王フィリップとイングランド王ジョンが対立して戦争になるが、この日ジョンはルジャン家の者を捕虜にし、母のアリエールを救出
1201年8月1日-09:00|日本| ||建仁1年7月|<任命>土佐国守護「豊島朝経」(~建仁3(1203)年8月)
1201年8月27日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁1年7月27日|和歌所設置し、定家ら寄人となる
1201年9月5日-01:00|フランス| |||<死去>ブルクニ公・レンヌ女公・レンヌ伯「コンスタンス」40歳
1201年9月9日-09:00|日本| ||建仁1年8月11日|<建仁元年関東暴風雨、高潮災害>午前中から降り続いた激しい雨に加え、屋過ぎからは強風が吹き荒れ村里では風や洪水によって家々が倒壊/沿岸部では船の転覆が相次ぐ/鎌倉では鶴ヶ岡八幡宮寺の廻廊や八足門をはじめいたる所の仏閣や塔、廟などが倒壊し、市中に無事な家屋など万に一つも無いという状況/現在の東京湾北部沿岸部では高潮が押し寄せて家屋と共に千余人の人が流された
1201年9月21日-09:00|日本| ||建仁1年8月23日|<建仁元年関東暴風雨>またも暴風雨が吹き荒れ、この二度の暴風雨によって稲作などに大きな被害
1201年10月29日-09:00|日本|広島県尾道市|建仁1年10月|快慶作木造阿弥陀如来坐像(瀬戸田耕三寺蔵)成る
1201年11月29日-09:00|日本|広島県安芸郡府中町|建仁1年11月2日|木造薬師如来坐像(府中道隆寺蔵)成る
1201年12月2日-09:00|日本|京都府京都市|建仁1年11月5日|六角堂焼亡

1250迄 (2474件)

1201年12月7日-01:00|ホーランド| |||<死去>ホーレ公・ゲウガフ公「ホーレワフ1世ヴァイク」
1201年12月7日-01:00|ホーランド| |||<就任>ホーレ公「ヘンリク1世ブロダティ」(~1202. 1) 兼ゲウガフ公(~12380319死去)
1201年12月27日-09:00|日本|奈良県奈良市|建仁1年12月|興福寺帝釈天像(定慶)できる
1201年12月29日-09:00|日本| |||建仁1年12月3日|<再任>阿波国守護「佐々木経高」(~不詳、次に高重が就任~承久3(1221)年6月14日死去)
1202年-05:30|スリランカ| |||<即位>ホーロンナワ王「Kalyanavati」ニッサナ・マラの王妃(~1208年)
1202年-05:30|インド| |||アイバク軍がセーナ朝を撃破
1202年-03:00|イェメン| |||<即位>アイユーブ朝(イェメン・ハジヤス)アミール「アンナースィル」アルムイッス・イスマイルの兄弟(~1214年)
1202年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ベネディクト」(1回目~1206年)
1202年-02:00|ウクライナ| |||<即位>オーヴルチ公「リュリク・ロススラウイチ」(~1203年)
1202年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「イングヴァリ3世」(1度目~1202年)
1202年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「オレグ・スヴャトスラウイチ」(~1204年死去)
1202年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ノヴゴロド・セヴェルスキー公「フセヴォロド・スヴャトスラウイチ」(~1204年)
1202年-01:00|イタリア| |||<死去>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「ホンコンテ1世・ダ・モンテフェルトロ」
1202年-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「ホンコンテ1世・ダ・モンテフェルトロ」(~1242年死去)
1202年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「ディートリヒ5世」(~1260年)
1202年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「マルティン・ホスト・パスマニ」(1度目~同年)
1202年-01:00|イタリア| |||<就任>チロル伯「Albert4世」(~12530722死去)
1202年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハンラティン「シカネベリジャーク」(~1204年)
1202年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア大公「ヴカン・ネマンジッチ大公」ステファン・ネマニャの長男/弟ステファンを打倒(~1204年、弟ステファンに敗れる)
1202年-01:00|ホーランド| |||<退位>ホーランド公「レジェク1世ビヤウ」
1202年-01:00|ホーランド| |||<復位>ホーランド公「ミッシュコ3世スタリ」(~3. 13死去)
1202年-01:00|クロアチア/イタリア| |||ヴェネツィアによるダルマチアのザラ/ザダル支配(~1209年)
1202年-01:00|フランス| |||フランスのフィリップ2世はノルマンディーを没収した領地と宣言(1204. 6までに、チャンネル諸島を除いてフランス軍がノルマンディーを征服)
1202年-01:00|北マケドニア/キリシヤ| |||マケドニアはバルカンの一部(~1230年4月)
1202年 00:00|イギリス| |||<解任>リッチモンド伯「アルテュール1世(ブルターニュ公アーサー・オブ・ブリタニー)」叔父ジヨン王により幽閉(1203年に行方不明)
1202年1月-01:00|ホーランド| |||<就任>ホーレ公「ミッシュコ1世ブロトノギ」(~12110516死去)
1202年1月19日-09:00|日本| |||建仁1年12月24日|<死去>藤原多子(62歳)近衛天皇の皇后、二条天皇の妃
1202年1月20日-08:00|中国| |||金・泰和1年12月25日|金・新定律令・勅条格式を頒かつ
1202年1月22日-09:00|日本|奈良県奈良市|建仁1年12月27日|快慶作の東大寺僧形八幡像・開眼
1202年1月26日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建仁2年|この年僧栄西建仁寺を創建<臨済宗建仁寺派大本山>
1202年1月26日-09:00|日本|三重県伊賀市|建仁2年|この年僧重源伊賀国新大仏寺を創建
1202年1月26日-08:00|中国| |||宋・嘉泰2年|南宋の謝深甫らが「慶元法事類」を編纂
1202年1月26日-08:00|モンゴル| |||チンギス・ハンがタタル部を討滅
1202年2月8日-09:00|日本|群馬県|建仁2年1月14日|<死去>河内源氏・新田義重(68歳)
1202年2月11日-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ゴール朝スルタン「キヤースッティーン・ムハンマド(2世)」
1202年2月11日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝スルタン「シャハブッディーン・ムハンマド(3世)」サム1世の子(~12060315死去)
1202年3月9日-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー王「スヴェレシグルトソン」
1202年3月9日-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー王「ハコン3世スヴェリッソン」(~12040101没)
1202年3月13日-01:00|ホーランド| |||<死去>ホーランド公「ミッシュコ3世スタリ」
1202年3月13日-01:00|ホーランド| |||<即位>ホーランド公「ヴラデイスワフ3世ラスコギ」ミッシュコ3世の息子/グリエルモ・ルスカ公(~1206年退位~12311103死去)
1202年4月4日-09:00|日本|奈良県奈良市|建仁2年3月10日|興福寺梵天像(定慶)できる
1202年4月5日-01:00|フランス| |||<死去>ヘルクシュ伯「Geoffrey3世」
1202年4月5日-01:00|フランス| |||<就任>ヘルクシュ伯「Thomas」(~12170520死去)
1202年4月30日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス国王フィリップ2世が、イングランド王ジョンに対してフランス王国内の所領没収を宣言
1202年5月7日 00:00|イギリス| |||<死去>サリ伯「ハメルン・ド・ワーレン」
1202年5月7日 00:00|イギリス| |||<就任>サリ伯「ウィリアム・ド・ワーレン」(~12400527死去)
1202年5月10日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「ムアサム・シャー」
1202年5月10日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「ムハンマド・シャー」(~12371023死去)
1202年5月20日-02:00|レバノン/シリア・アラブ/イスラエル| |||レバノン・シリア・イスラエルで地震(M7. 7)、死者数千人
1202年5月24日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁2年5月2日|源頼家、兄弟相論の訴訟法を制定
1202年6月-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ2世、イギリス領「ノルマンディー公領」に侵攻し、フランス北部のウー、オーム、ドリアンクール、パリの北西約100kmのリヨン・ラ・フォレ、モントメール、グーネル、アルに進む
1202年7月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ2世の娘マリー・ド・フランスと婚約した「ブルターニュ公」アルテュール(アーサー)1世、フランス王フィリップ2世に「臣従の誓い」を行う
1202年8月-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー対立王「インゲ2世マクヌッソン」

1250迄 (2474件)

1202年8月9日-09:00|日本| ||建仁2年7月20日|<死去>寂蓮(64歳) 歌人、僧
1202年8月10日-01:00|オーストリア/スロベニア| ||<死去>ケルテン公「ウルリッヒ2世」
1202年8月10日-01:00|オーストリア/スロベニア| ||<即位>ケルテン公「ベルンハルト」(~12560104死去)
1202年8月11日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁2年7月22日|<任命>鎌倉幕府第2代征夷大将軍「源頼家」
1202年8月19日-07:00|ベトナム| ||大越・天嘉宝祐1年8月|大越・李朝の高宗李龍翰が天嘉宝祐と改元(~1205年旧3月)
1202年9月13日-09:00|日本| ||建仁2年8月26日|<死去>守覚法親王(53歳) 後白河天皇の皇子、真言宗の僧
1202年10月7日-09:00|日本|愛知県稲沢市|建仁2年9月20日|沙弥行西ら、仏師僧寛慶に尾張国無量光院の阿弥陀三尊坐像を造立させる
1202年11月12日-01:00|デนมาร์ク| ||<死去>デนมาร์ク王「クヌズ6世」(誕生1168年)
1202年11月12日-01:00|デนมาร์ク| ||<即位>デนมาร์ク王「ヴァルデマー2世」シュレースヴィヒ公、ヴァルデマー1世とミンスク公女ソフィアの次男(~12410328死去70歳)
1202年11月15日-01:00|イタリア/セルビア| ||第4回十字軍がザラを占領
1202年11月23日-01:00|クロアチア/イタリア| ||ザダルは第4回十字軍でヴェネツィアに破壊された
1203年-08:00|モンゴル| ||テムジンがケレイトのオン・ハーンを降し、ナイマンのダヤン・ハーンを滅ぼす(~1204)
1203年-07:00|ベトナム/カンボジア| ||クメール・カンボジアがチャンパを併合(~1220年)
1203年-05:30|インド| ||<即位>チャンドラ朝国王「Trailokya-Varman」(~1245年)
1203年-05:30|インド| ||東ベンガルの仏教寺院がゴール朝のイスラム軍によって破壊
1203年-04:00|ロシア| ||<死去>ムロム公「ウラジミール・ユリエヴィチ」
1203年-04:00|ロシア| ||<即位>ムロム公「イゴリ・ユリエヴィチ」(~)
1203年-02:00|ウクライナ| ||<復位>ウシコト公「ヤロスフ・ウラジミロヴィチ」(~1205年)
1203年-01:00|フランス| ||<死去>レヌ公・レヌ伯・ナント伯「Arthur」
1203年-01:00|ドイツ| ||<就任>ネーデルラント伯「ヴァルデマー2世」デนมาร์ク王(~12270722)
1203年-01:00|ドイツ| ||<退任>ネーデルラント伯「アドルフ3世」ネーデルラントをヴァルデマー2世に譲渡
1203年-01:00|チャド/ニジェール| ||西アフリカでカヌーおよびボート、セファロイドの支配下に置かれる
1203年-01:00|アルバニア/イタリア| ||テュラツォをヴェネツィアが統治(ドゥラツォ公国)(~1213年)
1203年-01:00|北マケドニア/ブルガリア/コソボ| ||マケドニア(~1220年頃)、コソボ(~1246年)はブルガリアの一部
1203年 00:00|イギリス| ||<死去>3代マー伯「ジール・クリスト」
1203年 00:00|アイルランド| ||<死去>トモント王「コンチョバール・ル・アト・オー・ブリアン」
1203年 00:00|イギリス| ||<就任>4代マー伯「トノホー」(~1244年死去)
1203年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ガーンジー・島守護者「Gregory Balizan」(~1206年)
1203年 00:00|イギリス| ||<就任>スコットランド大法官「フーレンス・オブ・ホランド」(~1210年)
1203年 00:00|アイルランド| ||<復位>トモント王「ミューチャルタハ・ダール・オー・ブリアン」(~1210年没)
1203年 00:00|ガーナ| ||ソウ王国のマンゲルが支配権を拡大
1203年1月2日-02:00|ウクライナ| ||<復位>キエフ大公「リュリク2世」(~1204年),「ロマン・ムステイスラヴィチ」(~12050619死去),「ロキスラフ2世」(~1206年)
1203年2月8日-09:00|日本|京都府京都市|建仁2年12月25日|<就任>摂政: 九条良経(~元久3年3月7日在官中に薨御)
1203年2月11日-04:30|アフガニスタン| ||<死去>ゴール朝スルタン「ギヤースッディーン・ムハンマド(2世)」
1203年2月14日-09:00|日本| ||建仁3年|<任命>伊予国守護「佐々木盛綱」(~不詳)
1203年2月14日-09:00|日本|愛媛県西条市|建仁3年|忽那兼平、風早郡忽那島に長福寺を建立
1203年4月3日-01:00|フランス/イギリス| ||<死去>ブルターニュ公・アンジュー伯・メヌ伯「アルテュール1世」イングランド王位継承者アーサー・オブ・ブリタニー、ジョン王派によって暗殺される/16歳
1203年4月3日-01:00|フランス/イギリス| ||<即位>ブルターニュ公「アリックス」兼リッチモンド女伯「アリックス・ド・トゥール」コンスタンス女公とキート・トゥールの娘(~12211021死去21歳)
1203年4月26日-09:00|日本| ||建仁3年3月13日|<死去>静恵法親王(40歳) 後白河天皇の皇子
1203年6月-02:00|イスラエル/パレスチナ| ||<就任>聖ヨハネ騎士団「ゲイアン・フェルナント・アフォンソ・デ・ポルトガル」(~1206年辞任)
1203年6月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年5月19日|源頼家、父頼朝の弟阿野全成を謀反の疑いで大倉御所に監禁
1203年7月5日-09:00|日本|茨城県|建仁3年5月25日|阿野全成(頼朝の弟)は常陸国へ配流
1203年7月12日 00:00|イギリス| ||<死去>サリ女伯「イザベル・ド・ワレン」
1203年7月18日-02:00|トルコ| ||<廃位>東ローマ皇帝「アレクシオス3世アンゲロス」(~1211年死去)
1203年7月18日-02:00|トルコ| ||<復位>東ローマ皇帝「イサキオス2世アンゲロス」息子のアレクシオス4世に助け出され復位(~12040128死去)
1203年7月18日-02:00|トルコ| ||第4回十字軍がコンスタンチノープルを攻撃開始
1203年8月1日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ皇帝「アレクシオス4世アンゲロス」イサキオス2世アンゲロスとアントーニコス1世コムネノスの娘エイレネの子、共同皇帝として(~12040208死去)
1203年8月1日-09:00|日本|茨城県|建仁3年6月23日|源頼家の命により八田知家が阿野全成(頼朝の弟)を誅殺
1203年9月2日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建仁3年7月25日|京にいた阿野頼全(頼朝の弟阿野全成の子)が東山延年寺で誅殺される
1203年9月10日-09:00|日本| ||建仁3年8月4日|<任命>土佐国守護「三浦義村」(~延応元(1239)年12月5日死去)
1203年10月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年8月27日|源頼家の容体が危篤と判断されたため家督継承措

1250迄 (2474件)

置、関西三十八か国の地頭職は弟の千幡に、関東二十八か国の地頭職並びに諸国惣守護職が嫡男の一幡によって継承

1203年10月8日-09:00|日本| ||建仁3年9月2日以降|<任命>信濃国守護「北条義時」(~1221年)

1203年10月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年9月2日|<死去>信濃国守護「比企能員」北条時政邸で天野遠景・仁田忠常に謀殺される

1203年10月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年9月2日|<比企能員の乱>北条政子の命により北条義時を大将とする北条泰時、平賀朝雅、小山朝政、同宗政、同朝光、畠山重忠、榛谷重朝、三浦義村、和田義盛、同常盛、同景長、土肥維平、後藤左衛門尉信康、所右衛門尉(藤原)朝光、尾藤知景、工藤行光、金窪行親、加藤景廉、同景朝、仁田忠常らの軍勢が一幡(源頼家嫡男)の邸である小御所に立て籠もった比企一族(能員の子比企三郎、同四郎時員、同五郎、猶子の河原田次郎、娘婿の笠原十郎親景、中山為重、糟屋有季)を攻め、比企側は館に火を放ち自決し、一幡も炎の中で死んだ。能員の嫡男比企余一郎兵衛尉は女装して戦場を抜け出したが、道中で加藤景廉に首を取られた。夜に入って能員の舅河兼忠が誅殺された

1203年10月9日-09:00|日本|千葉県|建仁3年9月3日|比企能員与党の探索が行われ、能員妻妾ならびに能員の末子である2歳の男子は和田義盛に預けられ、安房国へ配流となった

1203年10月10日-09:00|日本| ||建仁3年9月4日|<解任>若狭国守護「津々見忠季」比企能員の變に連座所領没収

1203年10月10日-09:00|日本| ||建仁3年9月4日|<解任>大隅・薩摩・日向国守護「島津忠久」比企能員の連座でを没収

1203年10月10日-09:00|日本| ||建仁3年9月4日|<任命>薩摩国守護「北条時政」

1203年10月10日-09:00|日本| ||建仁3年9月4日以降|<任命>若狭国守護「北条義時」(~1220年)

1203年10月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年9月6日|比企能員追討の恩賞のため、仁田忠常が時政の名越邸に呼ばれるが、帰宅の遅れを怪しんだ忠常の弟達が北条義時の元へ押しかけ、忠常と弟2人は誅殺された

1203年10月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建仁3年9月7日|頼朝・政子次男千幡(實朝)12歳に征夷大將軍の勅許/鎌倉殿(鎌倉幕府)3代將軍

1203年10月16日-09:00|日本| ||建仁3年9月10日|<就任>初代鎌倉幕府執権「北條時政」(~元久2年閏7月19日)

1203年11月4日-01:00|オランダ| ||<死去>ホント伯「デイル7世」

1203年11月4日-01:00|オランダ| ||<就任>ホント伯「Ada」(~1207年),「Louis2世」(~1206年),「ウィルム1世」(~12220204死去)

1203年11月4日-09:00|日本|静岡県伊豆市|建仁3年9月29日|源頼家が北条時政に修善寺に幽閉される

1203年11月8日-09:00|日本| ||建仁3年10月3日|<任命>京都守護・山城国守護「平賀朝雅」(~元久2年(1205年)閏7月26日)

1203年11月8日-09:00|日本|奈良県奈良市|建仁3年10月3日|運慶と快慶が東大寺南大門の金剛力士像二体を完成

1203年11月30日-09:00|日本| ||建仁3年10月25日|<再任>薩摩・大隅・日向国守護「島津忠久」(~嘉禄3(1227)年6月8日死去、以後、忠時、久経、忠宗、貞久と続く~1336年)

1203年12月5日-01:00|フランス/イギリス| |||意欲を失ったイングランド王ジョンがフランス王に圧迫され、ノルマンディを離れイングランドへ向かう/ジョンはこののち再びノルマンディに戻ることはなかった

1204年-05:30|インド| |||チョーラ朝のクロートゥンガ3世がパンディア朝に遠征

1204年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>西カラハーン朝ハーン「Uthman Ulugh Sultan」(~1212年)

1204年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャー朝国王「Fariburz2世」

1204年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャー朝国王「Farrukhzad」(~1204年死去)⇒「Gushtasb1世」(~1225年死去)

1204年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Malik Hazarasp」(~1248年)

1204年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<死去>チェルニヒウ公「オルグ・スガヤトスラウイチ」

1204年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクソス公「マルコ1世サヌート」(~1227年)

1204年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロスの専制君主「ミハイル1世コムニノス・ドゥーカス」(~1215年)

1204年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「フセヴォロド・スガヤトスラウイチ」(~1206年退位)

1204年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサロニキ王国国王「ボニファチオ1世・ディ・モンフェラート」建国(~12070904戦死)

1204年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ノヴゴロド・セヴェルスキー公「グレブ・スガヤトスラウイチ」(~1212年)

1204年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルターン「クルチ・アルスラン3世」(~1205年死去)

1204年-02:00|ギリシャ| |||<即位>ロドス島とキクラデス諸島の帝王・領主「レオ・カバラス」(~1240年死去)

1204年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||キクラデス諸島はヴェネツィアの保護領(~1248年)

1204年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||テオドシア(フェオドシア[カファ])はヴェネツィア共和国統治下(~1261年)

1204年-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯「Renaud1世」ダマルタン伯(~1214年)

1204年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ヒッポリュトス」(~同年)

1204年-01:00|ドイツ| |||<就任>ニュルンベルク城伯「フリートリヒ2世」(~1218年)

1204年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ボスニア・ハン「ステファン・クリニッチ」(~1232年)

1204年-01:00|フランス| |||<就任>モルテン伯「Ida」(~1216年死去)「Renaud de Dammartin」(~1216年)

1204年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア大公「ステファン・フルウグエンチャニ」(⇒12170808、セルビア王ステファン1世~12280924、死去)

1204年-01:00|アルバニア/ギリシャ| |||ブトリントはエピロス専制君主領(イペイロス)の一部

1204年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>フランス領ジャージー島守護者代理「Hasculf du Suligny」(⇒1206、守護者~1212.11)

1204年 00:00|イギリス| |||<剥奪>アルスター王権伯「サー・ジョン・ド・クルシー」

1250迄 (2474件)

1204年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ジャージーをフランスが占領(〜同年)
1204年1月1日-01:00|ノルウェー| |||<死去>ノルウェー王「ハコン3世スヴェレソン」反国王派によって暗殺される
1204年1月1日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王代行「ハコン・フォルクヴァイト・ソン・ガレス狂王」(〜同日)
1204年1月2日-01:00|ノルウェー| |||<就任>ノルウェー摂政「ハコン・フォルクヴァイト・ソン・ガレス」(〜8. 11)
1204年1月2日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「グットム・シグルトソン」(〜8. 11没)
1204年1月28日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ皇帝「アレクシオス4世アンゲロス」と先々帝で父親の「イサキオス2世アンゲロス」、十字軍に不満を持つ次帝アレクシオス5世ドゥーカスによって殺害される
1204年1月28日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ皇帝「アレクシオス5世ドゥーカス(濃い眉毛)」アレクシオス3世の娘エウドキアの婿(〜12040413第4回十字軍にコンスタンティノポリスを攻撃され逃亡〜1204. 11殺害される)
1204年2月3日-08:00|中国| |||大理・元寿2年|<死去>後大理第5代皇帝「英宗亨天帝(段智廉)」
1204年2月3日-08:00|中国| |||大理・元寿2年|<即位>後大理第6代皇帝「神宗永惠帝(段智祥)」(〜1238年譲位)
1204年2月7日-09:00|朝鮮| |||高麗・泰和4年1月5日|<即位>第21代高麗王「熙宗」(〜12120130)
1204年2月7日-09:00|朝鮮| |||高麗・泰和4年1月5日|<退位>第20代高麗王「神宗」(2. 15死去)
1204年3月6日-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ペレンガリア・オブ・サヴァール」(〜12301223死去)
1204年3月6日-01:00|フランス| |||<廃位>ノルマンディー公・メヌ伯「ジャン」(イングランド王ジョン次子地王)フィリップ2世によってノルマンディー公領(チャンネル諸島を除く)を奪われる
1204年3月6日-01:00|フランス| |||ノルマンディーでのアンジュー家の勢力の象徴だったがイール城が陥落/フランス王フィリップ2世(尊厳王)、イギリス領「ノルマンディー」を征服
1204年3月23日-09:00|日本| |||元久1年2月20日|「元久」に改元
1204年4月-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾンド帝国初代皇帝「アレクシオス1世」(〜12220201死去)東ローマ皇帝アンドロニコス1世コムネノスの孫アレクシオス・コムネノスが小アジア北東部のトレビゾンドを占領して建国
1204年4月-02:00|ウクライナ/トルコ| |||トレビゾンド帝国がカファとガザリア南海岸を支配(〜14610815)
1204年4月1日-01:00|フランス| |||<死去>アキテーヌ公「アリエノール」
1204年4月1日 00:00|イギリス| |||<死去>リチャード獅子心王とジョン王の母アリエノール・ダキテーヌ(誕生: 1122)
1204年4月10日-09:00|日本| |||三重県|元久1年3月9日|伊賀国・伊勢国で平家の者がそれぞれ蜂起し、守護人を追い出し、両国を占拠
1204年4月12日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(アンゲロス朝)「コンスタンティノス・ラスカリス」(〜1211年頃)
1204年4月13日-02:00|トルコ/ギリシャ| |||<退位>東ローマ皇帝「アレクシオス5世ドゥーカス(濃い眉毛)」第4回十字軍にコンスタンティノポリスを攻撃され逃亡(〜1204. 11殺害される)
1204年4月22日-09:00|日本| |||三重県|元久1年3月21日|平賀朝雅が伊賀・伊勢の平氏の残党を平定(三日月氏の乱)
1204年5月9日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「ボートゥアン1世」エノ伯ボートゥアン5世とフランドル女伯マルグリットの息子(〜1205年死去33歳)十字軍の指導者によって皇帝選挙が行われ、フランドル伯ボートゥアン9世がボニファースト・ドゥ・モンフェリエに勝ってラテン帝国建国
1204年5月16日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||アトスはラテン帝国の一部(テサロニア王国内〜1222年)
1204年5月18日-08:00|中国/モンゴル| |||金・泰和4年4月17日|テムジンが軍の攻撃でナイマン軍は潰走/ナイマン兵はフリスバチが死んでヤンハンが捕らえられと降服、ナイマンに附いていたがキ人、サルジュート人、トルバン人、ジャムが率いていたジャタルン族が降伏/ナイマンの王子ケルクは西遼へ逃れた/ヤンハン首を斬られナイマン王国はここに滅亡
1204年6月-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー対立王「アーリング・マク・ナッソ・スタインベック 石壁王」(〜1207年6月没)
1204年6月9日-09:00|日本| |||元久1年5月10日|<任命>伊賀・伊勢国守護「平賀朝雅」(〜元久2(1205)年8月2日死去)
1204年6月24日-01:00|フランス| |||ノルマンディー(ジャージーの南にあるジョージ諸島を含む)がフランスの支配に戻った/チャンネル諸島は英国の領地のまま
1204年6月24日-01:00|フランス| |||ルーンの守備隊長ピエルト・プレオがフィリップにルーンを明渡す
1204年8月11日-01:00|ノルウェー| |||<死去>ノルウェー王「グットム・シグルトソン」
1204年8月11日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「インゲ2世ボールドソン」(〜12170423没)
1204年8月12日-02:00|ギリシャ/イタリア| |||ボニファティウスがクレタ島のヴェネツィア共和国への割譲に署名
1204年8月12日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<死去>イストリア辺境伯・カルニオラ辺境伯「Berthold2世」
1204年8月12日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯「Henry2世」兼カルニオラ辺境伯「Henry」(〜12280718死去)
1204年8月14日-09:00|日本| |||静岡県伊豆市|元久1年7月18日|<死去>前將軍「源頼家」修善寺で北条時政の手の者に入浴中を襲われ殺される/23歳(誕生: 寿永1(1182)0812)
1204年8月26日-01:00|クロアチア| |||<即位>クロアチア王「ラディスラフ3世」Emericの息子(〜12050507死去)
1204年10月1日-09:00|日本| |||元久1年9月7日|<就任>鎌倉幕府3代將軍「源実朝」(〜12190127)
1204年10月21日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「ロバート・ド・ホーモン」
1204年10月25日-08:00|中国| |||西遼・天禧28年10月|西遼、アントゴド(アントフィ、アフガニスタン北部)でゲール(ゴール、アフガニスタンの王朝)軍に勝つ
1204年11月30日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー・クロアチア王「イムレ1世」
1204年11月30日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国摂政「タルメシアン公アントラーシュ」(⇒12050529、ハンガリー・クロアチア王)
1204年11月30日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王「ラースロ3世」兼クロアチア王「ラディスラフ3世」イムレ1世の長男(〜12050507没)
1204年12月12日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯「ワラン・ド・ホーモン」
1204年12月12日 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯「ヘンリー・ド・ホーモン」先代の子(〜12291010死去)

1250迄 (2474件)

1204年12月22日-09:00|日本| ||元久1年11月30日|<死去>藤原俊成(91歳/皇太后宮大夫・右京大夫、歌人)
1205年-06:30|ミャンマー| ||<即位>アラン国王「スエシ」(~1206年)
1205年-05:30|インド| ||<建国>シブム国(ホラハット国前身)
1205年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||<死去>東カラハン朝ハーン「Yusuph bin Muhammad」
1205年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||<即位>東カラハン朝ハーン「Ebul Feth Muhammad」(~1211年)
1205年-04:00|ロシア| ||<即位>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「コンスタンチン・フセヴォロドヴィチ」(~1207年)
1205年-03:30|イラン| ||<即位>ハバント朝太守「Rustam5世」(~12100401殺される)
1205年-03:30|イラン| ||<退位>ハバント朝太守「Ardashir1世」
1205年-02:00|トルコ| ||<死去>ラテン帝国皇帝「ボートゥアン1世」33歳
1205年-02:00|トルコ| ||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「クルチ・アルスラン3世」
1205年-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ皇帝「コンスタンティノス・ラスカリス」(~在位たった一晩で逃亡)⇒「テオドロス1世ラスカリス」コンスタンティノス・ラスカリスの弟(~1222.12)付き従った一団を率いて、ビテュニアに赴いてカイアに定住。東ローマ帝国の亡命政権としての「カイア帝国」を樹立
1205年-02:00|ギリシャ| ||<即位>カイア公「ギョム1世・ト・シャシリット」建国(~1208年9月・母国帰還のため譲位)
1205年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アネ公国(ラ・ロッシュ家)「オット・ラ・ロッシュ」建国(~1225年)
1205年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ウイニコロド公「ロズスラフ・リュリコヴィチ」(~1207年)
1205年-02:00|ギリシャ| ||<即位>エピロス専制公「ミカエル1世コムネノストゥーカス」(~1215年暗殺される)ギリシャ西岸の街アルタを首府としてエピロス専制侯国を形成
1205年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ガリチ・ヴォルィニ公「ダニール・ロマノヴィチ」(~1206年)
1205年-02:00|トルコ| ||<復位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイクスロ1世」(2回目~1210年死去)
1205年-02:00|ギリシャ| ||アトス山は「第四次」十字軍のメンバーによって一時的に占領される
1205年-01:00|フランス/オランダ/ベルギー| ||<死去>フランドル伯「ボートゥアン9世」兼エノー伯「ボートゥアン6世」
1205年-01:00|フランス| ||<死去>ブルゴニュー伯「ジャン1世」
1205年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第42代ドージェ(元首)「ピエトロ・ツィアニ」(~1229年)
1205年-01:00|クロアチア| ||<就任>クロアチア・ハン「メルクリウス・グトレド」(~1206年)
1205年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「ベネイクト」(同年)⇒代行「ジュ」(~1206年)
1205年-01:00|フランス/ベルギー| ||<就任>フランドル伯「ジャン1世」(~12441205死去)
1205年-01:00|フランス| ||<就任>ブルゴニュー伯「ベアトリス2世」ジャン1世の妹(~12310507死去)
1205年-01:00|イタリア| ||<即位>スレート公「ヘンリー」(~1205年)
1205年-01:00|ポーランド| ||<即位>ペレミシュリ公「スヴァトスワフ・イェゴレヴィチ」(~1211年)
1205年-01:00|フランス| ||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリー1世」(~12060407死去)
1205年-01:00|クロアチア/イタリア| ||ラゲザはヴェネツィアの主権下(~13580218)
1205年 00:00|ギリシャ| ||<就任>アルスター伯「ヒュー・ド・レイシ」(~1243年)
1205年1月22日-09:00|日本| ||元久2年|<任命>伯耆国守護「金持広親」(~不詳)⇒次に「北条時輔」が就任(~文永9(1272)2月15日誅殺される)
1205年1月22日-08:00|中国| ||大理・天開1年|後理国の段正祥が天開(-1225年)と改元
1205年1月22日-08:00|モンゴル| ||チンギス・ハーンがサヤン部を滅ぼす
1205年1月22日-08:00|中国| ||宋・開禧1年1月1日|南宋の寧宗が開禧(-1207年)と改元
1205年1月23日-08:00|中国| ||宋・開禧1年1月2日|宋、兵を起こす
1205年2月7日-01:00|ポーランド| ||<就任>ボヘミア公「ムシュイ1世」(~12200701死去)
1205年3月-01:00|フランス| ||<死去>サン＝ホル伯「ユグ4世」
1205年3月-01:00|フランス| ||<就任>サン＝ホル伯「コージェ3世」(~1219.10死去)
1205年3月17日-02:00|ギリシャ| ||<即位>カイア帝国皇帝「テオドロス1世ラスカリス」建国(~1221年11月)
1205年3月19日-09:00|日本| ||元久2年2月27日|<死去>藤原隆信(64歳)左京権大夫、絵師
1205年3月22日-07:00|ベトナム| ||大越・治平龍応1年3月|大越・李朝の高宗李龍翰が治平龍応と改元(-1210年)
1205年4月1日-02:00|パレスチナ/キプロス| ||<死去>エルサレム王・キプロス国王「エメリー・ド・リュジニヤン」
1205年4月1日-02:00|キプロス| ||<就任>キプロス王国摂政「ゴージェ・ド・モンベリアール」(~1210年9月)
1205年4月1日-02:00|キプロス| ||<即位>キプロス王国国王「ユグ1世」(~12180110死去)
1205年4月5日-02:00|パレスチナ| ||<死去>エルサレム国王「イザベル1世」33歳
1205年4月5日-02:00|イスラエル/パレスチナ| ||<即位>エルサレム国王「マリ・ア」コンラート1世とイザベル1世の娘(12101003からジャン1世と共同統治~1212年死去20歳)
1205年4月14日-02:00|ブルガリア/トルコ| ||ブルガリア人がアンドリノブルでコンスタンチノールのラテン帝国皇帝ボートゥアンを破り、捕虜とボートゥアンは翌年獄死
1205年4月14日-01:00|オランダ/ベルギー/フランス| ||<死去>エノー伯「ボートゥアン6世」兼フランドル伯「ボートゥアン9世」
1205年4月14日-01:00|フランス| ||<死去>シャトル伯・ブワ伯「Louis1世」
1205年4月14日-01:00|オランダ/ベルギー/フランス| ||<就任>エノー伯・フランドル伯「ジャン」(~12441205死去)
1205年4月14日-01:00|フランス| ||<就任>シャトル伯・ブワ伯「Theobald6世」(~1218年死去)
1205年4月16日-09:00|日本| ||元久2年3月26日|<完成>「新古今和歌集」(後鳥羽院の命で藤原定家らが編纂した勅撰和歌集)全二十巻
1205年4月27日-09:00|日本|滋賀県|元久2年4月7日|<出家>近江国守護「佐々木定綱」(次に広綱が継ぎ、信綱、泰綱、頼綱、時信と続く~1333年)
1205年4月29日-09:00|日本|滋賀県|元久2年4月9日|<死去>前近江国守護「佐々木定綱」(64歳)

1250迄 (2474件)

1205年5月7日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王「ラースロー3世」兼クロアチア王「ラド・イスラフ3世」
1205年5月29日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王「アント・ラシュ2世」兼クロアチア王「アント・リヤ2世」ダールメシアン公アント・ラシュ/イム1世の弟(〜12350921死去)
1205年6月19日-02:00|ウクライナ/ポーランド/ロシア| |||<死去>キエフ大公「ロマン・ムスチスラフ・イチ」ポーランド王国ピャスト朝の国王レシェク1世と戦って戦死
1205年6月19日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「リュリク2世」(〜1206年)
1205年7月4日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯「オットー2世」
1205年7月4日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク辺境伯「アルブレヒト2世」オットー2世の弟(〜12200225死去)
1205年7月10日-09:00|日本|神奈川県横浜市|元久2年6月22日|<武蔵二俣川の合戦>畠山重忠の嫡子重保が由比浦付近にて北条時政の命を受けた三浦義村に討たれ、畠山重忠も二俣川[神奈川県横浜市]において討たれた(42歳)
1205年7月11日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元久2年6月23日|夕方、鎌倉内で畠山重忠の同族で討伐軍に加わっていた稲毛重成父子、榛谷重朝父子が重忠を陥れた首謀者として三浦義村らによって殺害された
1205年9月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>ガーンジー島をフランスが占領(〜1206. 7)
1205年9月4日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元久2年閏7月19日|<牧氏事件>北条時政が源実朝を殺害し後妻牧の方の女婿平賀朝雅を将軍にたてようとしたが、政子・義時に阻止される
1205年9月5日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元久2年閏7月20日|<解任>鎌倉幕府執権「北条時政」伊豆に下向させられる
1205年9月5日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|元久2年閏7月20日|<就任>2代鎌倉幕府執権「北条義時」(〜元仁1年6月13日)
1205年9月15日-09:00|日本| ||元久2年8月|<任命>伊勢国守護「大内惟信」(〜承久3(1221)年)
1205年9月16日-09:00|日本|京都府京都市|元久2年8月2日|<死去>伊賀・伊勢国守護「平賀朝雅」北条義時の命によって誅殺された
1205年11月14日-09:00|日本|滋賀県大津市|元久2年10月2日|延暦寺諸堂焼失
1205年11月22日-09:00|日本| ||元久2年10月10日|<任命>京都守護・山城国守護「中原季時」(〜建保7(1219)年正月28日)
1205年12月 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>オルダニー島、サーク島はフランスのユースタス・ザ・モンクの軍により占領(〜1206. 4)
1206年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ミンカウ1世」(〜1207年)
1206年-05:30|インド| |||<即位>セーナ朝国王「ウ・イシュヴァール・セーナ」(〜1225年)
1206年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝ハミヤーン・マリク「ジャラルッディーン・アラー」(〜1215年)
1206年-04:00|アルメニア| |||<即位>シャー=アルメニス「Izzeddin Balaban」(〜1207年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<再任>オルダ公「リュリク・ムスチスラフ・イチ」(〜1207年)
1206年-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「デヴィアン「ジョフロワ・ル・ラット」(〜12070522没)
1206年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>クレタ島ジェノヴァ総督「マルティン・オブ・マルタ」(〜1211年)
1206年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「スマラク」(〜1208年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヴォルギーニ公「スヴャトスラフ・イゴレヴィチ」(〜1207年公位再分割)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ウラジミール・イゴレヴィチ」(〜1208年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「フセヴォロド4世」(〜1207年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>スヴャトニコロド公「ロマン・イゴレヴィチ」(〜1211年廃位)
1206年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「Gleb1世・スヴャトスラフ・イチ」(〜1215年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ベルゴロド公「ムスチスラフ・ロマノヴィチ」(〜1206年)
1206年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレヤスラヴリ公「ミハイル・フセヴォロドヴィチ」⇒「ウラジミール・リュリコヴィチ」(〜1213年)
1206年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<退任>チェルニヒウ公「フセヴォロド・スヴャトスラフ・イチ」
1206年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||ジェノヴァがイラクレーイ(イラクリオン)とクレタ島の大部分を占領(〜1211年)
1206年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴァイマル=オラミュンデ伯「アルブレヒト2世」(〜1245年)実際の統治は行っていない、「ヘルマン2世」(〜1247年)
1206年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「スティヴン・ミハリエフ」(〜1207年)
1206年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パタイン「ミクロシュ」(〜同年)⇒「モグ」(4回目〜1209年)
1206年-01:00|フランス| |||<就任>ルシヨン伯「Sancho」(〜1223年死去)
1206年-01:00|ポーランド| |||<退任>ポーランド公「ウラディスワフ3世ラスコギ」ウ・エルコフスカ公(〜12311103死去)
1206年-01:00|ポーランド| |||<復任>ポーランド公「レシェク1世ピャウ」(〜1210年退任. 12271124死去)
1206年 00:00|イギリス| |||イギリスのジョン王がアキテーヌ南部を除く大陸の所領を失う
1206年2月10日-09:00|日本|山口県山口市|元久3・建永1年|大内氏18代満盛が山口白石の地に宝珠山瑞雲寺創建(→瑞雲山龍福寺、山口県山口市)
1206年2月10日-08:00|モンゴル| ||元・太祖1年|(春)テムジンがモンゴリアを統一し、チンギス・ハーンを称して即位(〜1227)「大蒙古国」の建国を宣言
1206年2月12日-09:00|日本| ||元久3年1月3日|<死去>田中道清(38歳) 社僧、歌人
1206年3月1日-08:00|中国| ||西夏・応天1年1月20日|<死去>西夏第6代皇帝「桓宗(昭簡皇帝) 李純佑」
1206年3月1日-08:00|中国| ||西夏・応天1年1月20日|<即位>西夏第7代皇帝「襄宗(敬穆皇帝) 李安全」(〜1211年8月12日) 応天(〜1209)と改元
1206年3月11日-08:00|中国| ||元・太祖1年2月|<即位>モンゴル帝国初代皇帝「太祖チンギス・ハーン」(〜太祖22年7月12日1227年8月25日) イェスゲイの長男

1250迄 (2474件)

1206年3月15日-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ゴール朝スルターン「シハーブッディーン・ムハンマド (3世)」暗殺される
1206年3月15日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝スルターン「ギヤースッディーン・ムフムート」ギヤースッディーン・ムハンマドの子 (~1210年退位) 兼ゴール朝ゴール・アミール (~1212年死去)
1206年4月7日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ (ロートリンゲン) 公「フェリ1世」
1206年4月7日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ (ロートリンゲン) 公「フェリ2世」 (~12131010死去)
1206年4月7日-09:00|日本|和歌山県田辺市|元久3年2月28日|紀伊国熊野本宮焼失
1206年4月14日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝ボートゥアン1世 (誕生:1171)
1206年4月16日-09:00|日本|京都府京都市|元久3年3月7日|<死去>九条良経 (38歳) 摂政・太政大臣
1206年4月19日-09:00|日本| ||元久3年3月10日|<就任>摂政「近衛家実」
1206年6月5日-09:00|日本| ||建永1年4月27日|「建永」に改元
1206年6月7日-09:00|日本| ||建永1年4月29日|<死去>恒恵 (48歳) 後白河天皇の皇子、僧
1206年6月18日-08:00|中国| ||金・泰和6年5月11日|金、宋を攻める
1206年6月25日-05:30|インド| |||<即位>マムルーク朝スルターン「クトゥブッディーン・アイバク」 (~12101210死去) デリーを都にして創始 (インド・イスラム王朝始まる)
1206年7月-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「アンリ」エノー伯ボートゥアン5世とフランドル女伯マルグリットの息子 (~12160611死去42歳)
1206年7月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領カーンジー-島守護者「Pierre de Preaux」 (~1207年)
1206年7月27日-01:00|ドイツ| |||シュヴァーベンのフィリップが、ワゼンブルクで対立皇帝のオットー4世を破る
1206年8月1日-02:00|ブルガリア/トルコ| |||コンスタンティノールのラテン帝国第2代皇帝アンリ・ド・エノーがブルガリア人を破る
1206年12月9日-09:00|日本|京都府京都市右京区|建永1年11月8日|明恵が後鳥羽上皇の命をうけ荒廃していた度賀尾寺を華嚴宗道場として再興し高山寺創建<真言宗御室派系>/京都府
1207年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ミンカウ2世」 (~1208年)
1207年-04:00|ロシア| |||<即位>ポロツク公「ミハイル・フセヴォド・ウイチ」⇒「イジヤスラフ・ウラジミロウイチ」⇒「オレグ・ウラジミロウイチ」 (~1217年以前死去) ⇒<復位>「ミハイル・フセヴォド・ウイチ」 (~1217年殺害される)
1207年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「コンスタンチン・フセヴォド・ウイチ」 (~1218年)
1207年-04:00|ロシア| |||<退位>リャザン公「ロマン1世ゲレボウイチ」 (~1210年死去)
1207年-04:00|ロシア| |||<復位>ノヴゴロド 共和国ノヴゴロド 公「スヴャトスラフ・フセヴォド・ウイチ」 (~1210年)
1207年-04:00|ロシア/モンゴル| |||タヌ・トウグアをモンゴルが支配
1207年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「ヴァルダ・ンルース・イブン・ランギヤル」 (~1219年)
1207年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ピンスク公「ウラジミール・スヴャトホロウイチ」 (~1228年以前)
1207年-02:00|ウクライナ| |||<再々位>オウグルチ公「リュリク・ロスチスラウイチ」 (~1208年)
1207年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヴォルィニ公「アレクサンドル・フセヴォド・ウイチ」 (~1209年)
1207年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ハルィチ公 (チルニコフ・オレグ 家) 「ロマン・イェゴレウイチ」 (~1209年)
1207年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヘルス公「ヴァシリコ・ロマノウイチ」 (~1211年)
1207年-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「リュリク2世」 (~1210年)
1207年-01:00|オランダ| |||<死去>ゲルデルン伯「オットー1世」
1207年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルデルン伯「ゲルハルト3世 (ヘルト3世)」 (~12291022死去)
1207年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>ユーリト伯「ヴィルヘルム3世」 (~1219年)
1207年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Federico Wanga」 (~1218年)
1207年 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「シモン・ト・モンフォール」 (~12180625死去)
1207年1月7日-09:00|日本| ||建永1年12月8日|<就任>関白「近衛家実」 (~承久3年4月20日)
1207年1月30日-09:00|日本| ||建永2年|<任命>筑後国守護「大友能直」 (~建暦3 (1213) 年)
1207年1月30日-08:00|モンゴル| |||チンギスハンはモンゴル帝国周辺の征服に乗り出す/ジュチはシベリアのタイガ (針葉樹林帯) に暮らすブリヤートを降伏させ、同じくタイガに暮らすバルクン族、ウルス族、カフカス族、カカス族などを次々と下した/キギスは使節を送って降伏/ゲラはアルタイの山を越えてカウト族を降伏させた/ボロクは北シベリアへ向かって進軍し罌にかかって首を突き刺されて殺された/トクンはトマツ族を制圧
1207年2月2日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガニア帯剣騎士団団長「グイン・フォン・ローバツァ」 (~1209年死去)
1207年2月10日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ウインチェスター伯「サード・ウインシー」 (~12191103死去)
1207年3月9日-09:00|日本| ||建永2年2月9日|<死去>遵西 (不明)・住蓮 (不明) 浄土宗の僧. 後鳥羽上皇の女房が出家に走った件を罪に問われ、斬首刑
1207年3月18日-09:00|日本| ||建永2年2月18日|後鳥羽上皇、専修念仏を禁止し、法然・親鸞を土佐・越後に配流
1207年4月29日-09:00|日本| ||建永2年4月|<任命>武蔵国守護「北条時房」 (~1239年)
1207年5月3日-09:00|日本| ||建永2年4月5日|<死去>九条兼実 (公卿・九条家の祖、59歳)
1207年5月3日-09:00|日本|京都府京都市|建永2年4月5日|京都大火/五条坊門室町より出火、東西洞院、三条坊門町辺まで焼亡、六角堂焼亡
1207年5月22日-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「ゲラン・ド・モンタイユ」 (~12271111)
1207年5月28日-09:00|日本|京都府京都市|建永2年4月30日|京都大火/六条坊門室町より出火、大宮、五条坊門の間焼亡
1207年6月-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー対立王「アーリング・マグナツ・スタインベック」 石壁王
1207年6月-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー対立王「フィリップ・ス・モンソン」 (~1208年10月)
1207年6月6日-09:00|日本| ||建永2年5月9日|<死去>宮内卿局 (不明) 歌人
1207年7月20日-09:00|日本| ||建永2年6月24日|<死去>和泉・紀伊両国守護「佐原義連」 後鳥羽上皇御計となる

1250迄 (2474件)

1207年7月29日-09:00|日本|広島県廿日市市|建永2年7月3日|安芸国厳島社焼失
1207年8月 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領グレンジー-島守護者「Philippe d'Albini1世」(~1212年)
1207年9月4日-02:00|ギリシャ| |||<死去>テッサロニキ王国国王「ボニファチオ1世・デ・イ・モンフェラート」戦死
1207年9月4日-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサロニキ王国国王「デメトリオ・デ・イ・モンフェラート」(~1224年12月、テッサロニキ王国はエピソード専制公国に併合され滅亡)
1207年9月4日-01:00|イタリア| |||<死去>モンフェラート侯「ボニファチオ1世」
1207年9月4日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェラート侯「グリエルモ6世」ボニファチオ1世の長男(~12260917死去)
1207年10月8日-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「カヤン・アッセン」
1207年10月8日-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ボリス」(~1218年)
1207年10月23日-05:00|カザフスタン/中国/モンゴル| ||元・太祖2年| (冬)キギス、モンゴルに従う
1207年10月30日-09:00|日本|京都府京都市|建永2年10月8日|夜、若宮大路から出火、数町が焼失
1207年11月16日-09:00|日本| ||承元1年10月25日|「承元」に改元
1207年11月24日-08:00|中国| ||宋・開禧3年11月3日|南宋で実権を握っていた政治家、韓侂胄が殺される(誕生152年)金との戦争に敗北し、金国より開戦責任者である韓侂胄の首級を講和条件として提示されたため
1208年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「カパラン1世」(~1209年)
1208年-05:30|スリランカ| |||<即位>ボナンタル王「Dharmasoka」(~1209年)
1208年-05:30|インド| |||チョーラ朝のクートゥンガ3世がアノントラ地方に遠征
1208年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン公「ヤロスラフ・ウラジミロヴィチ」(~1208年、ヤロスラフを含むウラジミール大公国から派遣されたナメストク(公代理)が1212年まで統治)
1208年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝ジャスィーラ・アミール「ムイッス・ツッティーン・マフムド」(~1241年)
1208年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ヤコポ・ティエポロ」(~1216年)
1208年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ベネクト」(2回目~1209年)
1208年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ロマン・ゴレヴィチ」(~1210年)
1208年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ウイッゴロド公「ロスチスラフ・リュリコヴィチ」(~1210年)
1208年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島はヴェネツィアの所有(レガノ・ティエ・カンティエ[カンティエ王国])(~16990927)
1208年-01:00|アルバニア| |||<死去>アルバノン公「ジン・ブ・ロゴニ」
1208年-01:00|アストラ| |||<死去>ウルジエ伯「Ermengol8世」
1208年-01:00|アストラ| |||<就任>ウルジエ伯「Countess Aurembiaix」(1期目~1213年)
1208年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・パン「パンク・パーニカラン」(1度目~1209年)
1208年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボヘミア・シュテティン公「ボギスラフ2世」(~12200123死去)
1208年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボヘミア・デミン公「カジミール2世」(~1219年死去)
1208年-01:00|アルバニア| |||<即位>アルバノン公「デメトリオ・ブ・ロゴニ」(~1216年、死去)
1208年 00:00|イギリス| |||南ボイスをグイネドに併合(~1282年)
1208年1月19日-09:00|日本|広島県尾道市|承元2年|この年、運慶ら作木造持国天立像(瀬戸田耕三寺蔵)成る
1208年1月19日-08:00|中国| ||西遼・天禧32年|<即位>天山ウイグル王国デイクト「バルチュク・アル・テギン」ヨスン・テムルの子(~1235年)
1208年1月19日-08:00|中国/モンゴル| ||西遼・天禧32年|ホラズム軍とカラハン連合軍がシルグ・リヤ川を渡って西遼本国へ侵攻したが、西遼軍はこれの撃退に成功。アラウッティーン・ムハンマドを捕らえて捕虜とし、再び、ホラズムとカラハンを属国とした。アラウッティーン・ムハンマドは脱獄して隠れた
1208年1月19日-08:00|中国| ||宋・嘉定1年1月1日|南宋の寧宗が嘉定(-1224年)と改元
1208年1月31日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「エリク10世」(~12160410病死)
1208年1月31日-01:00|スウェーデン| |||<退位>スウェーデン王国国王「スヴェルケル2世」(~12100710死去)
1208年2月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|承元2年1月16日|幕府の間注所が焼失
1208年2月20日-09:00|日本|奈良県桜井市|承元2年2月3日|金峰山僧徒が藤原鎌足の廟所の多武峰の堂舎・僧房を焼く
1208年5月-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<即位>ゼータ大公「ジョルジェ・ウカノヴィッチ」(~1216年)
1208年5月31日 13:00|日本|京都府京都市|承元2年閏4月15日|<京都承元2年の大火>夜の亥の刻(22時ごろ)七条大路の北側で東洞院大路の西側辺りから出火、朱雀大路に向かって北西方向に燃え広がり、夜を徹して燃え明け方ようやく鎮火/焼亡した範囲は東は東洞院大路まで、南は七条大路まで、西は朱雀大路まで、北は六条大路と東洞院大路が交差する辺りから五条坊門小路と朱雀大路が交差する辺りまで斜めに焼亡、そこから北に四条大路までを灰とし明け方鎮火/建物では坊門院範子内親王邸、前太政大臣藤原頼実邸、右大将藤原公経邸、中宮大夫三条公房邸、源大納言通光邸、新大納言藤原公経邸など20家に及ぶ公卿の邸宅が焼失、一般庶民の家などはその数がわからないほど焼け多くの人々が死亡
1208年6月11日-08:00|中国| ||金・泰和8年;宋・嘉定1年閏4月26日|金、宋と和約を結ぶ(3度目)
1208年6月21日-01:00|ドイツ/フランス/スイス| |||<死去>ドイツ王・ブルグント王「シュヴァーベン公フィリップ」フアルツ伯オットーによって暗殺される
1208年6月21日-01:00|ドイツ/フランス/オーストリア/イタリア| |||<就任>フランク・ローマ帝国宰相「マインツ大司教ジークフリート・フォン・エッブシュタイン」(~11. 11)
1208年6月21日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴーニュ伯「オトン2世」ハートリス2世の夫、アンデクス公、メーノ公(~12310507)12340507死去
1208年6月21日-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>ブルグント対立王「オットー4世」(~1215年退位)兼シュヴァーベン大公(~1212年)
1208年6月29日-09:00|日本|京都府京都市左京区|承元2年5月15日|法勝寺九重塔が雷火にかかる

1250迄 (2474件)

1208年8月1日-02:00|ブルガリア/トルコ| |||コンスタンチノープルのラテン帝国第2代皇帝アンリ・ド・ウエノーがブルガリア人を破る
1208年9月-02:00|キリシヤ| |||<譲位>アカイア公「ギョーム1世・ド・シャンリット」母国帰還のため
1208年9月-02:00|キリシヤ| |||<即位>アカイア公「ジョフロワ1世・ド・ヴァルアルト・ウアン」(~1228年)
1208年9月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「アルスター伯ヒュー・ド・レイシー」(~12月)
1208年10月29日-09:00|日本| ||承元2年9月18日|<死去>頼子内親王(64歳)鳥羽天皇の皇女
1208年11月1日-01:00|イタリア| |||<即位>ローマ王「オットー4世」(ローマ皇帝)フィリップを失脚させて後継者の地位を奪う(~12121205廃位)
1208年11月7日-09:00|日本|京都府京都市|承元2年9月27日|朱雀門焼亡
1208年11月11日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・イタリア王「オットー4世」ブルグント対立王・シュヴァーベン大公(⇒12091021、フランク・ローマ帝国皇帝)
1208年12月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「リッツ 司教ジョン・ド・グレイ」(1回目~12100620)
1208年12月29日-08:00|中国| ||金・泰和8年11月20日|<死去>金第6代皇帝「章宗(麻達葛=マダガ)」完顔璟
1208年12月29日-08:00|中国| ||金・泰和8年11月20日|<即位>金第7代皇帝「衛紹王(果繩=ガゼン)」完顔永濟・允済「(至寧元年8月25日(1213年9月11日)死去)
1209年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラン国王「カハ・ラウン2世」(~1210年)
1209年-05:30|スリランカ| |||<即位>ホ・ロンナル王「Anikanga」(~1209年)⇒「Lilavati」Parakramabahu1世の未亡人(~1210年)
1209年-03:30|イラン| |||<即位>パ・ダス・ニト 朝君主「Zarrinkamar」(~1213年)
1209年-02:00|ラトビア/エストニア| |||<死去>リグ・オニア帯剣騎士団団長「ヴァイン・フォン・ロールハッハ」
1209年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミハーリー・カシクス」(~1212年)
1209年-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リグ・オニア帯剣騎士団団長「ヴァルクウィン・フォン・ナウムブルク」(~12360922死去)
1209年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヴァルイーニ公「インゲヴァリ・ヤロスラヴィチ」(~1210年)
1209年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「オットー1世」(~1251年死去)
1209年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「トモ」(~同年)⇒「ヘルムルト5世アンデックス=メランスキ」(~1211年)
1209年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハン「チエバン・ネンベリ・ジエル」(~1212年)
1209年-01:00|イタリア| |||<就任>フェーラ侯「アツォ6世」エステ辺境伯(~1212. 11死去)
1209年-01:00|フランス| |||<就任>プロヴァンス伯(ハルルチ家)レーモン・ベランジエ4世(~1245年)フォルカルク伯領を併合
1209年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<即位>シュレースヴィヒ公「ヴァルデマー3世」前任者の息子かつ共同統治者(~1216年退位)
1209年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「ディエゴ・ルト」(~1218年)
1209年-01:00|ポーランド| |||<即位>ベレムイシュリ公スワトスワフ・イェゴレヴィチ(~1211年)
1209年1月2日-02:00|トルコ| |||コンスタンチノープルのラテン帝国皇帝アンリ・ド・ウエノーがテオニコ王国に入城し摂政のブランドラテを罷免
1209年1月5日-09:00|日本|京都府京都市|承元2年11月27日|閑院内裏焼亡
1209年2月2日-01:00|フランス| |||<死去>プロヴァンス伯「アルフォンス2世」
1209年2月2日-01:00|フランス| |||<就任>プロヴァンス伯「レーモン・ベランジエ4世」(~12450819死去)フォルカルク伯領を併合
1209年2月6日-08:00|中国/モンゴル| ||西遼・天禧33年;元・太祖4年|この歳、ウイグル、西遼に叛き、モンゴルに従う
1209年3月6日-08:00|中国| ||金・大安1年1月28日|金の衛紹王が大安(-1211年)と改元
1209年4月6日-08:00|モンゴル| ||元・太祖4年3月;西夏・応天4年3月|チンギス・ハーンが西夏に侵入し中興府を攻囲、西夏は和を乞う
1209年4月11日-09:00|日本|奈良県宇陀市|承元3年3月6日|大野寺石仏を供養
1209年5月14日-09:00|日本|京都府京都市中京区|承元3年4月9日|行願寺・誓願時焼失
1209年7月22日-01:00|フランス| |||南フランスで猛威を振るうカトリ派に対してアルビ十字軍が出撃し、ペジエを攻略
1209年8月2日-08:00|モンゴル| ||元・太祖4年秋;西夏・応天4年秋|(秋)西夏襄宗はチガク公主と引き換えに講和を申し込みチンギス・ハーンはチガク公主を迎え入れて講和に応じた
1209年9月12日-09:00|日本| ||承元3年8月12日|<死去>藤原忻子(76歳)後白河天皇の中宮
1209年10月13日-09:00|日本|和歌山県田辺市|承元3年9月13日|熊野本宮焼失
1209年10月19日-09:00|日本| ||承元3年9月19日|<死去>藤原経家、赤痢病のため(61歳)非参議、歌人
1209年10月21日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「オットー4世」イタリア王・ブルグント対立王・シュヴァーベン大公(~12180519没)
1209年12月6日-08:00|中国| ||宋・嘉定2年11月8日|中国・山東省、浮山で地震(M6. 5)死者2千5百人
1209年12月29日-09:00|日本| ||承元3年12月|<任命>下総国守護「千葉成胤」(~建保6(1218)年4月10日死去、胤綱が継ぐ)
1209年12月29日-09:00|日本| ||承元3年12月|<任命>相模国守護「三浦義村」(~不詳、次に泰村が就任~宝治元(1247)年6月6日死去)
1210年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラン国王「レティア1世」(~1218年)
1210年-05:30|インド| |||<即位>ハラマラ朝国王「Arjunavarman1世」(~1215年)
1210年-05:30|スリランカ| |||<即位>ホ・ロンナル王「Lokissara」(~1211年)
1210年-04:30|アフガニスタン| |||<退位>ゴール朝スルタン「ギヤースッディーン・マフムド」
1210年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド 共和国ノヴゴロド 公「ムスチスワフ・ムスチスラヴィチ」(~1215年)
1210年-03:30|イラン| |||<死去>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam Nur al-Din Muhammad (Muhammad2世)」
1210年-03:30|イラン| |||<即位>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam Jalal al-Din Hasan (Hassan3世)」(~1221年死去)
1210年-03:00|イラク| |||<即位>アイユーブ 朝(メソポタミア)アミール「Al-Ashraf Musa」(~1220年)

1250迄 (2474件)

1210年-02:00|トルコ| |||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイホスロ1世」
1210年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウイニコ「ロススラフ・ヤロスラフイチ」(~1212年)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<即位>オウリチ公「ロススラフ・リュリコウイチ」(~1218年)
1210年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニーヒウ公「リュリク・ロススラフイチ」(~1214年)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<即位>テレボウリ公「イジヤスラフ・ウラジミロウイチ」(~1211年)
1210年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイカーウス1世」(~1220年)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ウイニコ公「アレクサンドル・フセウオロトウイチ」(~1215年)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ガリチ公「ウラジミル・イコレウイチ」(~1211年)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「フセウオロト4世」(~1212.8死去)
1210年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ズヴェニコ「ロト」公「ロマン・イコレウイチ」(~1211年)
1210年-01:00|チャド| |||<即位>セワ朝国王「Dunama Dibbalemi」(~1224年)
1210年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ミシュコ1世」ボント「キ」ウ「ワ」イスワフ2世「イク」ナエツの息子/林「レー」ラチ「フ」シュ公(高地シロスカ公)を兼ねる(~12110506死去)
1210年-01:00|ポーランド| |||<退位>ポーランド公「レシク1世」ビヤウイ(12271124死去)
1210年-01:00|カオチア/イタリヤ| |||ウエネツィアによるダルマチアのザラ/ザダル支配(~1242年)
1210年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「ミウアチルタッハ・ダル・オー・ブリアン」
1210年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「ト」ンチャド・ケアブ「リー」チ・オー・ブリアン「ト」ナル・モール・オー・ブリアンとオルカン・ニー・ムルチャダの息子(~1242年没)
1210年1月27日-09:00|日本| ||承元4年<任命>越後国守護「北条義時」(~不詳)
1210年1月27日-09:00|日本| ||承元4年<任命>駿河・伊豆国守護「北条義時」(~1219年)
1210年1月27日-09:00|日本| ||承元4年<任命>上野国守護「安達景盛」(~1212年、以後、泰盛まで安達氏が就任~1285年)
1210年1月27日-08:00|中国| ||西夏・皇建1年|西夏7代・襄宗が皇建(~1211年旧8月)と改元
1210年1月27日-08:00|中国| ||西夏・皇建1年|金・大安2年|西夏の襄宗は独立を宣言し、宗主国だった金国の萌州に攻め込んだ/金国は慶山奴に命じてこれを討たせ西夏軍は破れた
1210年1月27日-08:00|中国| ||西遼・天禧34年|ホラムのアラウッディーン・ムハンマドは三度、独立を宣言して西遼と断交
1210年4月1日-03:30|イラン| |||<死去>「ハバント」朝太守「Rustam5世」殺される
1210年5月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>下ラウジッツ辺境伯「コンラート2世」
1210年5月6日-01:00|ドイツ| |||<就任>下ラウジッツ辺境伯「ディートリヒ2世」マイセン辺境伯(~12210218死去)
1210年5月6日-09:00|日本| ||承元4年4月12日<死去>範子内親王(34歳)高倉天皇の皇女、賀茂斎院
1210年5月25日-09:00|日本| ||広島県世羅郡世羅町|承元4年5月|木造阿弥陀如来坐像(世羅永寿寺蔵)成る
1210年6月18日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「スティルミール フロディ ガソン」(1回目~1216年)
1210年6月25日-09:00|日本| ||神奈川県小田原市|承元4年6月3日|土肥・小早川一族が松田・河村一族と丸子川(酒匂川)で争い、和田義盛らが鎮定
1210年7月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ノリッジ 司教ジョン・ド・グレイ」(2回目~1213年7月)
1210年9月14日-02:00|パレスチナ| |||<即位>エルサレム国王「ジヤシ1世」エラル2世・ド・ブリエヌとアニエ・ド・モンフォーコンの息子(マリ-アと共同統治~1212年退位~12370327死去67歳)
1210年10月16日 00:00|アイルランド/イギリス| |||イギリス王ジョンがアイルランド遠征
1210年10月19日-09:00|日本| ||承元4年9月30日|戌刻西方天市垣第三星付近に彗星出現/長さ3尺余り
1210年11月15日-07:00|ベトナム| ||大越・治平龍応6年10月27日<死去>李朝大瞿越第7代皇帝「高宗李龍翰」
1210年11月15日-07:00|ベトナム| ||大越・治平龍応6年10月27日<即位>李朝大瞿越第8代皇帝「恵宗李昌」(~12240903死去)
1210年11月18日-09:00|日本| ||奈良県奈良市|承元4年11月|興福寺北円堂できる
1210年11月27日-09:00|日本| ||承元4年11月10日|彗星再度出現
1210年12月10日-05:30|インド| |||<死去>マムルーク朝スルタン「クタブ ユッディーン・アイバク」
1210年12月10日-05:30|インド| |||<即位>マムルーク朝スルタン「アラーム・シャー」(~1211.6死去)アイバクの子
1210年12月12日-09:00|日本| ||京都府京都市|承元4年11月25日<譲位>83代土御門天皇/守成親王が踐祚
1211年-05:30|インド| |||<即位>東ガంగా朝国王「ヒーマ・デーヴァ3世」(~1238年)
1211年-05:30|スリランカ| |||<復位>ポロナラ王「Lilavati」(2回目~1212年)
1211年-04:00|ロシア| |||<退位>フスコフ公「ウラジミル・ムススラフイチ」
1211年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝モスル・アミール「イッス ユッディーン・マサウト2世」(~1218年)
1211年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ベルス公「フセウオロト・フセウオロトウイチ」(~1215年)
1211年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイカーウス1世」(~1220年死去)
1211年-02:00|ウクライナ| |||<廃位>ズヴェニコ「ロト」公「ロマン・イコレウイチ」
1211年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ガリチ公「ダニール・ロマノウイチ」(~1212年)
1211年-02:00|エストニア/ラトビア| |||カラ首長「レンビトウ」率いるエストニア軍がサウにあったリガ・オニ騎士団の砦を攻略し、ノヴゴロト共和国領のフスコフまでを略奪
1211年-02:00|トルコ| |||マンダラ河畔の戦いでニア王国がルーム・セルジューク朝軍を撃破
1211年-01:00|ドイツ| |||<死去>オルデンブルク伯「モーリッツ1世」
1211年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「クリスチアン2世」(~1233年死去)オット1世と共同統治
1211年-01:00|ポーランド| |||<即位>ヘルミシュリ公「Danylo Romanovych」⇒「Leszek the White」(~1214年)

1250迄 (2474件)

1211年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ロシアン助祭ウィリアム・デル・ボウ」(~1224年)
1211年1月14日-09:00|日本|京都府京都市|承元4年12月28日|<即位>84代「順徳天皇」守成親王(~12210420)
1211年1月17日-08:00|中国| ||西遼・天禧35年|<死去>西遼可汗「文顯皇帝直魯古(耶律直魯古)」ナマン(乃蛮)のガ
チュルク(屈出律)に位を奪われる/在位34年
1211年1月17日-08:00|中国| ||西遼・天禧35年|<即位>西遼可汗「閔文皇帝屈出律」(~1218年)
1211年1月17日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉1年|大越・李朝の恵宗李昉が建嘉と改元(-1224年旧10月)
1211年3月26日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「サンシュ1世植民王」
1211年3月26日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「アフォンソ2世肥満王」(~12230325死去)サンシュ1世の子
1211年4月23日-09:00|日本| ||建暦1年3月9日|「建暦」に改元
1211年5月6日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド 公「ミェシュコ1世ブロトノギ」
1211年5月6日-01:00|ポーランド| |||<復位>ポーランド 公「レシェク1世ビャウ」(~12271124暗殺される)
1211年5月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖6年;金・大安3年4月|モンゴル軍が金へ遠征
1211年5月16日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド 公「ラチブジ公「ミェシュコ1世」
1211年5月16日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポーランド 公「カジミェシュ1世」(~12300513死去)
1211年6月-05:30|インド| |||<死去>マムルーク朝スルタン「アーラム・シャー」
1211年6月-05:30|インド| |||<即位>マムルーク朝スルタン「シャムスッディーン・イルクトゥミシュ」(~12360428死去)アイバクの娘婿
1211年7月16日-09:00|日本| ||建暦1年6月5日|<死去>多好方(82歳)雅楽家
1211年8月6日-09:00|日本| ||建暦1年6月26日|<死去>暲子内親王(八条院)(75歳)皇族、二条天皇の准母
1211年8月12日-08:00|中国| ||西夏・皇建2年7月3日|<即位>西夏第8代皇帝「神宗(英文皇帝)李遵顼」(~1223年
乾定4年(1226年)死去)光定(~1223)と改元
1211年8月12日-08:00|中国| ||西夏・皇建2年7月3日|<退位>西夏第7代皇帝「襄宗(敬穆皇帝)李安全」
1211年8月18日-06:30|ミャンマー| |||<死去>パガン王朝君主「ナラパティセートウ」
1211年8月18日-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「ナンダウンミヤ(オウサ、ティローミンロー)」(~12350719死去)
1211年9月13日-08:00|中国| ||西夏・光定1年8月5日|<死去>西夏第7代皇帝「襄宗(敬穆皇帝)李安全」
1211年9月19日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖6年;金・大安3年8月中旬|チンギスハンは兵を三つに分け、一つは自ら
が4万を率いて撫州へ、もう一つはムカリが3万を率いて烏沙堡へ、最後の一つはボルチグが3万を率いて烏月營へそ
れぞれ進軍した。ムカリを烏沙堡を得、ボルチグは烏月營を得て、孤立した撫州城へ攻めよせた。撫州城は陥落した。モ
ンゴル軍は白登城を陥とした。この頃、モンゴル軍の別動隊は西京大同府を攻め破った。ムカリが徳興府を破った
1211年10月9日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖6年;金・大安3年9月|モンゴル軍は居庸関を突破し中都に至った
1211年10月15日-02:00|トルコ| |||ラテン帝国皇帝アリクススルタンを破る
1211年12月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖6年;金・大安3年11月|モンゴル軍のジュチ、チャグタイ、オグタイ、トルイが、昌州
、桓州、淨州、雲州、武州、朔州、東勝州、弘州、懷来、縉山、豊潤、密雲、撫寧、集寧、東過平、昌平、忻州、代州を
破った/夏軍がに侵攻し金の韓玉がこれを迎撃撃破
1211年12月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖6年11月1日|日食があった
1211年12月14日-09:00|日本| ||建暦1年11月8日|<死去>昇子内親王(春華門院)(17歳)後鳥羽天皇の皇女
1211年12月23日-09:00|日本|新潟県|建暦1年11月17日|親鸞が流罪を解かれ、越後で浄土真宗を布教開始
1211年12月26日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建暦1年11月20日|土佐に流されていた僧・法然が帰洛を許さ
れ、京都東山大谷に戻る
1212年-05:30|インド| |||<即位>ゴール朝(ゴール)マリク「ハ・ハー・ウッディーン・サム3世」マフムドの子(~1213年死去)
1212年-05:30|スリランカ| |||<即位>ポロナルフ王「Parakrama Pandya」Pandyan王(~1215年)
1212年-05:30|インド| |||チャンデーラ朝がカラチュリ朝を滅ぼす
1212年-05:00|カザフスタン| |||ケチュルクが西遼(カラキタイ)の王位を奪取
1212年-05:00|キルギス/ウズベキスタン| |||ホラズム・シャー朝アーラウッディーン・ムハンマドはこの歳サルカントを陥れ、ここを都とする
/西カラハン朝を併合
1212年-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ゴール朝(ゴール)マリク「ハ・ハー・ウッディーン・サム3世」マフムドの子(~1213年死去)
1212年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝(ゴール)マリク「ハ・ハー・ウッディーン・サム3世」マフムドの子(~1213年死去)
1212年-04:00|ロシア| |||<即位>第8代リャサン公「ケレブ・ウラジミロウイチ」(~1217年退位~1219年死去)
1212年-04:00|ロシア| |||<即位>ペレヤスラヴリ・ザレスキー公「ヤロスラフ・フセヴォロドウイチ」(~1236年)
1212年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「コンスタンチン・フセヴォロドウイチ」(~1216年)
1212年-02:00|パレスチナ| |||<死去>エルサレム国王「マリ-ア」20歳
1212年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「カロチャ大司教、アンデクス=メラン伯ヘルム」(~1213年)
1212年-02:00|パレスチナ| |||<即位>エルサレム国王「イザベル2世」ジャン1世とマリ-アの娘(~12280425死去16歳)
1212年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ムスチスラフ・ヤロスラウイチ」(~1213年)
1212年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ノヴゴロド・セヴェルスキー公「ムスチスラフ・グレボウイチ」(~1239年)
1212年-02:00|パレスチナ| |||<退位>エルサレム国王「ジャン1世」(~12370327死去67歳)
1212年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ミヒャエル・ガッチ」(~同年)⇒「マルティン・ホト・パズマニ」(2度目~1213年)
1212年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ポトネン・リゼール」(~1213年)
1212年-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「フェラン」(ジャンヌと共同統治)ポルトガル王サンシュ1世の四男(~12330727
死去)
1212年-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「ハインリヒ6世」(~12140416死去)
1212年-01:00|ドイツ| |||<譲位>ライン宮中伯「ハインリヒ5世」
1212年-01:00|リトアニア/スウェーデン| |||フェザン伯はポルノ(カヌ)に併合

1250迄 (2474件)

1212年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||オルトニー島はフランスのユースタス・ザ・モンクの軍により占領(~1214. 12)
1212年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||サーク島はフランスが占領(~1217年)
1212年1月30日-09:00|朝鮮| ||高麗・大安3年12月25日|<即位>高麗王「康宗」(~12130826(寧元年8月9日)死去)
1212年1月30日-09:00|朝鮮| ||高麗・大安3年12月25日|<廃位>高麗王「熙宗」崔忠献より政権を王濬明らと奪回しようとして計画するも発覚し、江華から紫燕島に流される
1212年2月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「ベルンハルト3世」
1212年2月2日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公「アルブレヒト1世」熊公の孫、祖父とは別人(~12601007死去、遺領はザクセン＝グィッテンベルクとザクセン＝ラウエンブルクに分割された)
1212年2月5日-09:00|日本|奈良県奈良市|建暦2年|この年興福寺弥勒・無著・世親像(運慶)できる
1212年2月5日-08:00|中国| ||元・太祖7年・金・崇慶1年1月|モンゴル軍は雲中、九原諸郡を攻めてこれを抜いて撫州を陥とした/金の?石烈糾堅と完顔万弩が迎撃に向かったがムカリは計略を設けてこれを撃破/モンゴル軍は威寧を囲み金の劉伯林は戦わずに城をあけて投降
1212年2月5日-08:00|中国| ||金・崇慶1年1月1日|金の衛紹王が崇慶(~1213年旧5月)と改元
1212年2月22日-09:00|日本| ||建暦2年1月18日|<死去>豊原利秋(不明)雅楽家
1212年2月29日-09:00|日本|京都府京都市|建暦2年1月25日|<死去>法然上人/80歳(誕生:長承2(1133)0407)浄土宗の開祖
1212年3月26日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王国国王サンシュ1世植民王→<即位>ポルトガル王国国王(ポルゴ＝ニャ家)アフォンソ2世肥満王[サンシュ1世の子](~12230325)
1212年4月15日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「フセヴォロド3世」
1212年4月15日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「ユリー2世」フセヴォロド3世の息子(~12160427廃位)
1212年5月2日-09:00|日本| ||建暦2年3月29日|鴨長明が、随筆「方丈記」を著す
1212年6月1日-08:00|中国| ||金・崇慶1年5月|金、泰安州の劉仁祖が旗揚げして、?州、沂州を劫略
1212年6月28日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉2年5月28日|大越王李龍翰が薨御/子の李?が跡を継いだ、奸臣陳守度に迫られて自殺/子がなかったために、大越の大統はここに絶滅/王後の昭聖主が女王となり、陳守度の甥、赤子の陳?と婚姻させられ実権は全て陳守度が握った
1212年7月1日-08:00|中国| ||宋・嘉定5年6月|南宋は銅銭が国境を越えて金国に流れるのを全面的に禁止
1212年7月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「ヨハン1世」
1212年7月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「テオドリック2世」(~12420328死去)
1212年7月16日-01:00|スペイン| |||ラス・ハバース・デ・トサの戦いで、キリスト教徒軍がムワヒド朝軍を破る/イベリア半島のキリスト教徒による国土回復が成る
1212年8月-04:00|ロシア| |||<死去>キエフ大公「フセヴォロド4世」
1212年8月-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「イヴァン3世」(2度目~1214年)
1212年10月9日-01:00|ベルギー| |||<死去>ナミュール伯「フィリップ1世」
1212年10月9日-01:00|ベルギー| |||<就任>ナミュール伯「ヨランド」フィリップ1世の姉(~1217年)後のテン皇帝ヒェール2世・ト・クルトネーと結婚、「フィリップ2世」ヨランドとヒェール2世の子(~1226年死去)
1212年10月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・崇慶1年10月1日|高麗が金の年号崇慶を採用
1212年11月-01:00|イタリア| |||<死去>フェララ侯・エスティング伯「アッツォ6世」
1212年11月-01:00|イタリア| |||<就任>フェララ侯「Salin guerra2世」(~1240年)
1212年11月-01:00|イタリア| |||<就任>フェララ侯・エスティング伯「アルドブランデイーノ1世」(~12151010死去)、「アッツォ7世」(⇒1222年エスティング伯⇒1240年エスティング伯・フェララ侯~12640216死去)
1212年11月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージン島守護者「Philippe d'Albini1世」(1期目~1219年)
1212年11月19日-01:00|フランス/ドイツ/イギリス| |||神聖ローマ帝国のフリードリッヒ2世とフランスのフィリップ2世が同盟を結び、インクランドのジョン王とヴェルフェン家の皇帝オットー4世に対抗
1212年12月5日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・ブルグント王「フリードリヒ2世」兼イタリア王「フェデリコ2世」ハインリヒ6世(エンリコ6世)の息子(⇒12201122神聖ローマ皇帝~12501213死去)
1212年12月5日-01:00|イタリア| |||<廃位>イタリア王「オットー4世」
1212年12月9日-01:00|ドイツ/スイス| |||<就任>シュヴァーベン大公「フリードリヒ7世」ハインリヒ1世の息子(~1216年退位~12501213死去55才)
1213年-05:30|インド| |||<即位>ゴール朝(ゴール)マリク「アラウッディーン・アトシズ」フサイン2世の子(~1214年殺害される)
1213年-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ゴール朝ゴール・アミール「ハハル・ウッディーン・サム3世」
1213年-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ナシド朝マリク「Yamin al-Din Bahram Shah ibn Harb」(~1221年)
1213年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝ゴール・アミール「アラウッディーン・アトシズ」フサイン2世の子(~1214年死去)
1213年-04:00|ロシア| |||<即位>第9代リャサン公「ロマン2世イゴールヴィチ」(~1217年死去)
1213年-04:00|ロシア| |||<復位>フスコフ公「ウラジミール・ムスチスラヴィチ」(~1213年退位)⇒「フセヴォロド・ボリソヴィチ」(~1214年)
1213年-03:30|イラン| |||<即位>ハダスパニド朝君主「Bisotun1世」(~1223年)
1213年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクス」(~1214年)
1213年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガーチ公「カルマン」(~1215年)
1213年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレヤスラヴリ公「ウラジミール・フセヴォロドヴィチ」(~1215年)
1213年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ「ンダヒロ・ンダバ」(~1246年)
1213年-01:00|アントラ| |||<就任>ウルジエイ伯「Guerau1世」(~1228年)
1213年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ユリス1世ハン」(1度目~1213年)

1250迄 (2474件)

1213年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ハンク・ネンペリ・ホル・カラン」(~1214年)
1213年-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「ヒエール1世モークレル」ドル伯ロベール2世とヨランド・ド・クーシーの次男(~1221年~12500706死去)アリックスと共同統治
1213年 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド朝アミール「ムハンマド・ナスイル」
1213年 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「アフー・ヤアケブ・ユースフ2世」(~1224年死去)
1213年1月5日-08:00|中国| ||金・崇慶1年12月12日|東京(遼陽)、モンゴルに降る
1213年1月18日-04:00|ジョージア| |||<死去>ゲルジア国王「タル大王」
1213年1月18日-04:00|ジョージア| |||<即位>ゲルジア国王「ジョージ4世」(~12230118死去)
1213年1月24日-09:00|日本| ||建暦3年|<任命>越前国守護「大内惟義」(~不詳、次に惟信が就任~1221年)
1213年1月24日-08:00|中国/モンゴル| ||金の貞祐1年1月|モンゴル軍が金の中都を囲む
1213年1月24日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建暦3年1月1日|鎌倉で大地震。堂舎倒壊
1213年3月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建暦3年2月15日|<泉親衡の乱>信濃国の泉親衡らの源頼家の遺児千寿を将軍に擁立して北条氏を打倒する陰謀が発覚し幕府その党和田義直らをとらえる
1213年3月24日-08:00|中国| ||金・崇慶2年3月|<即位>東遼国王「耶律留哥」遼東に建国、元統(~1216年)と改元
1213年4月9日-09:00|日本|福島県|建暦3年3月17日|幕府が、和田義盛の歎願を聞かずに和田胤長を陸奥国岩瀬郡に配流
1213年5月15日-01:00|バチカン/イギリス| |||イングランド王ジョンが教皇に王国を献上し、教皇の封建家臣となる
1213年5月22日-08:00|中国| ||金・至寧1年5月|金が至寧と改元
1213年5月22日-08:00|中国| ||金・至寧1年5月|金の陝西でまたも大旱害、戦争で死傷する者よりも飢餓で死ぬ者のほうが、数十倍も多かった
1213年5月23日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建暦3年5月2日|和田義盛が挙兵し幕府を襲う
1213年5月24日-09:00|日本| ||建暦3年5月3日|<死去>美作国守護「和田義盛」挙兵が失敗し、一族とともに敗死(和田合戦)/67歳(誕生:久安3(1147))
1213年5月24日-09:00|日本| ||建暦3年5月3日|<任命>美作国守護「北条氏」(~1333年)
1213年5月25日-09:00|日本| ||建暦3年5月4日|<再任>淡路国守護「佐々木経高」(~承久3(1221)年6月16日死去)
1213年5月30日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス海軍が、ランドル沿岸の海戦でイングランド海軍に敗れる
1213年6月11日-09:00|日本| ||建暦3年5月21日|午刻大地震。音があり、舎屋破壊、山崩れ地裂く
1213年6月19日-01:00|フランス| |||<死去>ヴェルマント王伯「アリエノール」
1213年6月20日-08:00|中国| ||金・至寧1年;西夏・光定3年6月|夏軍が金の保安州と慶陽府を破った
1213年7月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ダブリン大司教ロドルフのアリ」(1回目~1215年9月)
1213年7月12日-01:00|イタリア| |||フリードリヒ2世が教皇に譲歩してシリアを教皇の支配下に置く(エガーの金印勅書)
1213年7月20日-08:00|中国| ||金・至寧1年;元・太祖8年7月|西京、モンゴルに降る/モンゴル軍ジョギは居庸関の金軍を急襲して全滅させた/モンゴル軍は勝ちに乘じて妣州、易州を抜いた
1213年8月20日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建暦3年8月3日|延暦寺衆徒が清水寺の焼却を企て、官兵と交戦
1213年8月26日-09:00|朝鮮| ||高麗・至寧1年8月9日|<死去>高麗王「康宗」
1213年8月27日-09:00|朝鮮| ||高麗・至寧1年8月10日|<即位>高麗王「高宗」(~12590721(慶元年6月30日)死去)
1213年9月11日-08:00|中国| ||金・至寧1年8月25日|<死去>金第7代皇帝「衛紹王(果繩=カジン)完顔永濟・允濟」
將軍胡沙虎(フシャフジャフ)の反乱で幽閉され、宦官の李思中により毒殺される
1213年9月12日-01:00|スペイン| |||<死去>アラゴン国王「ペドロ2世」兼バルセロナ伯「ペラ1世」ミウラの戦いで戦死
1213年9月12日-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯「ジャウメ1世征服王」(~12760727死去)
1213年9月13日-01:00|スペイン| |||<即位>アラゴン国王「ハイメ1世」ペドロ2世とマリア・デ・モンペリエの息子(~12760727死去68歳)
1213年9月22日-08:00|中国| ||金・貞祐1年9月7日|<即位>金第8代皇帝「宣宗(吾睹補=ウクブ)完顔珣」(~元光2年12月22日(1224年1月14日)死去)
1213年9月28日-01:00|ハンガリー| |||<死去>ハンガリー王アンドラシュ2世の妃「ゲルトルト」パルク・バーンにより殺害される
1213年9月28日-01:00|フランス/スペイン| |||フランス王フィリップ2世の長男ルイ(のちのルイ8世)の直臣で「アルビゾ十字軍」の指揮官シモン・ド・モンフォール、最大のカタリ派支持者「トゥールーズ伯」レモン6世とイベリア半島北東部(現在のスペインのアラゴン州)のアラゴン王ペドロ2世の連合軍に、フランス南部のミユで勝利
1213年9月30日-08:00|中国| ||金・貞祐1年9月15日|金の宣宗が貞祐(-1217年)と改元
1213年10月10日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリ2世」
1213年10月10日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ティボ1世」(~12200217死去)
1213年10月14日 00:00|イギリス| |||<死去>エックス伯「ジェフリー・フィッツピーター」
1213年10月14日 00:00|イギリス| |||<就任>エックス伯「ジェフリー・フィッツジェフリー・ド・マンデヴィル」(~12160223死去)
1213年11月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖8年;金・貞祐1年10月|チンギスハンは再び、軍十万を起して大挙攻めよせ、中都を囲んだ/妣州が陥落
1213年11月28日-09:00|日本|京都府京都市|建暦3年10月15日|京都大火/大風・大火で、四条坊門西洞院より失火、南は綾小路、北は三条坊門、東は河尻/町尻、西は堀川間焼亡。悲田院・六角堂・白河殿・京極寺など焼亡
1213年12月15日-08:00|中国| ||金・貞祐1年;西夏・光定3年11月2日|夏軍が金の會州へ攻め込んできたがトクタンチャルがこれを迎撃してを破った
1214年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティームゲ朝スルタン「Wadi」(~1233年)
1214年-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ゴール朝ゴール・アミール「アラー・ウッディーン・アトシズ」
1214年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ゴール朝ゴール・スルタン「アラー・ウッディーン・ムハンマド4世」フサイン2世の孫(~1215年)

1250迄 (2474件)

1214年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ウラジミール・リュリコヴィチ」(~1219年)
1214年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「ヤロスラフ・ウラジミロヴィチ」(~1214年)⇒「ワセヴォド・ムスチスラヴィチ」(~1214年)⇒<復位>「ウラジミール・ムスチスラヴィチ」(~1222年)
1214年-03:00|イェメン| |||<即位>アイユーブ朝(イェメン・ハジヤス)アミール「スライマン」トゥーラーン・シャーの子姪・ユッディーン・ウマルの子(~1215年)
1214年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ギュラ・ハーン」(2度目~1215年)
1214年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ムスチスラフ3世」(~12230602死去)
1214年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「シモン・カッチ」(~同年)⇒「オウス」(1回目~同年)
1214年-01:00|フランス| |||<就任>ダマタン伯「Mathilde」(~1259.1死去)
1214年-01:00|ドイツ| |||<就任>フェルデントツ伯「Gerlach4世」(~1254年)
1214年-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「ベネー4世」アンドラーシュ2世(アンドリヤ2世)の長男(12350921まで共同王~12700503死去)
1214年 00:00|イギリス| |||<死去>2代オックスフォード伯「オブリー・ド・ヴィアー」
1214年 00:00|イギリス| |||<就任>3代オックスフォード伯「ロバート・ド・ヴィアー」先代の弟(~1221年死去)
1214年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ユースタス「ザ・モンク」が率いるフランス人がジジャーズ島を占領(~1214年)
1214年1月13日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖8年;金・貞祐1年12月|チンギスハーンの弟であるカトル・ボルチュは薊州、遼西諸郡を破り、トウルイは中軍を率いて雄州、莫州、清州、滄州、景州、献州、河間府、濱州、棣州、済南諸郡を破った
1214年1月18日-09:00|日本| |||建保1年12月6日|建暦から建保に改元
1214年1月18日-08:00|中国| |||金・貞祐1年;西夏・光定3年12月6日|夏軍が金の涇州を陥とした
1214年1月25日-09:00|日本| |京都府京都市|建保1年12月13日|<死去>建礼門院・平徳子(59歳)高倉天皇の中宮
1214年1月30日-09:00|日本| |||建保1年12月18日|金槐和歌集(源実朝)できる
1214年2月12日-09:00|日本| |||建保2年|<任命>播磨国守護「後藤基清」(~承久3(1221)年7月2日死去)
1214年2月12日-09:00|日本| |京都府木津川市|建保2年|この年、海住山寺五重塔できる
1214年2月12日-09:00|日本| |和歌山県海南市|建保2年|この年、善福院釈迦堂できる
1214年2月12日-08:00|中国| |||金・貞祐2年|西遼・屈出律(ケチュルク)が天順と改元
1214年2月13日-01:00|フランス| |||<死去>バル伯「ティボ」-1世
1214年2月13日-01:00|ルクセンブルグ| |||<死去>ルクセンブルク伯「テオバルト」バル伯(ティボ-1世)
1214年2月13日-01:00|フランス| |||<就任>バル伯「アンリ2世」(~12391113死去)
1214年3月11日 00:00|イギリス| |||<死去>オマル女伯「Hawise of Aumale」
1214年3月11日 00:00|イギリス| |||<就任>オマル伯「William de Forz」(~12420326死去)
1214年4月-01:00|ルクセンブルグ| |||<就任>ルクセンブルク摂政「ワラム・ヘルツォーク・フォン・リンブルク」リンブルーク公ウァレリアン3世/ルクセンブルク伯エルミンデの夫(~1226年6月没)
1214年4月12日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖9年;金・貞祐2年3月|モンゴルと金の和議が成立し、モンゴル軍が中都から撤退
1214年4月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>ライン宮中伯「ハインリヒ6世」
1214年4月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「ルートヴィヒ1世」(~12310915死去57歳)
1214年5月-01:00|ルクセンブルグ| |||<就任>ルクセンブルク伯「ウァララム」リンブルーク公(ウァララム3世)(~12260702死去)エルミンデ女伯と結婚
1214年5月11日-08:00|中国| |||金・貞祐2年4月|大金国は蒲鮮万奴(フシエンワンヌ)率いる軍勢で東遼を攻撃させた/耶律留哥は帰仁県北河で金軍を撃破、その勢いで遼東の州郡を占拠し首都を咸平に定めて中京と号した
1214年5月25日-09:00|日本| |滋賀県大津市|建保2年4月15日|延暦寺僧徒が日吉祭の紛争から園城寺を襲い、金堂など129宇を焼く
1214年6月10日-08:00|中国| |||金・貞祐2年5月|金が都を中都から開封へ遷都
1214年6月10日-08:00|中国| |||金・貞祐2年5月|楊安児は僭号を称し天順と改元
1214年6月10日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖9年;金・貞祐2年5月|モンゴル軍再南下/景州、薊州、檀州、順州諸州が陥落
1214年7月27日-01:00|フランス/ドイツ/イギリス| |||イングランド王ジョンが、神聖ローマ皇帝オットー4世らと結んで所領の奪回を図るが、フランス国王フィリップ2世(49)に撃退される(ブーヴィーヌの戦い)
1214年9月3日-09:00|日本| |神奈川県鎌倉市|建保2年7月27日|大慈寺建立
1214年9月3日-08:00|中国| |||宋・嘉定7年;金・貞祐2年7月27日|南宋が、金に対する歳幣を停止
1214年9月18日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ2世、フランス中部のシノンで結ばれた「シノンの和約」で5年間の休戦を約し、ワール川以北の「イングランド領」を獲得
1214年10月5日-01:00|スペイン| |||<死去>カスティリア国王「アルフォンソ8世高貴王」
1214年10月5日-01:00|スペイン| |||<即位>カスティリア国王「エンリケ1世」(~12170606死去)
1214年10月5日-08:00|中国| |||金・貞祐2年9月1日|日食があった
1214年11月4日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖9年;金・貞祐2年10月|モンゴル軍が金の成州を陥落させた
1214年12月4日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「ウィリアム1世獅子王」
1214年12月4日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「アレクザンダー2世」ウィリアム1世の息子(~12490708死去)
1214年12月15日-09:00|日本| |京都府京都市|建保2年11月13日|和田義盛の余党頼家の子栄実を奉じ京都で反乱し敗れる
1214年12月23日-09:00|日本| |||建保2年11月21日|<死去>道法法親王(49歳)後白河天皇の皇子
1215年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャファナ王国国王「カリガ・マガ」(~1255年)兼ポロンナルフ王(~1236年)

1250迄 (2474件)

1215年-05:00|ウズベキスタン/アフガニスタン| |||ホラズムシャー朝がゴール朝を滅ぼし、アフガニстанを併合
1215年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロト共和国ノヴゴロト公「ヤロスラフ・フセヴォロドヴィチ」(~1216年)
1215年-03:00|エメン| |||<即位>アイユーブ朝(エメン・ベグヤス)アミール「アル=マサウト」エジプトのスルタン・アル=カーミルの息子(~1229年死去)
1215年-03:00|タンザニア| |||<即位>キルワ・スルタン「Khalid ibn Suleiman」(~1225年)
1215年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ボロク公「ボリス2世・フセスラヴィチ」ドルク公(~1222年)
1215年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エペロス専制公「ミカエル1世コムネノス・ドゥーカス」暗殺される
1215年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「サイモン」(~1216年)
1215年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウァルイーニ公「ダニール・ロマノヴィチ」(~1238年ガリチ公国と統合、ダニールはガリチ公と、1254年からルシ王の称号を併称)
1215年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エペロス専制公「テオドロス1世コムネノス・ドゥーカス」(⇒1224年兼テッサロニキ皇帝~1230年捕虜となる)
1215年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ムチスラフ・ムチスラヴィチ」(~1215年)⇒<復位>「カールマン」(~1219年)
1215年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニーヒウ公「ムチスラフ2世・スヴャトスラヴィチ」(~12230531死去)
1215年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ベルス公「アレクサンドル・フセヴォロドヴィチ」(~1232年)
1215年-02:00|エストニア/ドイツ| |||ドイツ人がレホ砦を陥としてサウ首長「レンヒトウ」を捕虜にした(1217年に釈放)
1215年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サルツァ侯「マンフレート2世」
1215年-01:00|イタリア| |||<就任>クロアチア・ハン「イヴァン」(~1216年)
1215年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サルツァ侯「マンフレート3世」(~1244年死去)
1215年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「シモン4世・ド・モンフォール」(~12180625死去)レスター伯
1215年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ミクロシュ・ネヘリ・サーク」(1回目~1217年)
1215年-01:00|ポーランド| |||ポーメルン公国四分割(ポーメルン=ダンツィヒ公国、ポーメルン=ベルガルト公国、ポーメルン=リープシャウ公国、ポーメルン=シュグエツツ公国)
1215年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ヒル・フォロ」(~1235年)
1215年1月14日-09:00|日本| |||建保2年12月13日<死去>栄実、謀反計画の露見で攻められ、自害(14歳)源頼家の息子、臨済宗の僧
1215年1月26日-08:00|中国| |||西夏・光定4年;金・貞祐2年12月25日|西夏、金を攻める
1215年2月1日-09:00|日本| |||建保3年|平家物語がこのころ成立
1215年2月1日-09:00|日本|奈良県奈良市|建保3年|この年興福寺天灯鬼・竜灯鬼像(康弁)できる
1215年2月1日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年;金・貞祐3年1月|金の通州がモンゴルに降伏
1215年2月6日-09:00|日本| |||建保3年1月6日<死去>北条時政、腫れ物のため(78歳)鎌倉幕府初代執権
1215年2月17日-08:00|中国| |||元・太祖10年;金・貞祐3年1月17日|北京(内蒙古自治区寧城県)、モンゴルに降る
1215年5月1日-08:00|中国| |||金・貞祐3年4月|張致、錦州(遼寧省錦県)で漢興皇帝を称し、興龍と改元する
1215年5月17日 00:00|イギリス| |||イングランドの諸侯が、ジョン王に反抗してロンドンを占拠
1215年5月31日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年;金・貞祐3年5月2日|モンゴル軍が、金の中都を降す
1215年6月19日 00:00|イギリス| |||大憲章の発布/イングランド王ジョンが貴族たちの要求に基づいて大憲章(マグナ・カルタ)を公布
1215年7月28日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年;金・貞祐3年7月1日|蒙古軍は金の済源を取った
1215年8月1日-09:00|日本| |||建保3年7月5日<死去>臨済宗の開祖「栄西」/75歳(誕生:1141)
1215年8月27日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年;金・貞祐3年8月|モンゴル軍が平州を遂に取った/また、廣寧府(広寧府)を降した
1215年9月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジェフリー・ド・マリス卿」(1回目~12210703)
1215年9月 00:00|イギリス| |||ジョン王がマグナ・カルタの無効を宣言し、内乱となる
1215年9月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建保3年8月18日|大風で鶴岡八幡宮の大鳥居が転倒
1215年10月10日-01:00|イタリア| |||<死去>フェラー侯・エスター境伯「アルドブランディエーノ1世」
1215年10月24日-08:00|中国/モンゴル| |||金・貞祐3年10月|蒲鮮万奴、遼東で天王を称し、国号を大真として、天泰と改元する
1215年11月23日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年11月|耶律留哥、内乱でモンゴルに入朝
1215年11月30日-01:00|イタリア| |||ローマで第4回ラテラノ公会議が閉幕/トミニコとフランチェスコ両修道会が許可
1215年12月22日-08:00|中国/モンゴル| |||元・太祖10年12月|モンゴル軍の張致が長吏を殺し、錦州に据し、瀛王を称して改元して興隆とした/瀛王張致は平州、?州、瑞州、利州、義州、宗州、懿州、廣寧府、建州などを陥とした/ムカリはフカ、ウルらを遣ってこれを討伐させた
1216年-05:45|スリランカ| |||<即位>マ王国王「Ranasura」(~1216年)⇒「アブハヤ・マッラ」(~1250707死去)
1216年-05:30|インド| |||<即位>パーンデヤ朝君主「マラヴァルマン・スンダラ・パーンデヤ1世」(~1238年)再興
1216年-05:00|ウズベキスタン/モンゴル| |||ホラズムシャー朝がモンゴルへ使節を派遣
1216年-04:00|ロシア| |||<復位>ノヴゴロト共和国ノヴゴロト公「ムチスラフ・ムチスラヴィチ」(~1218年)
1216年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデヤ公「パオロ・ケリニ」(1度目~1218年)
1216年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(アレクポ)アミール「Al-Aziz Muhammad」(~1236年)
1216年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アンティオキア公「レーモン・ルーベン」(~1219年)
1216年-01:00|アルバニア| |||<死去>アルバノン公「テメリオ・フロニ」
1216年-01:00|フランス| |||<死去>モルテン伯「Ida」
1216年-01:00|フランス| |||<就任>モルテン伯「Matilda2世of Boulogne」(~1245年)、「Philip Hurepel」(~1235年死去)

1250迄 (2474件)

1216年-01:00|アルバニア| |||<即位>アルバニア公「ケリゴリス・ガナス」(~1252年)
1216年-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン大公「ハインリヒ2世」フリートリヒ7世の息子(~12350212廃位~12420212死去30歳)
1216年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<即位>シュレースヴィヒ公「エリク4世」(~12320530退位)
1216年-01:00|ドイツ/スイス| |||<退位>シュヴァーベン大公「フリートリヒ7世」(~12501213死去55才)
1216年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<退位>シュレースヴィヒ公「ヴァルデマー3世」
1216年 00:00|イギリス| |||<即位>デハバース公「リス・ヴァス公」(~1234年死去グウィネドに從属)
1216年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ガーンジー島をユースタス「ザ・モンク」(ユースタス・バスケット「ル・モンク」)が率いるフランス人が占領(~12170824)
1216年1月10日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖10年;金・貞祐3年12月20日|モンゴル軍は金の大名府を攻めて大敗して、ほとんど全滅
1216年1月12日-09:00|日本|京都府京都市|建保3年12月22日|樋口猪熊より失火、因幡堂、六角堂など焼亡
1216年1月21日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年|この歳、張致、モンゴルに討たれる
1216年1月21日-08:00|中国| ||金・貞祐4年|この年、金山、奇努、青狗、統古らが耶律廝不を推戴して独立/耶律廝不は澄州で帝号を称し、国号を『遼』(後遼)と定め、改元して天威とした/耶律乞奴が耶律廝不を殺害し天祐と改元、耶律金山が国を称して自立し天徳と改元、統古がこれを殺して自立すると喊捨がこれを殺して自立
1216年1月21日-08:00|中国| ||金・貞祐4年春|紅襖軍を率いて叛したか定なるもの、山東で大漢皇帝を称し順天と建号
1216年1月27日-09:00|日本|京都府京都市|建保4年1月7日|左獄、滋野井、桂宮など焼亡
1216年2月4日-09:00|日本|神奈川県藤沢市|建保4年1月15日|江ノ島の海底が隆起して道路になる
1216年2月5日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年1月16日|モンゴル軍が金の曹州を陥とした
1216年2月19日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年2月|金将の張開が河間府、滄州、献州などの諸州を奪還
1216年2月19日-08:00|中国/モンゴル| ||金・貞祐4年2月1日|日食があった
1216年2月23日 00:00|イギリス| |||<死去>エセックス伯「ジェフリー・フィッツ・ジェフリー・ド・マンデヴィル」
1216年2月23日 00:00|イギリス| |||<就任>エセックス伯「ウィリアム・フィッツ・ジェフリー・ド・マンデヴィル」(~12270108死去)
1216年3月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年3月|この月、金軍がモンゴルから恩州、ケ州を奪還
1216年4月10日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「エリク10世」病死
1216年4月10日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ヨハン1世」(~12220310死去)
1216年4月19日-08:00|中国| ||金・貞祐4年4月|金、か定が建・順天と改元(-旧7月)
1216年4月20日-09:00|日本| ||建保4年4月2日|<死去>亮子内親王(殷富門院)(70歳)後白河天皇の皇女、伊勢斎宮
1216年4月27日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジーミル大公「コンスタンチン・フセヴォロド・3世の息子」(~12180202死去)
1216年4月27日-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ユーリー・フセヴォロド・グイ」(~1218年)
1216年4月27日-04:00|ロシア| |||<廃位>ウラジーミル・スズダリ大公「ユーリー2世」
1216年4月28日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年4月10日|金将の張開が青州など十一城をモンゴルから奪還
1216年4月29日-09:00|日本| ||建保4年4月11日|<死去>藤原有家(62歳)大蔵卿、歌人
1216年6月11日-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「アンリ・ド・ウエノー」42歳
1216年6月11日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「ピエール」ピエール1世・ド・クルトネーとエリザベート・ド・クルトネーの息子(~1219年死去64歳)
1216年6月24日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「スノリ・ストゥルルソン」(1回目~1219年)
1216年7月16日-01:00|バチカン| |||<死去>第176代ローマ教皇「インノケンティウス3世」享年55
1216年7月17日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年7月1日|金の昭儀節度使、ヒルタイが威州および獲鹿を奪還
1216年7月18日-01:00|バチカン| |||<就任>第177代ローマ教皇「クレリス3世」(~12270318死去)
1216年7月18日-08:00|中国| ||金・貞祐4年7月2日|か定、誅に伏す
1216年7月26日-09:00|日本| ||建保4年閏6月10日|<死去>鴨長明(62歳)歌人、随筆家/「方丈記」
1216年8月15日-08:00|中国| ||金・貞祐4年閏7月1日|日食があった
1216年8月24日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年;金・貞祐4年閏7月10日|金軍は深州を奪還
1216年9月27日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||金・貞祐4年;高麗・貞祐4年8月14日|契丹人の金山、高麗を攻める
1216年10月11日-08:00|中国| ||西夏・光定6年;金・貞祐4年8月28日|西夏軍が金に侵入したが、守将に撃破された
1216年10月19日 00:00|イギリス/フランス| |||<死去>イングランド王「ジョン」欠地王兼アキヌ公・ノルマンディー公「ジャン」48歳(誕生:11671224)
1216年10月28日-01:00|フランス| |||<即位>アキヌ公「アンリ2世」(~12721116死去)兼ノルマンディー公「アンリ3世」(~1259年パリ条約によりノルマンディー公位を放棄)[イングランド王「ヘンリー3世」]
1216年10月28日 00:00|イギリス| |||<即位>イングランド王「ヘンリー3世」ジョンとイザベラ・オブ・アングレームの男子(~12721116死去65歳)
1216年11月11日-08:00|中国/モンゴル| ||金・貞祐4年;元・太祖11年10月|蒲鮮万奴、自立、東夏を称するが、大蒙古国が侵攻、蒲鮮万奴(フシェンワンヌ)はモンゴル帝国に降伏

1250迄 (2474件)

1216年12月22日-01:00|バチカン| |||教皇ホノリウス3世が、トミニコ修道会を承認
1217年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン公「ロマン2世イゴレヴィチ」
1217年-04:00|ロシア| |||<即位>ロマン公「ロマン・インゲヴァルヴィチ」(~1237年)
1217年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン公「インゲヴァル1世イゴレヴィチ」(~1235年死去)
1217年-04:00|ロシア| |||<退位>リャザン公「ケレブ・ウラジミロヴィチ」(~1219年死去)
1217年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イェック・ボガトラドヴァーニ」(~1218年)
1217年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「クロスのボントィウス」(~同年)⇒「バンク・バー＝カラン」(2度目~1218年)
1217年 00:00|モロッコ| |||<死去>マリーン朝スルターン「アブド・アル＝ハック1世」
1217年 00:00|イギリス| |||<就任>リンカン伯「ラルフ・ド・ブロンデヴィル」(~1231. 4)
1217年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルターン「ウスマン1世」(~1240年死去)
1217年 00:00|イギリス| |||全北ウェールズ公「グウィネス」東南部を除く全ウェールズを征服するのに成功(翌年のウース条約でウェールズの支配者と認められた)
1217年1月30日-09:00|日本|京都府京都市|建保4年12月22日|樋口猪熊より出火、因幡堂、六角堂、釈迦堂、薬師堂など130余町焼亡
1217年2月1日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖11年12月24日|モンゴル軍は代州の神山と横城を平定
1217年2月8日-09:00|日本| ||建保5年|<任命>大隅国守護「北条義時」(~貞応3(1224)年6月13日死去)
1217年2月8日-09:00|日本|北海道|建保5年|<任命>蝦夷管領「安藤堯季」(~不詳、以後、堯秀、季長、季久と続く~不詳)
1217年2月8日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年|蒲鮮万奴(フシェンワヌ)は再び自立して大蒙古国から独立、僭称して『東夏』
1217年4月8日-08:00|中国| ||金・貞祐5年3月|金・真定の石海方が叛乱/郭文振および威州刺史の武仙がこれを斬って平定
1217年4月21日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルマンスール・アブ・タラー・ビン・ハムザー」
1217年4月21日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アンナジール・ムハンマド」(~12261201死去),「アルハデ・イヤヤ・ビン・ムシ」(~1239年死去)
1217年4月23日-01:00|ノルウェー| |||<死去>ノルウェー王「インゲ2世ホルートソン」
1217年4月23日-01:00|ノルウェー| |||<就任>ノルウェー総督「スカルホルートソン」(~6月)
1217年4月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリングン方伯「ヘルマン1世」
1217年4月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリングン方伯「ルートヴィヒ4世」(~12270911死去)
1217年5月20日-01:00|フランス| |||<死去>ベルジュ伯「Thomas」
1217年5月20日-01:00|フランス| |||<就任>ベルジュ伯「William2世」(~1226年死去)
1217年5月20日 00:00|イギリス/フランス| |||フランス王フィリップ2世の王太子ルイ(のちのルイ8世)、イングランド東部の「リンカン城」の攻防戦「リンカンの戦い」で敗北
1217年6月-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「ホーコン4世ハコンソン・デンストア大王」(~12631216没)
1217年6月6日-01:00|スペイン| |||<死去>カスティーリャ国王「エンリケ1世」
1217年6月6日-01:00|スペイン| |||<即位>カスティーリャ国王「ペレンゲラ女帝」(~12170831譲位~12461108死去)
1217年6月26日-09:00|日本| ||建保5年5月21日|<死去>多好節、流行病のため(55歳)雅楽家
1217年8月4日-08:00|中国| ||金・貞祐5年7月1日|日食があった
1217年8月31日-01:00|スペイン| |||<譲位>カスティーリャ国王「ペレンゲラ女帝」(~12461108死去)
1217年8月31日-01:00|スペイン| |||<即位>カスティーリャ国王「フェルナント3世聖王」(~12520530死去)
1217年9月3日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・貞祐5年8月|ムカリはモンゴル兵の他に漢兵を徴兵して中都の南、遂州および、蠡州を下した
1217年9月10日 00:00|イギリス| |||<死去>デヴオン伯「William de Redvers」
1217年9月10日 00:00|イギリス| |||<就任>デヴオン伯「Baldwin de Redvers」(~12450215死去)
1217年9月12日-01:00|フランス/イギリス| |||キングストン条約が結ばれ、敗北したフランス軍がイングランドを去る
1217年9月21日-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ルド」大司教アント・レアス・スベセン|デンマークがレヴァアル(タリン)及び現在のエストニアの北部を統治(~1221年)
1217年9月21日-02:00|エストニア/ラトヴィア| |||<聖マイの日の戦い>サウ首長「レンビトゥ」リグォニア騎士団に敗れ戦死
1217年10月9日-08:00|中国| ||金・興定1年9月8日|金の宣宗が興定(-1222年)と改元
1217年10月18日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年9月17日|モンゴル兵が金の隰州の汾西を従えた
1217年11月27日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年10月27日|モンゴル軍が金の鄆平、長山、泗川を陥とした
1217年12月13日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年11月13日|モンゴル軍が金の濱州、棣州、博州を取った
1217年12月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年11月16日|金の泗州がモンゴル軍によって陥ちた
1217年12月17日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年11月17日|モンゴル軍は金の沂州を陥とした
1217年12月30日-08:00|中国| ||金・興定1年12月|李全とその兄の李福襲が金の青州、兗州を取った
1218年-07:00|カンボジア| |||<死去>クメール王朝国王「ジャヤヴァルマン7世(チェイヴァルマン7世)」
1218年-07:00|カンボジア| |||<即位>クメール王朝国王「イントラヴァルマン2世」(~1243年死去)
1218年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「レティア2世」(~1229年)
1218年-05:30|インド| |||<死去>チョーラ朝国王「クローットウンガ3世」
1218年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「ラージヤラジャ3世」(~1246年)

1250迄 (2474件)

1218年-05:30|インド| |||<即位>パマラ朝国王「Devapala」(~1239年)
1218年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロト共和国ノヴゴロト公「スヴャトスラフ・ムスチスラヴィチ」(~1219年)
1218年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「ヴァシリコ・コンスタンチノヴィチ」(~12380304死去)
1218年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝モースル・アミール「ヌルッディーン・アルスラーン・シャー2世」(~1219年)
1218年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「トメニコ・デルフィノ」(~1220年)
1218年-01:00|フランス| |||<死去>シャルトル伯・フワ伯「Theobald6世」
1218年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ユリス1世ハン」(2度目~1219年)
1218年-01:00|フランス| |||<就任>シャルトル伯「Isabelle」(~1248年死去)
1218年-01:00|ドイツ| |||<就任>ニュルンベルク城伯「コンラート1世」(~1261年死去)
1218年-01:00|フランス| |||<就任>フワ伯「Margaret」(~12300712死去)
1218年-01:00|ドイツ| |||<就任>リュッケン公「グイスラフ1世」(~1249年)
1218年-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー対立王「シグルド・アーリングソン・リフソグ 下品王」(~12260708没)
1218年 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ヒェール1世」アリックス女公と結婚(~1235年剥奪)
1218年1月5日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年12月7日|モンゴル軍は益都府を陥とした
1218年1月10日-02:00|キプロス| |||<死去>キプロス王国国王「ユーク1世」
1218年1月10日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政「アリックス(アリス)・ド・シャンパニー」(~12320503)
1218年1月10日-02:00|キプロス| |||<即位>キプロス王国国王「アンリ1世」(~12530118死去)
1218年1月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖12年;金・興定1年12月18日|モンゴル軍は密州を陥とした
1218年1月28日-05:00|キルギス/中国/モンゴル| ||金の興定2年|キルギス、モンゴルに叛く。モンゴル、これを降す
1218年1月28日-05:00|ウズベキスタン/モンゴル| ||ホラズム・シャー朝がモンゴルの通商使節を惨殺(ホラル事件)
1218年1月28日-05:00|カザフスタン/モンゴル| ||モンゴル軍が西遼、屈出律を攻め滅ぼし、ホータン・カシュガル地方を平定
1218年2月2日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「コンスタンチン」
1218年2月2日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール大公「ユーリー2世」(2度目~12380304戦死)
1218年2月2日-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公・スタロトウプ公「ウラジミール・フセヴォロドヴィチ」(~12270106死去)
1218年2月6日-08:00|中国| ||宋・嘉定11年1月10日|李全が南宋に降った
1218年2月18日-01:00|スイス| ||ツェーリングン家が断絶し、ベルン、チューリッヒ、ゾーロトゥルンが帝国都市となる
1218年2月6日-09:00|日本| ||建保6年4月10日|<死去>下総国守護「千葉成胤」(胤綱が継ぐ~安貞2(1228)年5月28日死去)
1218年5月17日-09:00|日本|京都府京都市|建保6年4月21日|京都大火/三条油小路より出火、因幡堂・六条院・五条天神・河原院など焼亡。170余町焼失
1218年5月19日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝「オットー4世」
1218年5月26日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖13年;金・興定2年5月|モンゴル軍が錦州を屠った
1218年6月24日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「ヴァルデマー若王」ヴァルデマー2世とホヘンシュタットの息子(~12311128死去)
1218年6月25日-01:00|フランス| |||<死去>トゥールーズ伯「シモン4世・ド・モンフォール」
1218年6月25日-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「アモリー6世・ド・モンフォール」シモン4世の子(~1224年)
1218年6月25日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ2世の王太子ルイ(のちのルイ8世)の直臣シモン・ド・モンフォール、「トゥールーズ」包囲戦で戦死/最大のカリ派支持者「トゥールーズ」伯「レモン6世」、「トゥールーズ」伯領を奪還
1218年6月25日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「シモン・ド・モンフォール」
1218年7月6日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴーニュ公「ウート3世」
1218年7月6日-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴーニュ公「ユーク4世」(~12711027死去)
1218年7月24日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖13年秋|西遼はモンゴル帝国に制圧され屈出律(ケルキ)は捕らえられ、首を刎ねられた/西遼、全く滅亡
1218年7月24日-08:00|中国| ||金・興定2年7月1日|日食があった
1218年8月-02:00|エジプト| |||アイユーブ朝アデイルが十字軍迎撃のための遠征途上で没
1218年8月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘルツ伯「アトル6世」
1218年8月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘルツ伯「エンゲルベルト2世」(~12251107死去)
1218年8月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建保6年7月22日|幕府侍所司五人を定め泰時を別当としてご家人を奉行させる
1218年8月23日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖13年;金・興定2年8月|モンゴル軍のムカリは歩騎数万で、金の代州、隰州の二州を取った
1218年8月31日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ダマスカス)第3代アミール「アル＝アデイル」
1218年8月31日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ダマスカス)第4代アミール「アル＝ムアッザム」(~12271112死去)
1218年8月31日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ朝第5代スルタン「アル＝カーミル」(~12380306死去)
1218年9月22日-08:00|中国| ||宋・嘉定11年;金・興定2年9月|この月、南宋の李全が金の密州、寿光を破った
1218年9月27日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖13年;金・興定2年9月6日|太原が陥ちた
1218年10月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イヴァン・アセン2世」(~12410624死去)
1218年10月21日-08:00|中国| ||宋・嘉定11年;金・興定2年10月|この月、李全が鄒平、臨邛、安丘ら諸県を陥とした
1218年11月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖13年;金・興定2年10月15日|モンゴル軍は平陽を攻め平陽は落ちた
1218年11月29日-09:00|日本|京都府京都市|建保6年11月10日|清凉寺、栖霞寺、嵯峨釈迦堂など焼亡
1218年12月21日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建保6年12月2日|北条義時の鎌倉の大倉新御堂薬師如来供養

1250迄 (2474件)

1219年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロト 共和国ノヴゴロト 公「フセヴォロド・ムスチスラフ イチ」(~1221年)
1219年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ムスチスラフ・ダウイトウ イチ」(~1230年死去)
1219年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「クトゥブッッデーン・イスファサール・イブン・ランギヤル」(~1229年)
1219年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝シシジャール・アミール「イマートウッデーン・シヤール・ハーンシヤール」「ジヤハールッデーン・マフムド」「ファトフッデーン・ウマル」(~1220年)
1219年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝モースル・アミール「ナスイルッデーン・マフムド」(~1234年)
1219年-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「ヒェール」64歳
1219年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ノイ」(~1221年)
1219年-02:00|ウクライナ| |||<即位>オウグルチ公「ウラジミール・リュリコフ イチ」(~1223年)
1219年-02:00|シリア・アラブ| |||<復位>アンティオキア公「ホモン4世」トリホリ伯(~1233. 3死去)
1219年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ガリチ公「ムスチスラフ・ムスチスラフ イチ」(~1227年)
1219年-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||アイユーブ朝のカミルが十字軍が占領するダミエッタ港を攻囲
1219年-01:00|フランス| |||<死去>オセル伯「Peter 2世」
1219年-01:00|フランス| |||<死去>サンボル伯「ゴージェ3世」
1219年-01:00|ポーランド/トイツ| |||<死去>ホンメルンデミーン公「カジミール2世」
1219年-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯「ジャン1世トリスタン」(~1232年)
1219年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「Mahault 1世」(~12570729死去), 「Herve 4世」Mahaultと結婚(~12220122死去), 「Agnes 2世」(~1225年解任)
1219年-01:00|カザフスタン| |||<就任>カザフスタン「オウス」(2度目~1220年)
1219年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ジュラ・ネペリ・カン」(1回目~1222年)
1219年-01:00|ポーランド/トイツ| |||<就任>ホンメルンデミーン公(摂政)「インガルド・ア・デンマーク」(~1226年~1248年死去)
1219年-01:00|トイツ/オランダ| |||<就任>ユリヒ伯「ヴィルヘルム4世」(~12780316死去)
1219年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Albert 4世」(~1223年)
1219年-01:00|ポーランド| |||<即位>ペレミシュリ公「Mstislav Mstislavich」(~1225年)
1219年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Philippe d'Albini 2世」(~1224年)
1219年 00:00|マン島| |||<就任>マン島総督「Holan」
1219年1月18日-09:00|日本| ||建保7年|藤原信実が『北野天神縁起絵巻』(国宝)を描いた
1219年1月18日-08:00|中国| ||宋・嘉定12年|興元の軍人張福が反乱
1219年2月9日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太祖14年;高麗・興定3年1月23日|モンゴル、高麗に使を遣わす
1219年2月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建保7年1月27日|<死去>鎌倉幕府第3代将軍「源実朝」鶴岡社頭で甥の公暁に暗殺される/28歳(誕生:建久3(1192)0809)公暁は長尾定景に討たれた/源氏の正統が断絶
1219年2月27日-09:00|日本|静岡県|建保7年2月11日|阿野時元、駿河国に挙兵
1219年3月2日-09:00|日本| ||建保7年2月14日|<任命>京都守護・山城国守護「伊賀光季」(~承久3(1221)年5月15日)
1219年3月10日-09:00|日本|静岡県|建保7年2月22日|<死去>阿野時元、挙兵するが金窪行親に討ち取られた(不明)武将
1219年3月17日-09:00|日本| ||建保7年2月29日|<任命>京都守護・山城国守護「大江親広」(~承久3(1221)年5月14日)
1219年5月2日-04:00|アルメニア| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「レオ1世」
1219年5月2日-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国女王「イザベラ」(~12520123死去)
1219年5月2日-02:00|トルコ| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「レウオン2世」
1219年5月2日-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ザベル(イザベラ)」(~12520123死去), 「コスタンディン・パベルロン」(~1226年)共同統治
1219年5月14日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック伯「ウィリアム・マーシャル」
1219年5月14日 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「ウィリアム・マーシャル」(~12310406死去)
1219年5月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖14年;金・興定3年4月|モンゴル軍の張柔が兵を率いて南下し金の雄州、易州、保州、安州が落ちた/張柔は満城へ至り金將の武仙数万の軍と戦い武仙軍は敗れた/張柔は勝ちに乘じて定州を攻めてこれを陥とした/祁陽、曲陽は張柔の手に落ちた/深州、冀州以北、鎮州、定州以東の地域三十余城がモンゴルの張柔に投降
1219年5月17日-09:00|日本|京都府京都市|承久1年4月2日|京都大火/近衛町から出雲路河原まで焼亡。法成寺・円勝寺・尊勝寺西塔、最勝寺、祇陀林寺、公家第宅など焼亡
1219年5月27日-09:00|日本| ||承久1年4月12日|「承久」に改元
1219年6月-02:00|エストニア/デンマーク| |||デンマーク王ヴァルデマー2世(勝利王)、エストニアを征服
1219年6月6日-09:00|日本| ||承久1年4月22日|続古事談ができる
1219年6月17日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティントン伯「David of Scotland」
1219年6月17日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「John of Scotland」(~12370609死去)
1219年6月21日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「テイトル・トルバルトソン」(1回目~1222年)
1219年8月6日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖14年;金・興定3年6月25日|金軍は太原を奪還
1219年8月24日-09:00|日本| ||承久1年7月13日|<死去>源頼茂(41歳) 武将。後鳥羽上皇に攻められ、自害
1219年8月26日-09:00|日本|京都府京都市|承久1年7月15日|大内(大内裏)守護 頼茂謀反の報により北面の武士が御所を包囲・襲撃/頼茂敗死

1250迄 (2474件)

1219年10月-01:00|フランス| |||<死去>サン＝ボル伯「ゴージェ3世」
1219年10月-01:00|フランス| |||<就任>サン＝ボル伯「ギョー2世」(~1226年死去)
1219年11月3日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ウィンチェスター伯「サード・クインシー」
1219年11月3日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ウィンチェスター伯「ロジャード・クインシー」(~12640425死去)
1219年11月5日-02:00|エジプト/イスラエル| |||十字軍がダミエッタを占領(~12210829)エジプト・アイユーブ朝の سلطان がダミエッタとエルサレムの交換を提案するが十字軍は拒否
1220年-07:00|タイ| |||タイ族がスコタイをクメール王国から奪取
1220年-05:30|スリランカ| |||<即位>ダンパティニヤ王国国王「Vi jayabahu3世」(~1224年)
1220年-05:30|インド| |||<即位>ホイヤラ朝国王「ナラシンハ2世」(~1234年)
1220年-05:30|インド| |||コララのスーリヤ寺院
1220年-05:00|パキスタン| |||ハルティスタンはマホメッド王朝の統治下(~1840年)
1220年-03:30|イラン/モンゴル| |||モンゴル軍がセルジューク朝の首都メルヴを攻略
1220年-03:00|サウジアラビア| |||<死去>メッカ・シャリフ「カタ・ブン・イトリス・アル＝ハサニ・アル＝アラウィ」息子に殺された
1220年-03:00|イラク| |||<即位>アイユーブ朝(メソポタミア)アミール「Al-Muzaffar Ghazi」(~1247年)
1220年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「ハサン・イブン・カタ・アル＝ハサニ・アル＝アラウィ」(~1222. 4廃位)
1220年-02:00|トルコ| |||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイカーウス1世」
1220年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「グイド・ミキエリ」(~1222年)
1220年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルツク公「ムスチスラフ・ヤロスラヴィチ」(~1226年)
1220年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイハート1世」(~1237年死去)
1220年-02:00|ギリシャ/北マケドニア| |||エペロス専制公「テオドロス1世コムネノス・ドゥカス」がマケドニアとアトスを解放、エペロス専制公領の一部
1220年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「エルネイ」(~1221年)
1220年-01:00|ドイツ| |||<就任>ラーヴェンズベルク伯「オットー2世」(~1244年)、「ルートヴィヒ」(~1249年)
1220年-01:00|オランダ/ドイツ| |||ゲメルトはデ・ゲメルト家とドイツ騎士団で分割管轄/共同で2つの別々の政権を持つ(~1366年)
1220年 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック女伯「イザベル・ド・クレア」
1220年1月4日-09:00|日本| ||承久1年11月27日|京都大火、白川火事、延勝寺、最勝寺、証菩提院鞠負庁など焼亡
1220年1月23日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ポズナメルン＝シュテッティン公「ボグスラフ2世」
1220年1月23日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナメルン＝シュテッティン公(摂政)「ミロスラフ・フォン・ボメルン」(~1226年~1237年死去)
1220年1月31日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|承久1年12月24日|大倉御所が焼失
1220年2月6日-09:00|日本| ||承久2年|<任命>若狭国守護「津々見忠季」(~承久3(1221)年6月14日死去)
1220年2月6日-09:00|日本| ||承久2年|このころ慈円が「愚菴抄」を著す
1220年2月6日-09:00|日本|富山県中新川郡立山町|承久2年|立山雄山神社の社殿造営/富山県
1220年2月6日-09:00|日本|奈良県桜井市|承久2年|この年、大和安倍文殊院の文殊及び眷属像(快慶)できる
1220年2月6日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉10年|<即位>チャンパ王「ジャヤ・ハラメシュワラワアルマン2世」(~1252年)
1220年2月17日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「ティボート1世」
1220年2月17日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「マチュー2世」(~12510209死去)
1220年2月25日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯「アルブレヒト2世」
1220年2月25日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク辺境伯「ヨハネス1世」アルブレヒト2世の息子(~12660404死去)
1220年3月7日-05:00|ウズベキスタン/モンゴル| ||元・太祖15年2月|チンギス・ハーン軍がフハラを攻略
1220年3月27日-05:00|ウズベキスタン/モンゴル| ||元・太祖15年2月21日|チンギス・ハーンがサマルカントを征服(クワラズム崩壊)
1220年4月6日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<就任>フランク・ローマ帝国総督「ケルン大司教エンゲルベルト」(~12251107)
1220年4月26日-01:00|ドイツ| |||フリードリヒ2世が「教会諸公との協約」で世俗権利を移譲
1220年4月30日-09:00|日本|京都府京都市東山区|承久2年3月26日|清水寺本堂など焼亡
1220年5月8日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・イタリア王「ハインリヒ7世」フリードリヒ2世の子で共治王(~12350704廃位)
1220年5月16日-09:00|日本|京都府京都市東山区|承久2年4月13日|祇園社が炎上
1220年5月17日-09:00|日本| ||承久2年4月14日|<死去>禅暁、京都・東山で誅殺された(不明)源頼家の息子、僧
1220年7月1日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ポズナメルン公「ムシチュイ1世」
1220年7月1日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナメルン＝ダンツィヒ公「シフィエントペウク2世」(~12660111死去)
1220年7月1日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ポズナメルン＝ベルガルト＝リープシュウ＝シュヴェツ公「ヴァルティスラフ1世」(~12330111死去)
1220年11月22日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「フリードリヒ2世」イタリア王・シチリア王(~12501213没)
1220年12月27日-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>ホラズム・シャー朝スルタン「アラウッディーン・ムハンマド」
1220年12月27日-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>ホラズム・シャー朝スルタン「ジャラルッディーン・メングヘルティーン」(~12310815死去)
1221年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナシド朝マリク「Taj al-Din4世Nasr ibn Bahram Shah」(~1221年)、「Shihab al-Din Mahmud1世ibn Harb」(~1225年)、「Rukn al-Din Mahmud ibn Bahram Shah」(~1222年)
1221年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「フェウオド・ユーリエヴィチ」=><再任>「ヤロスラフ・フェウオド・ユーリエヴィチ」

1250迄 (2474件)

(~1223年)

1221年-04:00|ロシア| |||<即位>シベリヤ・ハン国ハン「Taibuga」(?)
1221年-03:30|イラン| |||<死去>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam Jalal al-Din Hasan (Hassan3世)」
1221年-03:30|イラン| |||<即位>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam 'Ala al-Din Muhammad (Muhammad3世)」(~1255年死去)
1221年-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ザグウェ朝)王「ゲブレ・マスケル・マリベラ」
1221年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ウクライナ大公「フョドスラフ・ウアシコフイチ」(~1232年退位)
1221年-03:00|ベラルーシ| |||<退位>ウクライナ大公「ウアシコフ・フョドスラフイチ」
1221年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ハマー)第2代アミール「アル=マンズール・ムハンマド」
1221年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ペーター・パル」(~1226年)
1221年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ハマー)第3代アミール「アン=ナスイル・キジ・アルスラン」(~1229年死去)
1221年-02:00|ラトヴィア/デンマーク| |||リガはデンマークの臣下(~1223年)
1221年-01:00|オランダ/ベルギー| |||<即位>リンブルフ公「ヴァルム3世」ルクセンブルク伯(~12260702死去)
1221年 00:00|イギリス| |||<死去>3代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウイアー」
1221年 00:00|イギリス| |||<就任>4代オックスフォード伯「ヒュー・ド・ウイアー」先代の子(~1263. 12死去)
1221年1月-05:00|パキスタン| |||インダス河畔でモンゴル軍とホラズムシャー朝の遺児勢力が決戦
1221年1月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>マイン辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「デイトリヒ2世」
1221年1月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>マイン辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「ハインリヒ4世」(~12880215死去)
1221年1月25日-09:00|日本|群馬県太田市|承久4年2月23日|世良田(尾島町)の長楽寺、徳川義季を開基、栄朝を開山として創建
1221年2月1日 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「ウィリアム・ド・オービニー」
1221年2月1日 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「ウィリアム・ド・オービニー」(~1224年死去)
1221年3月25日-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「ロベール・ピエール2世・ド・クルネーとヨランド・ド・エノー」の息子(~1228. 1死去)
1221年3月26日-04:30|アフガニスタン/モンゴル| |||チンギス本隊がアフガニスタン北部のバルフを占領
1221年3月26日-03:30|イラン/モンゴル| |||モンゴル軍がメルブ、ニシャプールを包囲し攻略
1221年4月4日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年3月10日|近衛京極、西洞院間焼亡。宗像社焼失
1221年4月5日-09:00|日本| ||承久3年3月11日|<死去>飛鳥井雅経(52歳)参議、歌人
1221年4月24日-05:00|ウズベキスタン/モンゴル| |||モンゴル軍がホラズムシャー朝の首都ウルゲンチを占領、ホラズムシャー朝を滅ぼす
1221年5月13日-09:00|日本| ||承久3年4月20日|<踐祚>85代「仲恭天皇」(~7. 9)
1221年5月13日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年4月20日|<就任>摂政「九条道家」(~承久3年7月8日解任)
1221年5月13日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年4月20日|<譲位>84代「順徳天皇」
1221年5月25日-09:00|日本| ||承久3年5月3日|<死去>惟明親王(聖円入道親王)(43歳)高倉天皇の皇子
1221年6月6日-09:00|日本| ||承久3年5月15日|<死去>京都守護・山城国守護「伊賀光季」後鳥羽上皇の官軍に襲撃され自害
1221年6月6日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年5月15日|後鳥羽上皇が、北条義時追討の院宣を下す(承久の乱)
1221年6月21日-01:00|オランダ/ベルギー| |||<死去>リンブルフ公「ハインリヒ3世」
1221年6月21日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<就任>リンブルフ公「ヴァルム3世」ルクセンブルク伯(~12260702死去)
1221年6月22日-09:00|日本| ||承久3年6月|<剥奪>安芸国守護「宗孝親」
1221年6月26日-09:00|日本| ||承久3年6月5日|<解任>摂津国・美濃国守護「大内惟信」没落
1221年6月26日-09:00|日本|愛知県一宮市|承久3年6月5日|<承久の乱>晩、尾張国一宮で鎌倉の上洛軍東山道の武田信光が官軍の大内惟信以下を打ち破り官軍は逃亡
1221年6月27日-09:00|日本|岐阜県美濃加茂市|承久3年6月6日|<承久の乱>北条軍(東山道軍)木曾川の河合、大井戸で上皇方と対戦/上皇方の山田重忠らが奮闘するが、総崩れ/株河、洲俣、市脇など要害は全て鎌倉方に落ちた
1221年6月29日-09:00|日本|石川県|承久3年6月8日|北条軍・北陸道軍×上皇方・宮崎定範、仁科盛遠らが対戦(越中・加賀にて)北条方の勝利
1221年7月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ダブリン大司教ロドリスのアンリ」(2回目、11月まで代理~1224年7月)
1221年7月3日-09:00|日本|愛媛県|承久3年6月12日|河野通信とその子通政らは幕府軍と交戦し大敗して本国の伊予に逃げ帰る
1221年7月5日-09:00|日本| ||承久3年6月14日|<死去>阿波国守護「佐々木高重」承久の乱で討死
1221年7月5日-09:00|日本| ||承久3年6月14日|<死去>若狭国守護「津々見忠季」宇治川の戦いで討死
1221年7月5日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年6月14日|幕府方が後鳥羽上皇方を破る
1221年7月6日-09:00|日本| ||承久3年6月15日|<逃亡>尾張国守護「小野成綱」
1221年7月6日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年6月15日|東寺に籠もった三浦胤義を三浦義村・佐原の兵が攻めると一族同士討ちの事態/胤義らの官軍再起不能なる旨の報に応じ上皇は停戦の院宣を発す
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<死去>淡路国守護「佐々木経高」承久の乱で敗れ、自害
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<任命>阿波国守護「小笠原長清」(~不詳、次に長経、長忠、長房、長久、長義、義盛、頼久と続く~1333年)
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<任命>安芸国守護「武田信光」(~不詳)
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<任命>伊勢国守護「北条時房」(~1238年)
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<任命>伊予国守護「宇都宮頼綱」(~1235年頃)
1221年7月7日-09:00|日本| ||承久3年6月16日|<任命>越中国守護「名越(北条)朝時」(~寛元3(1245)年4月6日死

1250迄 (2474件)

去)

1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>河内国守護「三浦義村」(~不詳、次に泰村が就任~宝治元(1247)年6月6日死去)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>紀伊国守護「三浦義村」(~不詳)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>三河国守護「足利義氏」(~1252年、以降足利氏が就任、貞経~1331年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>若狭国守護「島津忠時」(~1228年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>出雲国・隠岐国守護「佐々木義清」(~1233年、以後、政義、泰清が就任~1278年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>但馬国守護「太田昌明(常陸房)」(~1223年、以後太田氏が就任~1336年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>丹波国守護「北条時房」(~1222年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>長門国守護「小鹿島公業」(~1221年(承久3年)9月)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>播磨国守護「安保右馬允」(~1223年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>備前国守護「佐々木信実」(~不詳)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>六波羅探題南方「北条時房(時房流)」(~1224年)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条泰時(得宗家)」(~貞応3(1224)年6月→執権)
1221年7月7日-09:00|日本| || 承久3年6月16日|<任命>和泉国守護「逸見惟義」(~1248年)
1221年7月9日-09:00|日本| 神奈川県足柄下郡箱根町| 承久3年6月18日|<死去>藤原範茂、承久の乱で敗れ護送途中に足柄山で処刑(37歳)参議
1221年7月16日-09:00|日本| || 承久3年6月25日|<任命>摂津国守護「長沼宗政」(~不詳)
1221年7月16日-09:00|日本| || 承久3年6月25日|<任命>淡路国守護「長沼宗政」(~寛喜2年(1230年)8月13日、嫡子時宗に譲与~1243年)
1221年7月20日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年6月29日| 上皇方への断罪厳しく、“賊軍”の汚名を恐れやむなく参軍した三浦胤義は自害、佐々木信綱叔父経高らは戦犯として斬られ、または自刃
1221年7月21日-02:00|エジプト| ||| 十字軍が、カイロへ進撃
1221年7月22日-09:00|日本| || 承久3年7月2日|<死去>近江国守護(長門国守護)「佐々木広綱」承久の乱で官軍に属し敗れ梟首された(次に弟の信綱が継ぐ、以後泰綱、頼綱、時信と続く~1333年)
1221年7月22日-09:00|日本| || 承久3年7月2日|<死去>五条有範、承久の乱に敗れ、処刑(不明)武将
1221年7月22日-09:00|日本| || 承久3年7月2日|<死去>播磨国守護「後藤基清」承久の乱で官軍に属し敗れ梟首された
1221年7月25日-09:00|日本| 岐阜県| 承久3年7月5日|<死去>一条信能、承久の乱で敗れ、護送途中に美濃で処刑(32歳)参議
1221年7月28日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年7月8日|<就任>摂政「近衛家実」(~貞応2(1223)年12月14日辞任)
1221年7月29日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年7月9日|<譲位>85代「仲恭天皇」
1221年7月29日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年7月9日|<踐祚>86代「後堀河天皇」/12.1即位(~1232/1004)
1221年8月-03:30|イラン/モンゴル| ||| (~9月)モンゴル人がハマダンを破壊
1221年8月1日-09:00|日本| || 承久3年7月12日|<任命>越前国守護「島津忠久」(~嘉禄3(1227)年6月18日死去、次に忠時が就任~1228年)
1221年8月2日-09:00|日本| 島根県隠岐郡隠岐の島町| 承久3年7月13日| 幕府が承久の乱の後鳥羽上皇を隠岐へ流す
1221年8月3日-09:00|日本| 静岡県| 承久3年7月14日|<死去>葉室宗行、承久の乱で敗れ、鎌倉への護送途中に駿河で斬罪(48歳)権中納言
1221年8月10日-09:00|日本| 新潟県佐渡市| 承久3年7月21日| 幕府が後鳥羽上皇に続き、順徳上皇を佐渡へ配流
1221年8月11日-09:00|日本| 愛媛県松山市| 承久3年7月22日| 高縄山城陥落/河野通信は負傷しその子通俊は戦死、通政、政氏父子は自刃
1221年8月12日-09:00|日本| 山梨県| 承久3年7月23日|<死去>葉室光親、承久の乱で敗れ、甲斐で斬罪(46歳)権中納言
1221年8月13日-09:00|日本| 兵庫県| 承久3年7月24日| 雅成親王が但馬国に配流された
1221年8月14日-09:00|日本| 岡山県| 承久3年7月25日| 頼仁親王が備前国に配流された
1221年8月18日-09:00|日本| 山梨県| 承久3年7月29日|<死去>源有雅、承久の乱で敗れ、護送途中に甲斐で斬罪(46歳)参議、権中納言
1221年8月19日-09:00|日本| 岩手県| 承久3年8月| 河野通信は陸奥国の江刺へ配流され、通信の子の通末は信濃国へ配流、通信孫の通秀、通行も流された
1221年8月28日-02:00|エジプト| ||| カイロへ進撃した十字軍が敗北/ダミッタを放棄
1221年9月8日-02:00|エジプト| ||| 十字軍がエジプトから退却
1221年9月18日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年9月| 後高倉法皇の大炊殿焼亡
1221年10月17日-09:00|日本| 京都府京都市| 承久3年10月|<死去>藤原秀澄、承久の乱敗戦後に捕らえられ、京で斬罪(不明)武将
1221年10月17日-08:00|中国/インド/モンゴル| || 元・太祖16年10月| 蒙古軍、インドに侵入、ムハンマドの遺児ジャラル・アッディ

1250迄 (2474件)

ーとインダス河畔で戦い勝利

- 1221年10月17日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年10月1日|放火により、藤原家実第(土御門西洞院)、西園寺公経第(一条町)焼亡
- 1221年10月21日-01:00|フランス/イギリス| |||<死去>ブルターニュ公「アリックス」兼リッチモンド女伯「アリックス・ド・トゥール」21歳
- 1221年10月21日-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「ジャン1世赤毛公」ピエール1世とアリックスの長男/ピエール1世と共同統治(~12861008死去)
- 1221年10月30日-09:00|日本|京都府京都市|承久3年10月14日|<死去>藤原秀康. 承久の乱敗戦後に捕らえられ、京で斬罪(不明)武将
- 1221年11月19日-09:00|日本| |||承久3年閏10月4日|<死去>藤原季経(91歳)宮内卿、歌人
- 1222年-08:00|インドネシア| |||<即位>シンガリ王国国王「ラジヤサ(ケン・アンロク)」(~1227年死去)ケティ朝ジャンガラ公国トゥマール領主ケン・アンロクがケティ朝の王クルタジャヤをガントルの戦いで敗死させ、ケティ朝を倒す/トゥマール(後のシンガリ)を都として東ジャワを統一
- 1222年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナスリド朝マリク「アブール=Muzaffar Ali」(~同年)
- 1222年-03:00|ペルルシ| |||<即位>ホロック公「スヴァトスラフ・ムスチスラヴィチ」(~1232年)
- 1222年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティア公「パオロ・クリニ」(2度目~1224年)
- 1222年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ソロモン・アチュシュ」(~1224年)
- 1222年-01:00|フランス| |||<就任>ヌール領主「フリッポ2世・ド・ヴァイルベオン」(~1255年)
- 1222年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハン「ミクロシュ・ネペリ・サーク」(2回目~同年)⇒「トール・ネペリ・チャナド」(~1226年)
- 1222年-01:00|イタリア| |||<退任>フェラー侯「アッツォ7世」
- 1222年-01:00|ハンガリー| |||ハンガリー国王が金印勅書で上級貴族・聖職者に特権を付与
- 1222年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>フランス領アルダニー島領主「Pierre L' Ingenieur」(~1238年死去)、「Mayn L' Ingenieur」(~1238年)
- 1222年1月22日-01:00|フランス| |||<死去>セール伯・ヌヴェール伯「Herve4世」
- 1222年1月24日-02:00|トルコ| |||<即位>キキア・アルメニア王国国王「フィリップ」イザベルの最初の夫(~1224年退位)
- 1222年2月1日-02:00|トルコ| |||<死去>トレビゾント帝国初代皇帝「アレクシオス1世」
- 1222年2月1日-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾント帝国第2代皇帝「アントニオス1世」(~1235年死去)
- 1222年2月4日-01:00|オランダ| |||<死去>ホラント伯「ウイレム1世」
- 1222年2月4日-01:00|オランダ| |||<就任>ホラント伯「フロリス4世」(~12340719死去)
- 1222年2月13日-09:00|日本| |||承久4・貞応1年|<任命>摂津国守護「安達景盛」(~1224年)
- 1222年2月13日-09:00|日本| |||承久4・貞応1年|<任命>長門国守護「天野政景」(~不詳、次に義景が就任~不詳)
- 1222年2月13日-09:00|日本|福岡県太宰府市|承久4・貞応1年|この年、福岡観世音寺不空願索像(琳嚴)できる
- 1222年3月10日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「ヨハ1世」
- 1222年3月20日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|承久4年2月6日|犬追物が幕府の公式行事として幕府南庭で初めて行われる
- 1222年4月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アル=マンスール・ウマル」(~1228年)
- 1222年4月-03:00|サウジアラビア| |||<廃位>メッカ・シャリフ「ハサン・イブン・カタダ・アル=ハサニ・アル=アラウィ」
- 1222年4月6日-09:00|日本|京都府京都市右京区|承久4年2月23日|嵯峨の清涼寺を供養
- 1222年5月25日-09:00|日本| |||貞応1年4月13日|「貞應」に改元
- 1222年6月24日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシグ)法話者「スノリ ストルルソン」(2回目~1232年)
- 1222年8月-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「エリク11世」(~12291129)
- 1222年8月2日-01:00|フランス| |||<死去>トゥールーズ伯「レイモン8世」兼ブローアンヌ辺境伯「レモン6世」
- 1222年8月2日-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「レイモン9世」兼ブローアンヌ辺境伯「レモン7世」(~12490927死去)
- 1222年8月12日-01:00|チェコ| |||<死去>モラヴィア辺境伯「ウジスラフ1世ジジッチ」
- 1222年8月12日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯代行「オモウツ司教ハート」(~1224年)
- 1222年9月2日-09:00|日本|京都府京都市|貞応1年7月25日|藤原国通の楊梅坊城第焼亡、家記数百巻焼失
- 1222年9月8日-09:00|日本| |||貞応1年8月2日|彗星戌方に見ゆ。軸星大きく半月の如し白色、光芒赤い。1丈7尺余
- 1222年9月15日-08:00|中国| |||金・元光1年8月9日|金の宣宗が元光(-1223年)と改元
- 1222年12月15日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ皇帝「ヨハネス3世ドゥカス・ヴァタクセス」軍人/皇女イレネー・ラスカリと結婚. 義父の死により(~12541103死去)
- 1222年12月15日-02:00|ギリシャ| |||<即位>ニキア帝国皇帝「ヨハネス3世ドゥカス・ヴァタクセス」(~12541103. 死去)
- 1222年12月25日-01:00|イタリア| |||イタリア北部ロンバルディアで地震(M6. 8)死者2千8百人
- 1223年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナスリド朝マリク「Ala al-Din Ahmad」(~同年)
- 1223年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「フセヴォロド・ユリエヴィチ」(~1224年)
- 1223年-04:00|ロシア/モンゴル| |||モンゴルの先遣隊は南ロシア諸公と南ロシア草原の遊牧民をチャクからなる連合軍を破った
- 1223年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパニド朝君主「Hosam al-Dawla Ardashir」⇒「Eskandar1世」⇒「Shahragim」(~1272年)
- 1223年-03:00|ペルルシ| |||<死去>トゥーロフ公「アントン・レイ・ウ・アノヴィチ」戦死
- 1223年-03:00|ペルルシ| |||<死去>ドゥヴロウツァ公「アレクサンドル・グレボヴィチ」戦死
- 1223年-03:00|ペルルシ| |||<即位>トゥーロフ公「ウラジミール・スヴァトホロヴィチ」(~1228年)
- 1223年-02:00|ウクライナ| |||<即位>オーヴルチ公「ロスチスラフ・ウラジミロヴィチ」(~1235年)

1250迄 (2474件)

1223年-01:00|スペイン| |||<死去>サルダニャ伯「サンチョ1世」
1223年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ホーメルン=シュラファ=シュトルブ公「ホーキスラフ3世」
1223年-01:00|フランス| |||<死去>ルシオン伯「Sancho」
1223年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェロナ辺境伯「Ezzelino」(~1233年)
1223年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「Guy2世」Agnes2世と結婚(~1225年)
1223年-01:00|スペイン| |||<就任>サルダニャ伯「Nuno」(~1242年死去)
1223年-01:00|ドイツ| |||<就任>スポンハイム=クロイツハ伯「Simon1世」(~12640408死去)
1223年-01:00|ドイツ| |||<就任>スポンハイム=シュタルケンブルク伯「John1世」(~1266年死去)
1223年-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Philippe Hurepel」(~1235年死去)
1223年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ホーメルン=シュラファ=シュトルブ公「ラティボル2世」(~1238年死去)
1223年-01:00|フランス| |||<就任>ルシオン伯「Nuno Sancho」(~1242年死去)
1223年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「レイナルド」(~1230年)
1223年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Gerard1世」(~1232年)
1223年-01:00|ニジェール| |||西アフリカのカムでトゥアマ・デ・イハレミが即位
1223年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラサン伯「ギルバート」
1223年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン伯「ロバート」(~1244.4死去)
1223年1月18日-04:00|ジョージア| |||<死去>グルジア国王「ジョージ4世」
1223年1月18日-04:00|ジョージア| |||<即位>グルジア国王「ルスタン」(~1245年死去)
1223年2月2日-09:00|日本| ||貞応2年|<任命>越後・佐渡・加賀国守護「名越朝時」(~1245年、以後北条氏一門が就任~1333年)
1223年2月2日-09:00|日本| ||貞応2年|<任命>紀伊国守護「佐原家連」(~嘉禎3(1237)年)
1223年2月2日-09:00|日本| ||貞応2年|<任命>能登国守護「名越朝時」(~1245年、以後北条氏一門が就任~1293年、宗長~不詳)
1223年2月2日-09:00|日本| ||貞応2年|<任命>備後国守護「長井時広」(~不詳、以後、泰重、頼重、貞重と続く)
1223年2月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・元光2年|高麗・高宗11年、金国の年号をやめる
1223年2月2日-09:00|日本|和歌山県伊都郡高野町|貞応2年|この年高野山金剛三昧院建立
1223年2月2日-08:00|中国| ||西夏・光定13年|<即位>西夏第9代皇帝「献宗(興德皇帝)李德旺」(~乾定4年(1226年)7月死去)
1223年2月2日-08:00|中国| ||西夏・光定13年|<退位>西夏第8代皇帝「神宗(英文皇帝)李遵顼」
1223年2月2日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉13年|大越でチャン・トゥ・ト(陳守度)が殿前指揮使となり実権をにぎる
1223年2月2日-09:00|日本|愛媛県喜多郡内子町|貞応2年1月1日|越智郡三島神社焼失
1223年2月13日-09:00|日本|京都府京都市|貞応2年1月12日|高陽院焼亡
1223年3月25日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「アフォンソ2世肥満王」
1223年3月26日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「サンシュ2世」(~12480104死去)アフォンソ2世の子
1223年4月15日-09:00|日本|奈良県奈良市|貞応2年3月13日|<竣工>東大寺七重塔
1223年4月18日-09:00|日本| ||貞応2年3月16日|廻船式目が成立、日本最古の海商法となる
1223年5月31日-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<死去>チェルニヒウ公「ムスチスラフ2世・スヴャトスラフイ」
1223年5月31日-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「ミハイル・フセヴォロドヴィチ」(~1235年)
1223年5月31日-02:00|ウクライナ/中国/モンゴル| |||カルカ河畔の戦いでモンゴル帝国軍がキプチャク=ルーシ連合軍に勝利
1223年6月1日-09:00|日本|徳島県|貞応2年5月|幕府土御門上皇を阿波に遠流
1223年6月1日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖18年5月|モンゴルが初めて地方官タルガチを設置
1223年6月2日-02:00|ウクライナ| |||<死去>キエフ大公「ムスチスラフ3世」捕虜となり処刑された
1223年6月2日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ウラジミール4世」(~1235年)
1223年6月14日-09:00|日本| ||貞応2年5月14日|<死去>守貞親王(45歳)高倉天皇の皇子、後堀河天皇の父
1223年6月19日-09:00|日本| ||貞応2年5月19日|<死去>河野通信、奥州の配所で
1223年6月22日-09:00|朝鮮/日本/韓国| ||貞応2年5月22日|日本船が高麗の金州を侵す(倭寇の初め)
1223年6月30日-09:00|日本| ||貞応2年6月|幕府が新補地頭の得分律法を定め、守護・地頭制が確立
1223年7月14日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王(カペー朝)「フィリップ2世尊厳王」/57歳(誕生:11650721)第3回十字軍に出征したがイギリス王リチャードと不和になり帰国した
1223年8月6日-01:00|フランス| |||<即位>フランス国王(カペー朝)「ルイ8世獅子王」フィリップ2世の子(~12261108死去)
1223年12月20日-09:00|日本| ||貞応2年11月27日|<死去>大友能直(52歳/武将、豊前・豊後・筑後守護、鎮西奉行)
1223年12月24日-08:00|中国| ||西夏・乾定1年12月|西夏・献宗が乾定(~1226年旧7月)と改元
1223年12月25日-09:00|日本| ||貞応2年12月2日|厳島神社炎上
1224年-04:00|ロシア| |||<就任>ヴゴロト共和国「ヴゴロト公」ミハイル・フセヴォロドヴィチ(~1226年)
1224年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「マリノ・ソランツォ」(~1226年)
1224年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクソス公「アンゼロ」(~1262年)
1224年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサロニキ皇帝「テオドロス1世コムネノス・ドゥーカス」エペーロ専制公(~1230年捕虜となる)テッサロニキ王国を滅ぼし、テッサロニキで皇帝を称した
1224年-02:00|トルコ| |||<退位>キリキア=アルメニア王国国王「フィリップ」
1224年-02:00|ギリシャ/北マケドニア| |||マケドニアとアトスが東ローマ帝国(ビザンチン帝国)の一部に復活
1224年-02:00|ウクライナ/トルコ| |||ルームセルジューク朝がスタタ(スタタ)占領(~1239年)
1224年-01:00|フランス| |||<死去>マコン伯「ギヨーム4世」

1250迄 (2474件)

1224年-01:00|フランス| |||<就任>オーベール伯「ギョーム10世」(~1246年)
1224年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・パンの「ウイコ」(~1225年)
1224年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のパン「マイケル」(~同年)⇒「アラダール」(~1226年)
1224年-01:00|フランス| |||<就任>マコン伯「Geraud2世」(~1224年死去)⇒「Alix of Macon」(~1239年~1260年死去)
1224年-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「ウラジスラフ4世」(~12270218没)
1224年-01:00|スペイン| |||<即位>デニア・タイファ「Abu Zayd 'Abd ar-Rahman」(~1227年ムワッヒド朝へ)
1224年-01:00|スペイン| |||<即位>バエサ・タイファ「Abd Allah al-Bayasi "El Baezano"」(~1226年カステイリャ王国へ)
1224年-01:00|イタリア| |||フェデリコ、パドヴァ大学を創設
1224年 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「ウィリアム・ド・オービニー」
1224年 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「ヒュー・ド・オービニー」(~12430507死去)
1224年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Geffroi de Lucy」(~1226.5)
1224年 07:00|メキシコ| |||~44/コクタン半島北部、イツァ人とイマル人がマヤパンに対し報復戦争
1224年 07:00|メキシコ| |||クルカン率いるイツァ族がチェン・イツァに居住開始
1224年1月3日-09:00|日本| ||貞応2年12月11日<死去>運慶(76歳)仏師
1224年1月6日-09:00|日本| ||貞応2年12月14日<辞任>摂政「近衛家実」
1224年1月6日-09:00|日本| ||貞応2年12月14日<就任>関白「近衛家実」(~安貞2年12月24日)
1224年1月14日-08:00|中国| ||金・元光2年12月22日<死去>金第8代皇帝「宣宗(吾睹補=ウツフ)」完顔珣/年61
1224年1月15日-08:00|中国| ||金・元光2年12月23日<即位>金第9代皇帝「哀宗(寧甲速=ニンキヤス)完顔守緒・守礼」(~天興3年1月7日(1234年2月9日)死去)
1224年1月22日-09:00|日本| ||貞応3年<任命>信濃国守護「北条重時」(~1246年)
1224年1月22日-09:00|日本| ||貞応3年<任命>摂津国守護「野本時員」(~1230年)
1224年1月22日-09:00|日本| ||貞応3年<この年>毘沙門天像(定慶)できる
1224年1月22日-08:00|中国| ||金・正大1年1月1日<金の哀宗が正大(-1232年)と改元>
1224年2月 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド朝アミール「アブ・ヤクブ・ユースフ2世」
1224年2月 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「アブ・ウルワヒド・マフル」(~9月死去)
1224年4月20日-09:00|日本| 京都府京都市右京区|貞応3年4月|湛慶高山寺の善妙女神像を作る
1224年5月4日-09:00|日本| ||貞応3年4月15日<親鸞>「教行信証」を著す
1224年5月5日-01:00|フランス/イギリス| |||フランスのルイ8世がイングランドに宣戦布告し、フランス西岸のポワトゥー、サントングを占領
1224年7月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ペンブ・ローク伯ウィリアム・マシヤル」(~1226年9月)
1224年7月1日-09:00|日本| ||貞応3年6月13日<死去>大隅国守護「北条義時」
1224年7月1日-09:00|日本| ||貞応3年6月13日<死去>北条義時(第2代執権)[1163年生~](享年62)
1224年7月1日-09:00|日本| ||貞応3年6月13日<任命>大隅国守護「北条朝時」(~1245年)
1224年7月16日-09:00|日本| ||貞応3年6月28日<就任>3代鎌倉幕府執権:北條泰時~仁治3年6月15日
1224年7月17日-09:00|日本| ||貞応3年6月29日<任命>六波羅探題南方「北条時盛(佐介流)」(~仁治3(1242)年2月29日)
1224年7月17日-09:00|日本| ||貞応3年6月29日<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条時氏(得宗家)」(~寛喜2(1230)年4月11日)
1224年9月 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド朝アミール「アブ・ウルワヒド・マフル」
1224年9月 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「アブ・ウッラー・アデイル」(~12271004死去)
1224年9月3日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉14年8月18日<即位>李朝大瞿越第9代皇帝「昭皇李仏金」(~1225.10国家滅亡)
1224年9月3日-07:00|ベトナム| ||大越・建嘉14年8月18日<廃位>李朝大瞿越第8代皇帝「恵宗李昌」政治の実権を完全に掌握した陳守度により(~12260903死去)
1224年9月14日-09:00|日本| ||貞応3年閏7月29日|北条義時の後室伊賀氏、伊賀光宗らと將軍廃立を企てて露見し配流される
1224年9月17日-08:00|中国| ||宋・嘉定17年閏8月3日<死去>南宋第4代皇帝「寧宗」
1224年9月17日-08:00|中国| ||宋・嘉定17年閏8月3日<即位>南宋第5代皇帝「理宗」(~1264年11月16日)
1224年9月19日-09:00|日本| ||貞応3年8月5日<幕府専修念仏を禁ず>
1224年11月13日-07:00|ベトナム| ||大越・天彰有道1年10月|ベトナム李朝の昭皇李仏金が天彰有道と改元(-1225年旧12月11日)
1224年11月22日-09:00|日本| 福井県|貞応3年10月10日|北条義時の娘婿の一条実雅、伊賀光宗の陰謀事件の重要人として越前に配流
1224年12月-02:00|ギリシャ| |||テッサロニキ王国はビザンチン専制公国に併合され滅亡
1224年12月7日-08:00|中国| ||金・正大1年;西夏・乾定2年10月25日|金、西夏と講和する
1224年12月31日-09:00|日本| ||元仁1年11月20日|「元仁」に改元
1225年-05:30|インド| |||<即位>セーナ朝国王「ケーシャヴァ・セーナ」(~1230年)
1225年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ジョチ・ウルス」チンギス・汗の長男(~1227.2死去)
1225年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナシド朝マリク「Uthman Shah」(~同年)
1225年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Gushtasb1世」
1225年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Fariburz3世」前王の息子(~1243年死去)
1225年-03:00|タンザニア| |||<即位>キルワ・スルタン「Ibn Suleiman」(~1264年)

1250迄 (2474件)

1225年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「ギ-1世」オトンの息子(〜1263年死去)
 1225年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレグ・ニツ公「ウァシリコ・ロマノヴィチ」(〜1229年)
 1225年-02:00|トルコ| |||<即位>メンジューク(エルズンジャン)君主「Alaeddin Davudiah2世」(〜1228年)
 1225年-02:00|トルコ| |||ニカイア帝国軍ボ・イマネノンの戦いでラテン帝国に大勝してレスボスとロドス島を奪回
 1225年-01:00|フランス| |||<解任>オセル伯「Agnes2世」
 1225年-01:00|ベルギー-| |||<就任>ベルク伯(ベルク=アルナ家)リンブルク=アルロン家ハインリヒ(〜1246年)
 1225年-01:00|フランス| |||<就任>ボワティエ伯「リカルド2世」(〜1243年)、「Alphonse1世」(〜12710821死去)
 1225年-01:00|ドイツ/イタリア/パレスチナ| |||皇帝フリードリヒ2世がエルサレムの支配権をえる
 1225年1月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>シャウエンブルク伯「アドルフ3世」
 1225年1月3日-01:00|ドイツ| |||<就任>シャウエンブルク伯「アドルフ4世」(⇒12270722兼ホシュタイン伯〜1238年退位)
 1225年2月9日-09:00|日本| ||元仁2年|この年、京都石像寺の石造阿弥陀三尊・弥勒像できる
 1225年2月9日-08:00|中国| ||宋・寶慶1年|南宋の理宗が宝慶(-1227年)と改元
 1225年2月11日 00:00|イギリス| |||大憲章の第3回改定が行われる(最終版)
 1225年2月18日-09:00|日本| ||元仁2年1月10日|金峯山寺蔵王堂が被災
 1225年3月2日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太祖20年;高麗・高宗13年1月22日|著古興事件、蒙古の高麗への使者・著古興が暗殺され、高麗、モンゴル帝国と断交
 1225年5月28日-09:00|日本| ||嘉禄1年4月20日|「嘉禄」に改元
 1225年7月16日-09:00|日本| ||嘉禄1年6月10日|<死去>大江広元(78歳)政所別当
 1225年7月27日-09:00|日本| ||嘉禄1年6月21日|<死去>山内首藤経俊(89歳)武将、元伊勢守護・伊賀守護
 1225年8月16日-09:00|日本| ||嘉禄1年7月11日|<死去>北条政子/70歳(誕生:保元1(1156))/源頼朝の妻で尼將軍と呼ばれた
 1225年9月17日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェッラート侯「ボニファチオ2世」グリエルモ6世の子(〜12530612死去)
 1225年10月4日-03:00|イラク| |||<死去>ハゲダート・アッバース朝カリフ「ナシール」
 1225年10月4日-03:00|イラク| |||<即位>ハゲダート・アッバース朝カリフ「ザーヒル」(〜12260710死去)
 1225年11月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ベルク伯「エンゲルベルト2世」
 1225年11月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>ベルク伯「ハインリヒ4世」(〜12470225死去)
 1225年11月13日-09:00|日本| ||嘉禄1年10月12日|<死去>常陸佐竹氏3代目当主「佐竹秀義」鎌倉名越邸にて/75才/後を義重が継いだ
 1225年11月28日-09:00|日本| 愛知県岡崎市|嘉禄1年10月27日|三河国滝山寺本堂の落慶供養
 1225年11月30日-09:00|日本| ||嘉禄1年10月29日|朝廷新制36条を下す
 1226年-05:30|インド| |||イルトゥミシュがランタンポール城を攻略
 1226年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルダ・ウルス・ハン「オルダ」(〜1251年死去)
 1226年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン「チャガタイ」チンギス・汗の次男(〜12420701死去)
 1226年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド 共和国ノヴゴロド公「ヤロスラフ・フセヴォロドヴィチ」(〜1228年)
 1226年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ウエツィアのカンティエラ公「ジョハニ・ミキエリ」(〜1228年)
 1226年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ヘーラ」(〜1229年)
 1226年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルーツク公「イヴァン・ムスチスラヴィチ」(〜1227年)
 1226年-01:00|フランス| |||<死去>サン＝ポール伯「ギ-2世」
 1226年-01:00|ベルギー-| |||<死去>ナミュール伯「フィリップ2世」
 1226年-01:00|フランス| |||<死去>ペルシュ伯「William2世」
 1226年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「ウァレキーン」(〜同年)
 1226年-01:00|フランス| |||<就任>サン＝ポール伯「ユーク5世」(〜12480409死去)
 1226年-01:00|ベルギー-| |||<就任>ナミュール伯「アンリ2世」フィリップ2世の弟(〜1229年死去)
 1226年-01:00|フランス| |||<就任>ヌヴェール伯「Guigues4世」(〜12411029死去)
 1226年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ジュラ・ネンペリ・カン」(2回目〜)
 1226年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボヘンメルン=シュテッティン公「バルニム1世善良公」(⇒12640517ボヘンメルン公〜12781213死去)
 1226年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボヘンメルン=デミン公「ヴァルティスラフ3世」(〜12640517死去)
 1226年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ヨハン・トリスタン」(〜1232年死去)
 1226年-01:00|イタリア| |||トリノ、ロンバルディア同盟に加盟
 1226年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「グラスゴー-助祭トマス・デ・スターリング」(〜1227年)
 1226年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Olaf svarti Gudhfridharson(Olaf2世 “the Black”)」(〜12370521死去)
 1226年1月11日-07:00|ベトナム| ||大越・建中1年12月12日|<譲位>李朝大瞿越第9代皇帝「昭皇李仏金」夫の陳ケイ(太宗)に禅譲「李朝」滅亡
 1226年1月11日-07:00|ベトナム| ||大越・建中1年12月12日|<即位>陳朝(大越) 皇帝「太宗」(〜12580130(元豊8年)譲位)建中と改元(-1232年旧7月23日)
 1226年1月19日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|嘉禄1年12月20日|北条義時邸の南にあった仮御所から宇都宮辻子の將軍御所への移転
 1226年1月20日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|嘉禄1年12月21日|鎌倉幕府の執権北条泰時が「評定衆」設置、鎌倉大番の制を定める
 1226年1月30日-09:00|日本| 滋賀県愛知郡愛荘町|嘉禄2年|この年、滋賀金剛輪寺阿弥陀像(経円)できる
 1226年1月30日-08:00|中国| ||西夏・乾定4年|<死去>西夏第8代皇帝「神宗(英文皇帝)李遵ギョク」

1250迄 (2474件)

1226年1月30日-08:00|中国| ||大理・天輔1年|後理国の段智祥が天輔と改元
1226年2月24日-09:00|日本| ||嘉禄2年1月26日|幕府が博奕を禁じる
1226年2月25日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|嘉禄2年1月27日|鎌倉幕府は、1219年の実朝死去以来空白になっていた征夷大將軍の職を、九条頼経に任じさせる(鎌倉第4代將軍)
1226年2月26日-01:00|イタリア| ||<ベネチアの戦い>シチリア王国で教皇派ハプスブルグ家がホエンシュタウフェン家に勝利
1226年2月28日-09:00|日本|京都府京都市左京区|嘉禄2年2月|鞍馬寺の観音像(定慶)できる
1226年3月7日 00:00|イギリス| ||<死去>ソールズベリー伯「ウィリアム・ロンゲペー」
1226年5月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー島守護者「Hugues de Saint Philibert」(~同年)⇒「Richard de Grey of Codnor」(1期目~1227年)
1226年5月24日-09:00|日本|福島県白河市|嘉禄2年4月27日|僧忍寂陸奥国白河に反乱し誅せられる
1226年6月14日-04:00|アルメニア| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム1世」共同統治(~1269年退位)
1226年6月14日-02:00|トルコ| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム1世」イザベルの二度目の夫(~12701021死去)
1226年6月29日-09:00|日本|京都府京都市東山区|嘉禄2年6月4日|最勝光院焼亡
1226年7月-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| ||<就任>フランク・ローマ帝国総督「バイエルン公・ライン宮廷伯ルトヴィヒ1世」(~1281225)
1226年7月2日-01:00|ベルギー-/オランダ/ルクセンブルグ| ||<死去>リンブルフ公「ヴァルラム3世」兼ルクセンブルク伯「ヴァルラム」
1226年7月2日-01:00|ベルギー-/オランダ/ルクセンブルグ| ||<就任>リンブルフ公「ハインリヒ4世」ベルク伯(~12460225死去)
1226年7月8日-01:00|ノルウェー| ||<死去>ノルウェー対立王「シグムンド・アーリングソン・リブング」下品王
1226年7月8日-01:00|ノルウェー| ||<即位>ノルウェー対立王「クヌート・ハーコンソン」(~1227年7月)
1226年7月10日-03:00|イラク| ||<死去>バグダード・アッバース朝カリフ「ザーヒル」
1226年7月10日-03:00|イラク| ||<即位>バグダード・アッバース朝カリフ「ムスタンスィル」(~12421202死去)
1226年7月26日-08:00|中国| ||西夏・宝慶1年7月|<死去>西夏第9代皇帝「献宗(興德皇帝)李德旺」
1226年7月26日-08:00|中国| ||西夏・宝慶1年7月|<即位>西夏第10代皇帝「順武皇帝・李乾」(~宝義2年7月15日1227年8月28日死去)宝慶(~1227)と改元
1226年8月25日-09:00|日本|香川県三豊市|嘉禄2年8月|三野郡詫間荘内仁尾浦の覚城院, 焼失
1226年8月25日-09:00|日本| ||嘉禄2年8月1日|幕府准布を停め銅銭を通用せしむ
1226年9月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事「ジェフリー・ト・マリス卿」(2回目~1228年5月)
1226年9月11日-09:00|日本|京都府京都市下京区|嘉禄2年8月18日|故藤原宗隆文庫(梅小路堀川) 炎上、和漢文書多数焼失
1226年9月17日-01:00|イタリア| ||<死去>モンフェッラート侯「カリエル6世」
1226年9月19日-09:00|日本|京都府京都市|嘉禄2年8月26日|太政官文殿焼亡
1226年10月-01:00|フランス| ||フランス王ルイ8世、フランス南東部のアルビジヨ派(アルビ派、カタリ派)の拠点アヴィニョンを陥落させ、「トゥールーズ 伯領」を制圧
1226年10月3日-01:00|フランス| ||<死去>聖フランシスコ/フランシスコ修道会の創始者
1226年10月7日-01:00|ベルギー| ||<死去>シー伯「Louis4世the Young」
1226年10月7日-01:00|ベルギー| ||<就任>シー伯「Joan」(~12710117)
1226年11月8日-01:00|フランス| ||<死去>フランス王(カペー朝)「ルイ8世獅子王」(誕生1187年)、フランス中南部のオージェルニュ山中のモンパソジェで赤痢のため
1226年11月8日-01:00|フランス| ||<即位>フランス王(カペー朝)「ルイ9世聖王」(~12700825死去)
1226年11月28日-09:00|日本|岩手県西磐井郡平泉町|嘉禄2年11月8日|陸奥国平泉毛越寺焼失
1226年12月1日-03:00|イェメン| ||<死去>ラッシー朝イマム「アナジール・ムハマト」
1227年-08:00|インドネシア| ||<死去>シンガサリ王国国王「ケン・アンロク」前トゥマヘル領主トゥングル・アマトゥンの息子アヌサパティに暗殺される
1227年-08:00|インドネシア| ||<即位>シンガサリ王国国王「アヌサパティ」(~1248年死去)
1227年-05:30|インド| ||<建国>モハンプルの前身国家
1227年-05:30|インド| ||ラダック国はモンゴル宗主権下(~1294年頃)
1227年-02:00|キプロス| ||<就任>キプロス副王「ペイルト侯爵ジャン・デ・イペリン(ヨハント・イペリーノ)」(~1229年5月)
1227年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ガリチ公「アントン・ラシ」(~1233年)
1227年-02:00|トルコ| ||<即位>チョバン朝ヘイ「Husameddin Coban」(~?)
1227年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ペレヤスラリ公「フセヴォロド・コンスタンチノヴィチ」(~1227年)
1227年-02:00|トルコ| ||<即位>メンジューク(デイフリー)君主「Ahmetsah」(~1251年)
1227年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ルーツク公「ヤロスラフ・イングヴァレヴィチ」(~1228年)
1227年-01:00|フランス| ||<死去>ルベル伯「ユーク2世」
1227年-01:00|フランス| ||<就任>オマル女伯「Mathilde de Dammartin」(~1259.1死去)、オマル伯「Philip Hurepel」Mathildeと結婚(~1235年死去)
1227年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のバン「フザート・ハネット」(~1228年)
1227年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・ネペリ・サーク」(3回目~1228年)
1227年-01:00|フランス| ||<就任>ルベル伯「ユーク3世」(~1242年)
1227年-01:00|イタリア| ||<即位>スプレート公「コンラート3世」(~1267年)
1227年-01:00|ポーランド| ||<即位>ペレミシユリ公「Yaroslav Ingvarevich」(~1231年)
1227年-01:00|ドイツ| ||シャウエンブルク伯・ホルシュタイン伯アドルフ4世、ヴァルデマー2世に戦勝ホルシュタインを取り戻す(~1238年)
1227年 00:00|イギリス| ||<就任>初代セント・ヘリヤード伯「ヒューバート・ド・バラ」(~1243年死去)

1250迄 (2474件)

1227年 00:00|チンギス諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージ-島守護者「Guillaume de Saint-Jean」(1期目~12291127)

1227年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「マシュー・ザ・スコット」(~1230年)

1227年 00:00|モロコ| |||ムワヒド 朝カリフのアデイルに対してマムーンが反乱

1227年1月6日-04:00|ロシア| |||<死去>スズダリ公・スタロトウプ 公「ウラジミール・フェヴオドロヴィチ」

1227年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>エックス伯「ウィリアム・フィッツジェフリー・ド・マンデヴィル」

1227年1月19日-09:00|日本| ||嘉禄3年|<任命>駿河・伊豆国守護「北条泰時」(~1231年)

1227年1月19日-09:00|日本| ||嘉禄3年|<任命>筑前国守護「少貳資能」(~1273年、以後少貳氏が歴任~1352年)

1227年1月19日-09:00|日本|愛知県瀬戸市|嘉禄3年|加藤四郎左衛門景正が瀬戸村で日本初の有釉陶器の製作開始(瀬戸焼)

1227年1月19日-09:00|日本|京都府京都市上京区|嘉禄3年|この年、大報恩寺本堂出来る

1227年2月-05:00|ガフスタン/キルギス/タジキスタン/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「ジョチ・ウルス」

1227年2月-05:00|ガフスタン/キルギス/タジキスタン/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ハトゥ」ジョチの次男(~1255年死去)

1227年2月-02:00|エストニア/ラトビア/デンマーク| |||リヴォニア 帯剣騎士団はエストニアにおける全デンマーク領地を征服

1227年2月18日-01:00|チェコ| |||<死去>モラヴィア辺境伯「ウラジスラフ4世」

1227年2月18日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「フシェミル」(~12391016死去)

1227年3月16日-01:00|フランス| |||フランス王ルイ9世の母で「摂政」のブランシェ・ド・カスティユ、「ジャン・ド・ヌーヴ」伯「チボ」の懐柔に成功し、ロワール川中流のヴァントームで締結した「ヴァントーム条約」で、「ブルゴーニュ伯」ピエール・ラ・マルシェ伯「ユグ」とも和睦

1227年3月18日-01:00|バチカン| |||<死去>第177代ローマ教皇「ホノリウス3世」

1227年3月19日-01:00|バチカン| |||<就任>第178代ローマ教皇「グレゴリウス9世」(~12410822死去)

1227年6月7日-01:00|フランス| |||<死去>モンペリアル伯「リシャール3世」

1227年6月7日-01:00|フランス| |||<就任>モンペリアル伯「ティエリ3世」リシャール3世の息子(~1283年)

1227年6月7日 05:00|日本|京都府京都市|嘉禄3年4月22日|<京都嘉禄3年の大火>未の刻(14時ごろ)土御門室町あたりから出火し、南勘解由小路まで延焼、半分ほど再建が進んでいた大内裏に延焼し、平安遷都以来、一度も被災しなかった殿舎も含めほとんど焼失/以後再建されず

1227年7月-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー対立王「マクス・ブラトスタック」(~9月没)

1227年7月15日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖22年|西夏・宝慶2年6月|モンゴルのチンギス・ハーンに降り西夏滅亡

1227年7月21日-09:00|日本| ||嘉禄3年6月7日|<死去>尊長(不明)僧。謀反を計画したとして捕縛され、誅殺された

1227年7月22日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||ホルヘフェトの戦いで、北ドイツ諸侯とリュベックがデンマークを破る

1227年7月22日-09:00|日本| ||嘉禄3年6月8日|<死去>薩摩国守護「島津忠久」(次に忠時が継ぐ(~文永2(1265)年隠居)、以後久経、忠宗、貞久と続く~1336年)

1227年8月1日-09:00|日本| ||嘉禄3年6月18日|<死去>北条時実。家人・高橋次郎に殺害された(16歳)北条泰時の子

1227年8月1日-09:00|日本|福井県|嘉禄3年6月18日|<死去>越前国守護「島津忠久」脚氣と赤痢のため(49歳)

1227年8月5日-09:00|日本|京都府京都市|嘉禄3年6月22日|延暦寺が専修念仏の禁制を要求して蜂起。法然の大谷墳墓を破壊

1227年8月19日-09:00|日本| ||嘉禄3年7月6日|延暦寺の訴えで浄土宗などの専修念仏が禁止される

1227年8月25日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太祖22年7月12日|<死去>モンゴル帝国初代皇帝「太祖チンギス・ハーン」病死/65歳(誕生1163年)

1227年8月28日-08:00|中国| ||宋・寶慶3年7月15日|<死去>西夏第10代皇帝「順武皇帝・李乾」

1227年9月-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー対立王「マクス・ブラトスタック」

1227年9月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリングン方伯「ヘルマン2世」(~12410103死去)

1227年9月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリングン方伯「ルートヴィヒ4世」

1227年9月12日-09:00|日本| ||嘉禄3年8月|道元、曹洞宗を伝える

1227年9月19日-09:00|日本|奈良県桜井市|嘉禄3年8月8日|興福寺衆徒らが蜂起し多武峯の数百戸を焼く

1227年9月29日-01:00|ドイツ/バチカン| |||教皇グレゴリウス9世がフリードリヒ2世を破門

1227年10月4日 00:00|モロコ| |||<死去>ムワヒド 朝アミール「アブトウッラー・アデイル」

1227年10月4日 00:00|モロコ| |||<即位>ムワヒド 朝アミール「ヤフヤー・ムウタスィム」(~1229年)

1227年10月13日-09:00|日本| ||嘉禄3年9月2日|<死去>堀川通具(57歳)歌人、大納言

1227年11月11日-09:00|日本| ||嘉禄3年10月|<任命>若狭・越前守護「島津(若狭)忠時」(~1228年)

1227年11月12日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ 朝(ダマスカス)第4代アミール「アルムアッザム」

1227年11月12日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ 朝(ダマスカス)第5代アミール「アンナースィル・ダーウード」(~1229年退位)

1227年11月24日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド 公「レシコ1世ピヤウ」反乱貴族討伐後の帰還中、重臣によって刺殺された

1227年11月24日-01:00|ポーランド| |||<復位>ポーランド 公「ウラジスワフ3世ラスコギ」(~1229年退位~12311103死去)

1228年-05:30|インド| |||<建国>アッサム国(アム人が設立/しばしばヒルマ宗主権下)

1228年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド 共和国ノヴゴロド 公「フォートル・ヤロスラヴィチ」(~1229年)、「アレクサンドル・ヤロスラヴィチ」(~1229年)共同統治

1228年-04:00|ロシア| |||<即位>ムロム公「ユリー・ダヴィドヴィチ」(~1237年死去)

1228年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>トゥーロフ公「ユリー・アントレヴィチ」(~?)

1250迄 (2474件)

1228年-03:00|ヘラルシュ| |||<即位>ピンスク公「ロススラフ・スヴァトホ・ルコウイチ」(~1232年以降)
1228年-03:00|イェメン| |||<即位>ラール朝スルタン「マンスール・ウマル1世」(~1249年)
1228年-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「デヴィアン「ヘルマン・ト・テシー」(~1231年没)
1228年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ジョヴァンニ・ストラート」(~1230年)
1228年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「ジョワワ2世・ト・ウァイルト・ウァン」(~1246年)
1228年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレヤスラフリ公「スヴァトスラフ・フェヴ・オロウイチ」(~1230年)
1228年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルツク公「ウァシリク・ロマウイチ」(~1238年)
1228年-01:00|アントワープ| |||<再任>ウルジエ伯「Aurembiaix女伯」(2期目~1231年死去)
1228年-01:00|ベルギー| |||<就任>シニ伯「Arnold2世」(~12730222死去)
1228年-01:00|スペイン| |||<即位>メノカ・タイファ「Abu Sa'id Utman」(~1281年)
1228年-01:00|スペイン| |||<即位>ムカ・タイファ「Abu 'Abd Allah Muhammad」(~1250年)
1228年 00:00|チャンル諸島/イギリス/フランス| |||イングランドは、オルダニー島へのケタンズ司教の権利を剥奪
1228年1月-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「ロベール」
1228年1月-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「ホー・ト・ウァン2世」ピエール2世・ト・クルネーとヨランド・ト・エノーの息子(⇒1261年コンスタンティノープルより亡命~1273. 10死去43歳)
1228年1月9日-09:00|日本| ||安貞1年12月|<任命>若狭国守護「北条時氏」(~寛喜2(1230)年6月18日死去、以後、経時、重時、時茂、時宗、貞時、宗方、宣時、貞時、高時と続く~1333年)
1228年1月18日-09:00|日本| ||安貞1年12月10日|「安貞」に改元
1228年2月6日-01:00|チェコ| |||<即位>ホーミ7王「ウァツラフ1世隻眼王」(~12301212共同統治~12530921没)
1228年2月7日-09:00|日本| ||安貞2年|<任命>越前国守護「後藤基綱」(~不詳)
1228年2月7日-09:00|日本| ||安貞2年|<任命>常陸国守護「小田知重」(~不詳)
1228年2月8日-08:00|中国| ||宋・紹定1年|南宋の理宗が紹定(-1233年)と改元
1228年3月8日-09:00|日本|京都府京都市東山区|安貞2年2月|僧浄業、戒光寺を創建
1228年4月6日-09:00|日本| ||安貞2年3月|<死去>常陸守護・小田城主「小田筑後守知重」年60才/家督を時知が継ぐ
1228年4月25日-02:00|パレスチナ| |||<死去>エルサレム国王「イザベル2世」16歳
1228年4月25日-02:00|パレスチナ| |||<即位>エルサレム国王「コンラート2世」フリートリヒ2世とイザベル2世の息子(~12540521死去26歳)
1228年5月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「コノート領主リチャード・ト・バーグ」(~1232年11月)
1228年5月28日-09:00|日本|奈良県桜井市|安貞2年4月23日|興福寺衆徒らが再度多武峯を焼く/このため、延暦寺衆徒も蜂起し、近江国の興福寺領を没収
1228年6月28日-01:00|ドイツ| |||トイテ帝フリートリヒ2世の十字軍(第5回十字軍)が出発
1228年7月1日-09:00|日本| ||安貞2年5月28日|<死去>下総国守護「千葉胤綱」(時胤が継ぐ~仁治2(1241)年9月17日死去)
1228年7月18日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<死去>イストリア辺境伯「Henry2世」兼カルニオラ辺境伯「Henry」
1228年7月18日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯・カルニオラ辺境伯「Otto1世」(~12340507死去)
1228年8月21日-09:00|日本|京都府京都市|安貞2年7月20日|<安貞2年京都鴨川氾らん洪水>京都が暴風雨に襲われ、鴨川などの洪水により家屋が流失し溺死者が多数出た
1228年9月24日-01:00|セルビア| |||<死去>セルビア王「ステファン1世」
1228年9月24日-01:00|セルビア| |||<即位>第3代セルビア王(ネマニッチ朝)「ステファン・ラトスラヴ」ステファン・ネマニッチの子(~1234年1月)
1228年10月15日-09:00|日本| ||安貞2年9月16日|<死去>藤原殖子(七条院)(72歳)高倉天皇の妃
1228年11月5日-09:00|日本|京都府京都市|安貞2年10月7日|諸国・京都に大風雨、珍皇寺の塔顛倒、法勝寺の九重塔など倒れる
1228年12月26日-09:00|日本| ||安貞2年11月28日|六波羅探題が高野山衆徒の武装を禁止
1228年12月30日-09:00|日本|茨城県|安貞2年12月3日|<死去>常陸守護「八田知重(小田知重)」(65歳)
1229年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「タビーン」(~1232年)
1229年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ミハイル・フェヴ・オロウイチ」(~同年)⇒<就任>「ロススラフ・ミハイロウイチ」(~1230年)
1229年-03:30|イラン| |||<即位>ヤズド・アタベク朝スルタン「クトゥブッディーン・マフムード・シャー・イブン・イスファサラル」(~1241年)
1229年-03:00|イェメン| |||<死去>アイユーブ朝(イェメン・ハジヤス)アミール「アル=マサウド」
1229年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ハマ)第3代アミール「アン=ナスイル・キリジ・アルスラン」
1229年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ギュラ・ラート」(~1231年)
1229年-02:00|ヨルダン| |||<即位>アイユーブ朝(カラク)アミール「An-Nasir Dawud」(~1249年)
1229年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(タマスカス)第6代アミール「アル=アシュラフ」(~12370827死去)
1229年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ハマ)第4代アミール「アル=ムザッファル・マフムード」(~1244年死去)
1229年-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝ジャン(摂政)[エルト2世・ト・ブリエンヌとアネスト・モントファウコンの息子](~12370327, 67歳没)
1229年-01:00|ベルギー| |||<死去>ナミュール伯「アンリ2世」
1229年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国「ジョー(元首)「ヤコポ・ティエポロ」(~1249年)
1229年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ギュラ・ハン」(~1235年)
1229年-01:00|ベルギー| |||<就任>ナミュール伯「マルグリット」アンリ2世の姉(~1237年)フィアンデン伯ハインリヒ1世と結婚

1250迄 (2474件)

1229年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「デ・ネス・フィア・デ・ネス・ネヘル・トマイ」(1回目~1230年)
1229年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブ・サカリヤ・ヤフヤー1世」(~1249年死去)ムワッヒド朝から自立
1229年-01:00|スペイン| |||<即位>ハレンシア・タイファ「Zayyan」(~1238年)
1229年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「コンラト1世マゾヴィエツ」カジミェシュ2世の息子/マゾフシェ公を兼ねる(~1232年~12470831死去)
1229年-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ(フウォツク)公「ホレスワフ1世」コンラト1世の息子(~12480202死去)
1229年-01:00|スペイン| |||<即位>マラガ・タイファ「Ibn Zannun」(~1239年)
1229年-01:00|ポーランド| |||<退位>ポーランド公「ウワデ・イスワフ3世ラスコギ」(~12311103死去)
1229年-01:00|スペイン| |||アラゴン王国ハイメ1世がイスラム教徒が支配するバレアス諸島を占領
1229年 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「イドリス・マムーン」(~12321016死去)
1229年1月20日-09:00|日本|京都府京都市|安貞2年12月24日|<就任>関白「九条道家」(~寛喜3年7月5日)
1229年1月27日-09:00|日本|青森県弘前市|安貞3・寛喜1年|<萩野台合戦>(現在の弘前市和徳津賀野)十三秀直が、安藤氏と対峙/曾我氏の援軍を得た安藤氏に敗れ戦死
1229年1月27日-09:00|日本|京都府京都市右京区|安貞3・寛喜1年|この年、高山寺明恵上人樹上座禅図(成忍)できる
1229年1月27日-09:00|日本|熊本県球磨郡湯前町|安貞3・寛喜1年|この年、熊本明導寺阿弥陀像できる
1229年2月11日-02:00|イスラエル/トイ| |||第6回十字軍のトイ帝フリードリヒ2世がヤッファで協定を結び、政治的に十字軍を終わらせる努力を
1229年2月14日 00:00|アイスランド| |||<死去>マン王「Ragnvaldr Gudhfridharson」
1229年2月18日-02:00|イスラエル/トイ| |||<第6回十字軍>アイューブ朝が十字軍側へエルサレム返還し10年間の休戦条約締結
1229年3月17日-02:00|イスラエル| |||十字軍エルサレム王国がエルサレム再取得
1229年3月17日-02:00|パレスチナ/トイ| |||第6回十字軍がエルサレムを奪回し、フリードリヒ2世が入城
1229年3月18日-02:00|イスラエル/トイ| |||神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世、「聖墳墓教会」でエルサレム王として戴冠式を行う
1229年3月31日-09:00|日本| ||寛喜1年3月5日|安貞から寛喜に改元
1229年4月5日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「ヒェルベントのヒュゴ」
1229年4月5日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「エッパスのヨハネ」(~12380430死去)
1229年4月12日-01:00|フランス| |||フランス王ルイ9世(母後の摂政「ランシュ・カステイユ」)、「トゥールーズ伯」レモン7世と協定を結ぶ(「モナポリ条約」)/レモン7世が降伏し、「ロヌ川以西」の領地をフランス王に譲渡/「アルビ」ヨワ十字軍が終結
1229年5月-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政代行「アイメリ(アイメリック)・バルレ/ゴウ・アン・ド・シェニエ/エメル・ド・ヴェイサン/ユーク(ユゴ)・エンブリャコ・ド・ジブレット/ギョム・ド・リヴァ」(~7. 14)
1229年5月1日-01:00|トイ/イスラエル/パレスチナ| |||フリードリヒ2世がエルサレムとシリアの内乱状態の中、アッコンに向けて出帆
1229年5月1日-09:00|日本| ||寛喜1年4月7日|寛徳以後の新立荘園を停止
1229年7月14日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政「バイルト侯爵ジャン・デ・イペリン(ヨハント・イペリーノ)」(~12320503)
1229年7月14日-02:00|キプロス| |||アンリ1世の摂政だったジャン・デ・イブランが皇帝派をニコシアの前面で破る
1229年9月13日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗1年8月24日|<即位>モンゴル帝国第2代皇帝「太宗トギテギン」の三男(~太宗13年11月8日1241年12月11日)
1229年10月10日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯「ヘンリー・ド・ホーモント」
1229年10月10日 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯「トマス・ド・ホーモント」先代の子(~12420626死去)
1229年10月22日-01:00|オランダ| |||<死去>ゲルデルン伯「ゲルハルト3世(ヘルト3世)」
1229年10月22日-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルデルン伯「オット2世」(~1271年)
1229年11月27日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Richard de Grey of Codnor」2期目+「Jean de Grey」(~1230年)
1229年11月29日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「クスト2世」(~1234年死去)
1229年12月4日-09:00|日本|栃木県|寛喜1年11月17日|<死去>下野守護「小山朝長」(42歳)
1229年12月14日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|寛喜1年11月27日|備後国吉備津宮焼亡
1230年-04:00|ロシア| |||<再任>ヴゴロト共和国「ヴゴロト公」「ヤロスフ・フセヴォド・ウイチ」(~1236年)
1230年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ムスチスラフ・ダウイトウイチ」
1230年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ロスチスラフ・ムスチスラフイチ」(~1232年)
1230年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ニコロ・トニスト」(~1232年)
1230年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス専制公(テッサロニキ)「マヌエル・コムネノス・ド・ウカス」(~1237年廃位)、(エピロス)「ミカエル2世アンゲロス・コムネノス」(~1268年死去)
1230年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレヤスラヴリ公「オレグ」(~1321年死去)
1230年-02:00|ギリシャ| |||<廃位>テッサロニキ皇帝・エピロス専制公「テオドロス1世コムネノス・ド・ウカス」ブルガリア帝国を攻撃したが大敗を喫してブルガリア軍の捕虜となる
1230年-01:00|スペイン| |||<死去>ガルシア王「アルフォンソ9世」
1230年-01:00|スペイン| |||<就任>アンブリアス伯「Ponc4世」(~1269年)
1230年 00:00|イギリス| |||<就任>初代サーランド伯「ウィリアム・ド・モウ・イア(ウィリアム・サーランド)」(~1284年)
1230年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Philippe de Carteret」+「Amaury de Saint-Amand」(~1234年)
1230年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「ソングハ・ケイタ」(~1255年死去)マンデインゴのカガバ地方を支配、初の黒人イスラ

1250迄 (2474件)

ム国家

1230年 00:00|マリ| ||マリ王国ムサ王がメッカ巡礼から帰り、トブクツに大モスクを建築
1230年1月8日-09:00|日本|京都府京都市|寛喜1年12月22日|蓮華蔵院塔、二条南十一面堂が焼亡し、金物盗人の仕業と噂される
1230年1月16日-09:00|日本| ||寛喜2年|<任命>筑前国・対馬国守護「少貳資能」(~不詳、以後、経資、盛経、貞経が歴任~元弘4(1334)年)
1230年1月16日-09:00|日本| ||寛喜2年|<任命>肥前国守護「少貳資能」(~1273年、次に経資が継ぐ~1285年)
1230年1月16日-09:00|日本| ||寛喜2年|<任命>豊前国守護「少貳資能」(~不詳、次に経資が継ぐ~1285年)
1230年1月16日-09:00|日本| ||寛喜2年|「寛喜の飢饉」翌年にかけての大飢饉/北陸・四国の被害が大きく餓死者続出
1230年4月-01:00|北マクトニア/ブルガリア| ||マクトニアはブルガリアの一部(~1246年)
1230年4月11日-09:00|日本|京都府京都市|寛喜2年2月27日|行願寺・六波羅蜜寺焼亡
1230年4月15日-07:00|ベトナム| ||ベトナム陳朝で刑律が完成
1230年5月10日-09:00|日本| ||寛喜2年3月26日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条重時(極楽寺流)」(~宝治元(1247)年7月3日)
1230年5月13日-01:00|ポーランド| ||<死去>ボレスラフ1世公「カジミェシュ1世」
1230年5月13日-01:00|ポーランド| ||<就任>ボレスラフ1世公「ミェシュ2世」(~12461022死去)
1230年6月22日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Henri de Trubleville」(1期目~1232. 7)
1230年7月12日-01:00|フランス| ||<死去>マργアレータ「Margaret」
1230年7月12日-01:00|フランス| ||<就任>マργアレータ「Mary」(~1241年死去)
1230年7月28日-01:00|オーストリア| ||<死去>オーストリア公・シュターアマルク公「レオポルト6世」54歳
1230年7月28日-01:00|オーストリア| ||<即位>オーストリア公・シュターアマルク公「フリートリヒ2世喧嘩公」(~1回目~1237年1月)
1230年7月29日-09:00|日本|福井県|寛喜2年6月18日|<死去>若狭国守護「北条時氏」経時が継ぐ(~1231年、次に重時、時茂、時宗、貞時、宗方、宣時、貞時、高時と続く~1333年)
1230年8月10日-08:00|中国/モンゴル| ||モンゴル帝国のオグタイとウルイが金朝遠征に出発
1230年8月17日-09:00|日本| ||寛喜2年7月8日|<死去>北陸宮(66歳)以仁王の子
1230年9月9日-09:00|日本|愛知県あま市|寛喜2年8月|入蓮、尾張国法蔵寺の地藏菩薩立像を造立
1230年9月9日-05:00|ウスベキスタン/トルコ| ||金の正大7年8月|ホラズムシャー朝のジャラルガ、ルムセルジュク朝に敗退
1230年9月21日-09:00|日本| ||寛喜2年8月13日|<退任>淡路国守護「長沼宗政」=><就任>「時宗」嫡子(~1243年)
1230年9月23日-01:00|スペイン| ||<死去>レオン国王「アルフォンソ9世」
1230年9月23日-01:00|スペイン| ||<即位>レオン国王「フェルナンド3世」(~12520530死去)カスティーリャ国王を兼ねる
1230年12月15日-01:00|チェコ| ||<死去>ボヘミア王「プリェミスル」
1230年12月23日-01:00|フランス| ||<死去>メヌ伯「ペレグリア・オブ・ナヴァール」
1231年-05:30|インド| ||ホイサ朝ナシナハ2世がバヘンデイ朝を破る
1231年-05:30|インド| ||ヤダヴァ王コーツパルシンガがチョーラ朝ラジャラジャ3世を破る
1231年-02:00|イスラエル/パレスチナ| ||<就任>聖ヨハネ騎士団「デヴィアン・ケラン・ブルラン」(~1236年5月、エジプトの捕虜となり亡くなった)
1231年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「デニス・トマシ」(~1234年)
1231年-02:00|トルコ| ||コニヤに神秘主義者ルミーのテッカ(修道場)が建設
1231年-01:00|アントワープ| ||<死去>ウルシエイ伯「Aurembiaix女伯」
1231年-01:00|マルタ| ||<死去>マルタ伯「Enrico de Castro "Pescatore"」
1231年-01:00|アントワープ| ||<就任>ウルシエイ伯「アラゴン王James1世」(~1236年)
1231年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パ拉丁「モジ」(~1234年)
1231年-01:00|マルタ| ||<就任>マルタ伯「Nicolosio de Castro」(~?)
1231年-01:00|ポーランド| ||<即位>アレクサンドル公「Aleksandr Vsevolodich」(~1234年)
1231年-01:00|スペイン| ||<即位>マヨルカ王「ジャウメ1世」(~12760727死去)
1231年-01:00|バチカン| ||教皇グレゴリウス9世が異端審問制度を設置
1231年-01:00|ドイツ| ||ゲルマン人が東プロシエンへ進出し、東方植民が活発化
1231年-01:00|チェンジア/イタリア| ||ハプス朝アプーガベネア、ピサ、ジェノヴァと通商条約を締結
1231年 00:00|イギリス| ||<就任>スコットランド大法官「グラスゴー司教ウィリアム・デ・ボンデイントン」(~1233年)
1231年1月5日-08:00|中国| ||宋・紹定3年12月|淮南の李全が謀反を起こす
1231年2月1日-09:00|日本| ||寛喜2年12月28日|<死去>松殿基房(86歳/元摂政・関白・太政大臣)
1231年2月4日-09:00|日本| ||寛喜3年|<任命>安芸国守護「武田信光」(~不詳)
1231年2月4日-09:00|日本|京都府京都市右京区|寛喜3年|この年、神護寺真言八祖像(俊賢)ができる
1231年2月4日-08:00|モンゴル| ||モンゴルが中書省を設置し、耶律楚材を中書令とする
1231年2月18日-09:00|日本|京都府京都市|寛喜3年1月15日|京都大火/深夜に出火、六角-綾小路の商家など、西の洞院-室町一帯焼失
1231年2月18日-08:00|中国| ||宋・紹定4年1月15日|淮南の李全を誅す
1231年4月 00:00|イギリス| ||<就任>リカン女伯「ハヴイス・オブ・チェスター」(~12321123)
1231年4月6日 00:00|イギリス| ||<死去>ペンブルク伯「ウィリアム・マーシャル」
1231年4月6日 00:00|イギリス| ||<就任>ペンブルク伯「リチャード・マーシャル」(~12340416死去)

1250迄 (2474件)

1231年4月8日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガラント公「ニコラス・フォン・ナウエン」(~1253年12月、死去)
1231年5月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハインリッヒ7世が世俗諸侯にも教会諸侯と同じ支配特権を賦与
1231年5月7日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニユ伯「ベアトリス2世」
1231年5月7日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニユ伯「オトン3世」オトン2世・ベアトリス2世の息子、メーノ公(~12480619死去)
1231年5月24日-09:00|日本| ||寛喜3年4月21日|幕府が六波羅に命じて強盗、殺人などの法規を制定
1231年6月14日-09:00|日本| ||寛喜3年5月13日|幕府が、守護・地頭・検非違所の所務および守護・地頭と領家預所との訴訟法を定める
1231年7月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=ハッハルグ辺境伯「ハインリヒ1世」
1231年7月2日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン=ハッハルグ辺境伯「ハインリヒ2世」(~1289年)
1231年7月2日-09:00|日本|京都府京都市|寛喜3年6月|霖雨により賀茂川洪水、溺死者河原に散乱
1231年7月5日-01:00|フランス/イギリス| |||イングランドとフランスの間に3年間の休戦協定が結ばれる
1231年7月31日-09:00|日本| ||寛喜3年7月|寛喜の大飢饉、天候異常で諸国で飢餓・疫病がひろがり、非常に多くの餓死者が出る
1231年8月4日-09:00|日本| ||寛喜3年7月5日|<就任>関白「九条教実」(~寛喜4(1232)年10月4日)
1231年8月15日-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<死去>ホラズム・シャー朝スルタン「ジャラルッディーン・メングヘルディーン」殺され、ホラズム・シャー朝が滅亡
1231年8月29日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗3年8月|モンゴル、中書省を設け、耶律楚材を中書令とする
1231年8月29日-09:00|日本|京都府京都市左京区|寛喜3年8月1日|尊勝寺五重塔焼亡
1231年9月15日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>バイエルン公・ライン宮中伯「ルートヴィヒ1世」暗殺された(57歳)
1231年9月15日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>バイエルン公・ライン宮中伯「オットー2世」ルートヴィヒ1世の息子(~12531129死去47歳)
1231年9月26日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太宗3年;高麗・高宗19年8月29日|蒙古軍が高麗侵略を開始し、義州と開城を占領
1231年10月16日-09:00|日本| ||寛喜3年9月19日|家屋を壊して薪にすることが禁じられる
1231年11月5日-09:00|日本| ||寛喜3年10月10日|<死去>尊円法親王(25歳)後鳥羽天皇の皇子
1231年11月6日-09:00|日本|徳島県|寛喜3年10月11日|<死去>土御門上皇(83代土御門天皇)、配流先の阿波にて(37歳、建久6(1195)1202生)
1231年11月20日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|寛喜3年10月25日|火災により公文所が焼失、東は勝長寿院の橋、西は永福寺総門の内門に及び源頼朝、北条義時の法華堂は本尊とともに灰となり人畜の焼死は数えきれず
1231年11月28日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「ヴァルデマー若王」
1231年11月28日-09:00|日本| ||寛喜3年11月3日|朝廷新制42条を下す
1231年12月24日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太宗3年;高麗・高宗19年11月29日|モンゴル、開京に至る/高麗王は降伏
1231年12月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太宗3年;高麗・高宗19年12月1日|モンゴル、高麗と講和する
1232年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ナガナティン」(~1234年)
1232年-05:30|スリランカ| |||(~1136)シンハラ王のウジジャヤバール3世が、タンパデニヤに遷都
1232年-05:30|インド| |||イルトゥミシュがクワリヤル城を攻略
1232年-05:30|インド| |||グワリエル国はデヒリ(デリー)スルタン国に併合(~1398年)
1232年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「スヴャトスラフ・ムスチスラヴィチ」(~1238年)
1232年-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「ユーリー・ムスチスラヴィチ」(~1240年)
1232年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グィテフ・スク公「イジヤスラフ・ブリアチスラヴィチ」(~1262年)
1232年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ボロツク公「ブリアチスラフ2世・グァシリコヴィチ」グィテフ・スク公(~1242年)
1232年-03:00|ベラルーシ| |||<退位>グィテフ・スク公「ブリアチスラフ・グァシリコヴィチ」
1232年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「バルトロメオ・グランドニコ」(~1233年)
1232年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ朝(ヒスン・カイファ)アミール「As-Salih Ayyub」(~1239年)
1232年-02:00|ウクライナ| |||<即位>グィスコロド公「イジヤスラフ・ムスチスラヴィチ」(~1235年)
1232年-01:00|フランス| |||<死去>メヌ伯「ヨハン・トリスタン」
1232年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ボスニア・バン「マティ・ニコスラフ」(~1250年)
1232年-01:00|スペイン| |||<即位>アルナ・タイファ「Muhammad1世」(~1244年カスティリア王国へ)
1232年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Aldrighetto di Castelfranco」(~1247年)
1232年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ヘンリク1世」ブダペスト「グワディスワフ2世」グィナニツの孫息子/シロンスク公を兼ねる(~12380519死去)
1232年1月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・アミール「ラージ・ブン・カタ・ブン・イト・リース・アルハサニー」(~6月)
1232年1月24日-09:00|日本| ||寛喜4年|<任命>丹波国守護「北条時盛」(~建治3(1277)年5月2日死去、次に時国が就任~1284年)
1232年2月11日-08:00|中国| ||金・開興1年1月19日|金の哀宗が開興と改元
1232年2月14日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・高宗20年1月22日|高麗、都を開京から江華島に移し抵抗
1232年3月19日-09:00|日本| ||寛喜4年2月26日|飢饉のため、麦藁を牛・馬の飼料とすることが禁じられる
1232年4月13日-08:00|中国/モンゴル| ||金・開興1年3月21日|モンゴル、開封を攻める
1232年4月23日-09:00|日本| ||貞永1年4月2日|寛喜から貞永に改元
1232年4月28日-08:00|中国/モンゴル| ||金・開興1年;高麗・高宗20年4月7日|金、モンゴルと講和
1232年5月3日-01:00|ドイツ/キプロス| |||フリードリッヒ2世の遠征軍の指揮者リカルド・フィランツェリがアグリディでキプロスのジャン・

1250迄 (2474件)

デ・イランに敗れる

1232年5月5日-08:00|中国| ||金・天興1年4月14日|金の哀宗が天興(-1234年)と改元

1232年5月30日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<就任>シュレースヴィヒ公「アーベル」(1250年デンマーク王~12520629死去)

1232年5月30日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「エリク4世」ヴァルデマー2世とベレンガリア・デ・ポルトガルの長男(~12500809死去)ヴァルデマー2世と共同統治

1232年5月30日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<退位>シュレースヴィヒ公「エリク4世」

1232年6月18日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「スティルミール フロディ カラソン」(2回目~1236年)

1232年8月11日-07:00|ベトナム| ||大越・天応政平1年7月23日|大越陳朝太宗・天応政平と改元(-1251年旧2月)

1232年8月26日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|貞永1年8月9日|和賀江島(鎌倉)に港を築く

1232年8月27日-09:00|日本| ||貞永1年8月10日|北条泰時が最初の武家法典である御成敗式目51箇条を施行

1232年9月16日-09:00|日本|愛知県名古屋市中熱田区|貞永1年9月|僧永嚴、尾張宝勝院阿弥陀如来立像を造立し、經典を胎内に納める

1232年9月16日-08:00|中国| ||金・天興1年9月|金の哀宗が汴京から逃走

1232年9月28日 00:00|フランス諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Philippe d'Albini1世」(2期目~12340613)、「Guillaume de Saint-Jean」(2期目~10月)

1232年10月16日 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド 朝アミール「イト・リス・マムーン」

1232年10月16日 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド 朝アミール「アブ・ウルワ-ヒド・ラシード」(アブ・ウルワ-ヒド2世)」(~12421204死去)

1232年10月23日-09:00|日本| ||貞永1年閏9月8日|彗星東方に出現。2丈余

1232年10月26日 00:00|イギリス| |||<死去>6代チェスター伯「ラルフ・ト・ブ・ロント・ヴァイル」

1232年10月26日 00:00|イギリス| |||<就任>チェスター女伯「Matilda of Chester」(~11.21)、7代チェスター伯「ジョン・オブ・スコットランド」ハンティントン伯(~12370606死去)

1232年11月-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・アミール「ラジ-・ブン・カタ・ブン・イト・リス・アル=ハサニー」(2回目~1233.8)

1232年11月 00:00|アイスランド/イギリス| |||<就任>アイスランド 判事「オファリー卿モリス・フィッツ・エラルト」(~1246年7月)

1232年11月15日-09:00|日本| ||貞永1年10月2日|藤原定家新勅撰和歌集を上る

1232年11月17日-09:00|日本| ||貞永1年10月4日|<就任>摂政「九条教実」(~文暦2年3月28日)

1232年11月17日-09:00|日本| ||貞永1年10月4日|<譲位>86代「後堀河天皇」上皇となる

1232年11月17日-09:00|日本| ||貞永1年10月4日|<踐祚>87代「四条天皇」/12月5日即位(~12420109)

1232年11月23日 00:00|イギリス| |||<就任>リンカン女伯「マガレット・ド・クインシー」(~1266.3死去)、リンカン伯「ジョン・ド・レイシー」(~12400722死去)

1233年-05:00|モルディブ| |||<即位>ティムゲ 朝スルタン「Valla Dio」(~1258年)

1233年-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・アミール「ラジ-・ブン・カタ・ブン・イト・リス・アル=ハサニー」(3回目~1234.7)

1233年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ジョン・セリク」リガ・オニア帯剣騎士団団長(~1234年)

1233年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヘルス公「ダニール・ロマノヴィチ」(~1241年)兼<復位>ガリチ公「ダニール・ロマノヴィチ」(~1234年)

1233年-01:00|ドイツ| |||<死去>オルデンブルク伯「クリスチャン2世」

1233年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「ヨハン1世」(~1270年死去)

1233年-01:00|ポーランド| |||<即位>クヤヴィ公カシミェシュ1世「コンラト1世の息子」(~12671214死去)

1233年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||フィウメはフランコパンの領地(~13650401)

1233年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ウィリアム・デ・リンゼイ卿」(~1249年)

1233年1月11日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポメルニェ=ベルガルト=リープシャウ=シュヴェツ公「ヴァルティスラフ1世」

1233年1月11日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポメルニェ=ベルガルト公「ティボール1世」(~1262年ドイツ騎士団に加入、ポメルニェ=ベルガルトはポメルニェ=タンツィヒに併合)

1233年1月11日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポメルニェ=リープシャウ公「サンボール2世」(~1270年~12771230死去)

1233年1月11日-09:00|日本| ||貞永1年11月29日|幕府が六波羅に成敗の法16条を下す

1233年2月11日-09:00|日本| ||貞永2年|この年、三十六歌仙絵巻(藤原信実)できる

1233年2月11日-09:00|日本|京都府京都市南区|貞永2年|この年、東寺弘法大師北面御影(康勝)できる

1233年2月11日-09:00|日本|広島県尾道市|貞永2年|この年、源行光15回忌の追善のため、木造阿弥陀如来立像(瀬戸田耕三寺蔵)造立

1233年2月11日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|貞永2年春|道元、伏見深草に興聖寺を創す

1233年3月-02:00|シリア=アラブ| |||<死去>アンティオキア公「ボエモン4世」トリポリ伯

1233年3月-02:00|シリア=アラブ| |||<即位>アンティオキア公「ボエモン5世」(~1252.1死去)

1233年3月1日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「トマーゾ1世」

1233年3月1日-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「アメーオ4世」(~12530611死去)

1233年3月5日-08:00|中国/モンゴル| ||金・天興2年1月23日|開封で兵士が反乱を起こし、モンゴルに降る

1233年5月11日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗4年;金・天興2年4月|モンゴル軍が金国の抹梁を陥落

1233年5月25日-09:00|日本| ||天福1年4月15日|貞永から天福に改元

1233年6月28日-09:00|日本| ||天福1年5月19日|幕府が在京の御家人らが乗車して洛中を往来することなどを禁じる

1233年7月8日-09:00|日本| ||天福1年5月29日|<死去>近衛基通(74歳/元摂政・関白・内大臣)

1233年7月27日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「フェラン」フランス北部のワイヨンで

1250迄 (2474件)

1233年8月21日-09:00|日本| ||天福1年7月15日|道元、「普勸坐禅儀」を撰する
1233年9月6日-09:00|日本| ||天福1年8月|<死去>藤原孝範(76歳/文章博士・大学頭・越前守、漢詩人)
1233年9月20日-09:00|日本| ||天福1年8月15日|六波羅探題の要請により、幕府が犯罪人の成敗法17ヶ条を定める
1233年10月5日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗5年9月|この月蒲鮮万奴、モンゴルに囚われ、大真滅亡
1233年10月22日-09:00|日本| ||天福1年9月18日|<死去>九条しゅん子(藻壁門院)(25歳)後堀河天皇の中宮
1233年12月3日-08:00|中国/モンゴル| ||宋・紹定6年;金・天興2年11月1日|宋軍、モンゴルを助け、蔡州を攻める
1234年-06:30|ミャンマー| ||<即位>アラカン国王「ンガナロン」(~1250年)
1234年-05:30|スリランカ| ||<即位>ダンパデニヤ王国国王「Parakkamabahu2世」Vijaya Bahu3世の長男(~1269年)
1234年-05:30|インド| ||イルトゥミシュが中央インドのマールワ地方を侵略
1234年-03:00|イラク| ||<死去>ザンギー朝モースル・アミール「ナースイル」
1234年-03:00|イラク| ||<即位>ザンギー朝モースル・アミール「バドルッティーン・ルール」(~1259年死去)
1234年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「アンジエロ・グラーデニコ」(~1236年)
1234年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「アントール・セラフィム」(~1235年)
1234年-01:00|スウェーデン| ||<死去>スウェーデン王国国王「クヌート2世」
1234年-01:00|フランス| ||<就任>オマル伯「Simon of Dammartin」(~12390921死去)
1234年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パラティン代行「ベネク・フィア・サム」(~1235年)
1234年-01:00|スペイン| ||<即位>ニブラ・タイファ「Su'ayb」(~1262年)
1234年-01:00|ポーランド| ||<即位>ペルミシュリ公「Rostislav Mikhailovich」(1度目~1240年)
1234年-01:00|スウェーデン| ||<復位>スウェーデン王国国王「エリク11世」(~12500202死去)
1234年 00:00|イギリス| ||<死去>デハイバース公「リス噂声公」
1234年 00:00|イギリス| ||デハイバースはグレイヴの一部(~12821211)
1234年1月-01:00|セルビア| ||<即位>第4代セルビア王(ネマニッチ朝)「ステファン・ヴラディ斯拉ヴ」ステファン・ネマニッチの子、ステファン・ラトスラヴの弟(~1243年4月、兄のウシュによって打倒される)
1234年1月26日-09:00|日本|京都府京都市南区|天福1年12月25日|西寺が炎上
1234年1月31日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・高宗22年|高麗が金属活字で「評定古今礼文」50巻を印刷する
1234年1月31日-09:00|日本|栃木県足利市|天福2年|この年、鋳阿寺本堂・鐘楼できる
1234年1月31日-08:00|中国| ||宋・端平1年1月1日|南宋の理宗が端平(-1236年)と改元
1234年2月9日-08:00|中国/モンゴル| ||金・天興3年1月10日|<死去>金第9代皇帝「哀宗(寧甲速=ニシキス)完顔守緒・守礼」
1234年2月9日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗6年;宋・端平1年;金・天興3年1月10日|<即位>金第10代皇帝「末帝(呼敦=ホトン)完顔承麟」効里鉢の末裔/モンゴル軍と南宋軍の挟撃によって同日死去、金が滅亡
1234年3月15日-09:00|日本|京都府京都市|天福2年2月14日|北野社・朝日寺焼失
1234年3月31日-09:00|日本| ||天福2年3月1日|幕府が、西国の住人らが守護・地頭と闘争することを禁じる
1234年4月 00:00|イギリス| ||イングランドで国王の親政が開始される
1234年4月7日-01:00|スペイン| ||<死去>ナバラ王「サンチ7世」
1234年4月7日-01:00|スペイン| ||<即位>ナヴァル王「テオバルト1世」(ジャン・ベニユ伯「ティボ」4世) (~12530708死去52歳)
1234年4月16日 00:00|イギリス| ||<死去>ペンブルック伯「リチャード・マーシャル」
1234年4月25日-01:00|フランス| ||20歳のフランス王ルイ9世、成人を宣言し、母后ブランシュ・カスティユの「摂政」を解任
1234年5月7日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| ||<死去>イストリア辺境伯・カニオ辺境伯「Otto1世」
1234年5月7日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| ||<就任>イストリア辺境伯・カニオ辺境伯「Otto2世」(~12480619死去)
1234年5月27日-01:00|フランス| ||フランス王ルイ9世、「ブロワ」アンソ伯「レイモン・ペランジェ」5世の長女マルグリット・ド・ブロワ・アンソと結婚
1234年6月11日 00:00|イギリス| ||<就任>ペンブルック伯「ギルバート・マーシャル」(~12410627死去)
1234年6月13日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー・島守護者「Henri de Trubleville」(2期目~12341123)
1234年6月18日-09:00|日本| ||天福2年5月20日|<死去>85代「仲恭天皇」17歳(誕生:建保6(1218)1010)
1234年7月19日-01:00|オランダ| ||<死去>ホラント伯「フロリス4世」
1234年7月19日-01:00|ドイツ/オランダ| ||<即位>ブルグント対立王「ヴィルヘルム・フォン・ホラント」兼ホラント伯「ウィレム2世」ゼーラント伯(~12560128死去)
1234年7月27日-09:00|日本| ||天福2年6月30日|幕府専修念佛を禁ず
1234年8月28日-09:00|日本|京都府京都市|天福2年8月3日|<京都天福2年、商業地区の大火>夕刻、土倉(担保を納めた蔵)と呼ばれた金融業者など、富裕な商人が軒を並べている、京都の東南にある商業地区で火災が発生/被災地域は、東西は烏丸の西から油小路の東にかけて、南北が七条坊門の南から八条坊門の北にかけての広い範囲で、この範囲の家屋、土蔵などが、ことごとく焼き尽くされた/盗賊たちが放火をし、そのどさくさ紛れに豪商の店や土蔵から金品を盗み出す騒ぎが数多くあり、この大火もその一つと推定されている
1234年8月31日-09:00|日本| ||天福2年8月6日|<死去>86代後堀河天皇(23歳/誕生:建暦2(1212)0218)
1234年9月-03:00|サウジアラビア| ||<復位>メッカ・アミール「ラージー・ブン・カタダ・ブン・イトリース・アルハサニー」(4回目~1235.5)
1234年11月23日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー・島主「Henri de Trubleville」(~12391221死去)
1234年11月27日-09:00|日本| ||文暦1年11月5日|「文暦」に改元
1235年-05:30|インド| ||<即位>ホイヤ朝国王「ソメシュヴァラ」(~1262年)

1250迄 (2474件)

1235年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン公「インガ・ウ・アル1世イ・ゴ・レウ・イチ」
 1235年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン大公「ユーリー・イ・ゴ・レウ・イチ」(~1237年死去)
 1235年-02:00|ウクライナ| |||<再位>オーヴルチ公「ウラジミール・リュリコフ・イチ」(~12390331死去)
 1235年-02:00|トルコ| |||<死去>トレビズント帝国第2代皇帝「アントニオス1世」
 1235年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ボース・チャキ」(~12410331)
 1235年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「ミハイル・フセヴォロト・ウ・イチ」(~1238年)
 1235年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「イシヤスラフ4世」(~1236年)
 1235年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Mahamed」(~1239年)
 1235年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニーヒウ公「ムスチスラフ・グ・レホ・ウ・イチ」(~1239年)
 1235年-02:00|トルコ| |||<即位>トレビズント帝国第3代皇帝「ヨハネス1世」(~1238年死去)
 1235年-02:00|トルコ| |||<カイア軍はブルガリアと同盟しラテン帝国に攻め入りマケドニアを支配下に治めることに成功
 1235年-01:00|フランス| |||<死去>オマル伯・ダマルタン伯・モルテン伯「Philippe Hurepel」
 1235年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「アパジ・ガット・ケルト」(~1238年)
 1235年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「デニス・フィア・デニス・ネヘル・トマイ」(2回目~12410411)
 1235年-01:00|ドイツ| |||<即位>ブラウンシュヴァイク＝リュネブルク公「オットー1世」リュネブルク公「イルヘルム」の息子(~12520609死去)
 1235年-01:00|スペイン| |||ナール朝がグラナダを占領
 1235年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者代理「Gerard de Lambersard + Guillaume de Dampierre + Guillaume Blom」(~同年)⇒守護者「Drouet de Barentin」(1期目~1240年)
 1235年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ヨシ・イ」(~1255年)
 1235年 00:00|イギリス| |||<剥奪>リッチモンド伯「ピエール1世」
 1235年 00:00|マリ| |||キラの戦いでマリ王国がソソを破る
 1235年 00:00|マリ| |||スジャータがスマングルを破り、マリ帝国の基礎を築く
 1235年1月18日-09:00|日本|宮崎県西諸県郡高原町|文暦1年12月28日|霧島山の高千穂峰に付随する側火山の御鉢が雷鳴のような音や火焰、火光を伴い噴火/周辺の多くの寺社が焼失し、降り積もった火山灰は火口から20軒離れた場所においても深さ60糎に達す
 1235年1月21日-09:00|日本|愛知県稲沢市|文暦2年|この年、尾張俊光ら、尾張国長光寺に地藏菩薩立像を施入
 1235年1月21日-09:00|日本|鹿児島県指宿市|文暦2年|薩摩国揖宿郡は北条一族が守護である大隈国守護領となる
 1235年1月21日-09:00|日本|広島県三原市|文暦2年|この年、小早川茂平、沼田荘内に不断念仏堂を建立
 1235年1月21日-08:00|中国| ||元・太宗7年|<即位>天山ウイグル王国ティン「ケスミス」(怯失迷思)「バルチュク・アルト」の子(~1245年)
 1235年2月12日-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン大公「コンラート3世」フリートリヒ7世の息子(~12540521死去26歳)
 1235年2月12日-01:00|ドイツ/スイス| |||<廃位>シュヴァーベン大公「ハインリヒ2世」(~12420212死去30歳)
 1235年2月16日-09:00|日本| ||文暦2年1月27日|幕府が鎌倉と京都の僧兵の武装を禁止
 1235年2月19日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗7年2月|モンゴル、カラコム(和林)に築城し首都とする
 1235年3月16日-09:00|日本|京都府京都市|文暦2年2月26日|京都大火/四条大路北、室町小路西、西洞院東、六角小路南、16町焼失
 1235年4月1日-09:00|日本| ||文暦2年3月12日|新勅撰和歌集完成
 1235年4月4日-09:00|日本|京都府京都市|文暦2年3月15日|徳大寺中納言の三条邸が焼失し、大内裏の荒廃が進み「内野」と呼ばれる
 1235年4月17日-09:00|日本| ||文暦2年3月28日|<死去>摂政「九条教実」26歳
 1235年4月17日-09:00|日本| ||文暦2年3月28日|<就任>摂政「九条道家」(~嘉禎3年3月10日)
 1235年5月27日-09:00|日本| ||文暦2年5月9日|<任命>安芸国守護「藤原親実」(~不詳)
 1235年5月27日-09:00|日本| ||文暦2年5月9日|<任命>周防国守護「藤原親実」(~1245年(寛元3年)頃)
 1235年6月14日-09:00|日本| ||文暦2年5月27日|当代歌壇の大御所藤原定家が宇都宮頼綱の求めで、和歌100首を書写する(百人一首の初めか)
 1235年6月19日-09:00|日本|京都府京田辺市|文暦2年6月3日|興福寺衆徒が、石清水八幡宮領薪荘を襲撃し、六波羅探題が鎮静にあたる
 1235年7月4日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<就任>フランク・ロマ帝国総督「マイツ大司教ジークフリート」(~1241年)
 1235年7月4日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<廃位>ドイツ王・イタリア王「ハインリヒ7世」
 1235年7月19日-06:30|ミャンマー| |||<死去>パガン王朝君主「ナンダ・ウンミヤ(オウサナ、ティエロ=ミンロー)」
 1235年7月19日-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「チャワラ」(~1251.5死去)
 1235年8月-01:00|ドイツ| |||フリートリヒ2世がヴェルフェン家と和解し、ラント平和令を発布
 1235年8月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文暦2年閏6月29日|鎌倉五大堂(明王院)落慶供養
 1235年8月16日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・太宗7年;高麗・高宗23年閏7月|モンゴルが第3次高麗侵攻を開始
 1235年9月5日-01:00|ベルギー-/オランダ| |||<死去>ブラバント公「アンリ1世」
 1235年9月5日-01:00|ベルギー-/オランダ| |||<即位>ブラバント公「アンリ2世」(~12480201死去)
 1235年9月7日-09:00|日本|京都府京都市|文暦2年7月23日|延暦寺が佐々木信綱の子・高信による日吉社宮仕殺害に抗議して、神輿を奉じて入洛。武士と交戦
 1235年9月8日-09:00|日本| ||文暦2年7月24日|幕府専修念佛を禁ず
 1235年9月21日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王「アントン・ラシュ2世」兼クロアチア王「アントン・リヤ2世」

1250迄 (2474件)

1235年11月1日-09:00|日本| ||嘉禎1年9月19日|文暦から嘉禎に改元
1236年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド 共和国ノヴゴロド 公「アレクサンドル・ヤロスラヴィチ」(~1240年)
1236年-04:00|アルメニア/モンゴル| |||アルメニアをモンゴルが占領(~1256年)
1236年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>ミフラーニド 朝マリク「Shams al-Din 'Ali ibn Mas'ud」(~1255. 3死去)
1236年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ステファノ・ジュステニアニ」(~1241年)
1236年-02:00|シリア/アラブ| |||<即位>アイユーブ 朝(アレクサ) アミール「An-Nasir Yusuf」(~1260年)
1236年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ヤロスラフ3世」(~1238年)
1236年-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ミンダウガス」諸部族をひとつにまとめ上げてリトアニアを統一(⇒12530706、リトアニア王「ミンダウガス1世」)
1236年-02:00|ウクライナ| |||<復位>ウイニコロド 公「イジャスラフ・ムチスラヴィチ」(~1240年、モンゴルのルーシ侵攻によって消滅)
1236年-01:00|アンドラ| |||<就任>ウルジェイ伯「Ponc1世」(~1243年死去)
1236年-01:00|アルジェリア| |||<即位>ザイヤン朝スルターン「アブー・ヤフヤー(ヤムラサン・イブン・ザイヤン)」ザナタ族、建国(~1283. 2死去)
1236年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス公「Madog ap Gruffydd」
1236年 00:00|イギリス| |||ホイスウェンウィンウィンはイングラントが制圧
1236年2月9日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| ||元・太宗8年|チンギス・ハーンの孫ハトゥ率いる大規模な西方遠征軍が派遣され、ヴォルガ川中流域のヴォルガ・ブルガルを征服
1236年2月9日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗8年1月|モンゴル、交鈔(紙幣)を印造する
1236年4月28日-05:30|インド| |||<死去>マムルーク朝スルターン「シャムスッディーン・イルトゥグミシュ」
1236年4月30日-05:30|インド| |||<即位>マムルーク朝スルターン「ルクスッディーン・フィールズ・シャー」イルトゥグミシュの子(~11. 9死去)
1236年5月-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「テンプル」の「ベルラン・ト・コンフ」(~1240年没)
1236年5月9日-09:00|日本|京都府京都市東山区|嘉禎2年4月3日|摂政九条道家が聖一国師を開山として東福寺創建<臨済宗東福寺派大本山>京都府
1236年6月-01:00|フランス| |||「ジャン・ヌーバー」ピエールと「ジャン・ヌーバー」ティボ-4世(「ナヴァール王」)が、婚姻関係による「同盟」を結び、フランス王ルイ9世(のち聖王、聖ルイ王)に「反乱」を起こす
1236年6月20日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「テイケル・トルバルトソン」(2回目~1248年)
1236年6月25日-09:00|日本|広島県三原市|嘉禎2年5月21日|安那定親の発願により、金剛寿命陀羅尼経版木(三原御調八幡宮蔵)成る
1236年6月29日-01:00|スペイン| |||カスティリヤ王フェルナンド3世がコルドバに入城し、キリスト教徒軍がイスラムの手になっていたコルドバを服従させる
1236年7月-01:00|フランス| |||「ジャン・ヌーバー」ティボ-4世(「ナヴァール王」)が降伏し、フランス王ルイ9世、「諸侯の反乱」を鎮圧
1236年7月28日-09:00|日本| ||嘉禎2年6月24日|在京武士らが六角西洞院に集まって宍所と称して肉食していたことが禁止される
1236年9月5日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|嘉禎2年8月4日|<御所移転>宇津宮辻子御所から新造された若宮大路御所に移った
1236年9月22日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<死去>リガニア帯剣騎士団団長「ヴァルキン・フォン・ナムブル」
1236年9月22日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガニア帯剣騎士団団長代行「ラタガ」(~12370512)
1236年10月2日-09:00|日本|奈良県奈良市|嘉禎2年9月|興福寺衆徒が城を築き兵具を備える。幕府、同寺の荘園を没収して、衆徒を鎮圧
1236年11月5日-09:00|日本|奈良県|嘉禎2年10月5日|大和国に守護・地頭を置き、奈良の出入を禁止
1236年11月9日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルターン「ルクスッディーン・フィールズ・シャー」
1236年11月10日-05:30|インド| |||<即位>マムルーク朝スルターン「ラズィヤ」イルトゥグミシュの子(~12401014死去)
1236年11月13日-09:00|日本|広島県廿日市市|嘉禎2年10月13日|厳島社外宮の造営成り、遷宮
1236年12月13日-09:00|日本|奈良県|嘉禎2年11月14日|大和国の守護・地頭を廃止
1237年-04:00|ロシア| |||<死去>ムロム公「ユリー・ダヴィドヴィチ」
1237年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン大公「ユリー・イゴレヴィチ」
1237年-04:00|ロシア| |||<即位>ムロム公「ヤロスラフ・ユリエヴィチ」(~1239年、モンゴル帝国によるルーシ侵攻とムロムの破壊で公位は約1世紀にわたり空位となる~不明)⇒「ヴァシリ・ヤロスラヴィチ」(~1345年死去)
1237年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン公「イングヴァル2世イングヴァレヴィチ」(~1252年死去)
1237年-02:00|トルコ| |||<死去>ルーム・セルジューク朝スルターン「カイバート1世」
1237年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス・テッサロニキ専制公「ヨハネス・コムネノス・トウカス」(~1244年死去)
1237年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルターン「カイスロ-2世」(~1246年死去)
1237年-02:00|ギリシャ| |||<廃位>エピロス・テッサロニキ専制公「マヌエル・コムネノス・トウカス」
1237年-01:00|ベルギー| |||<就任>ナミュール伯「ボートゥアン2世」マルグリットの弟(~1256年) ラン皇帝
1237年-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「トマ」(ジャンヌと共同統治) サオイア伯トマーゾ1世の三男(~12441205死去)
1237年-01:00|ジブラルタル/スペイン| |||ジブラルタルはグラナダ 首長国の一部
1237年-01:00|ドイツ| |||ドイツでドイツ騎士団と刀剣騎士団が合同しリガニア騎士団が創設
1237年1月28日-09:00|日本|沖縄県|嘉禎3年|<死去>琉球王「舜天」(72歳)⇒世子「舜馬順熙」が王位を継いだ
1237年1月28日-08:00|中国| ||宋・嘉熙1年1月1日|南宋の理宗が嘉熙(-1240年)と改元
1237年2月3日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| ||元・太宗9年1月7日|モンゴル軍がルーシ(ロシア)のウズミールに到着、黄金の門へ

1250迄 (2474件)

の攻撃を開始

1237年4月6日-09:00|日本| ||嘉禎3年3月10日|<就任>摂政「近衛兼経」(〜仁治3年正月9日)
1237年5月-01:00|ドイツ/フィンランド/スイス| ||<即位>ドイツ王・ブルグント王「コンラート4世」フリートリヒ2世の子(〜12540521死去)
1237年5月5日-09:00|日本| ||嘉禎3年4月9日|<死去>藤原家隆(80歳)宮内卿、歌人
1237年5月12日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リグア騎士団団長「ヘルマン・バルク」リグア騎士団がチュートン騎士団に組み込まれリグア騎士団となる(〜1238年)
1237年5月21日 00:00|アイスランド| ||<死去>アイスランド王「Olafur svarti Gudhfridharson (Olaf2世 "the Black")」
1237年5月21日 00:00|アイスランド| ||<就任>アイスランド王「Haraldr Olafsson (Harold1世)」(〜12490506死去)
1237年6月6日 00:00|イギリス| ||<死去>7代チェスター伯・ハンティントン伯「ジョン・オブ・スコットランド」
1237年7月14日-01:00|フランス| ||<就任>アルトリ伯「Robert1世」(〜12500208死去)
1237年8月24日-09:00|日本|京都府京都市|嘉禎3年8月3日|京都大火/賊の放火により、七条-八条の裕福な商人街が焼亡
1237年8月27日-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>アイユーブ朝(ダマスカス)第6代アミール「アル=アシュラフ」
1237年8月27日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>アイユーブ朝(ダマスカス)第7代アミール「アッ=サーリフ・イスマーイル」(〜1237年)
1237年8月27日-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>アイユーブ朝(ダマスカス)アミール「アッ=サーリフ・イスマーイル」(〜1238年退位)
1237年9月25日 00:00|イギリス| ||ヨーク条約が結ばれ、イングランドとスコットランドの間の国境が画定
1237年10月21日-09:00|日本|和歌山県伊都郡高野町|嘉禎3年10月|高野山大門仁王像(湛慶)できる
1237年10月23日-08:00|マレーシア| ||<死去>マラヤ・スランタン「ムハンマド・シャー」
1237年10月23日-08:00|マレーシア| ||<即位>マラヤ・スランタン「ムハンマド・シャー」(〜12800824死去)
1237年11月14日-09:00|日本|愛知県田原市|嘉禎3年10月25日|僧永俊、三河国泉福寺の阿弥陀・薬師如来坐像を鑄造立
1237年11月17日-09:00|日本|京都府京都市|嘉禎3年10月28日|六波羅地蔵堂焼亡、清水坂南方の在家類焼
1237年11月27日-01:00|ドイツ/イタリア| ||フリートリヒ2世が、コルテスオーガの戦いで第2次ロンバルディア都市同盟軍を破る
1238年-07:00|タイ| ||<即位>スコタイ王朝「シーンタラティット」(〜1270年死去)ケメルから独立
1238年-05:30|インド| ||<即位>東ガーンガ朝国王「ナランハ・デーヴァ1世」(〜1264年)
1238年-05:30|インド| ||<即位>パンデヤ朝君主「サダヤアルマン・クラシカラ2世」(〜1240年)、「マラヴァルマン・スンダラ・パンデヤ2世」(〜1240年)
1238年-04:00|ロシア| ||<即位>初代ベラルーシ公「ゲレク・ウァシリコウイチ」(〜1278年後、1302年まで公国はロストフ公トミトリ・ボリソフイチの支配下に)
1238年-04:00|ロシア| ||<即位>スズダリ公「スヴャトスラフ・フセヴォロドovich」(〜1252年)
1238年-04:00|ロシア| ||<即位>スモレンスク公「フセヴォロド・ムスチスラフイチ」(〜1249年)
1238年-04:00|ロシア| ||<即位>ペレヤスラリ・ザレスキー公「アレクサンドル・ヤロスラフイチ」(〜12631114死去)
1238年-03:30|イラン| ||<即位>パハント朝太守「Ardashir2世」(〜1249年)
1238年-02:00|トルコ| ||<死去>トレビズント帝国第3代皇帝「ヨハネス1世」
1238年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リグア騎士団団長「テートリヒ・フォン・グリュニンゲン」(1回目〜1241年)
1238年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>アイユーブ朝(ダマスカス)アミール「アル=カーミル」(〜3.6死去)
1238年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ウクライナ公「ウァシリコ・ロマノウイチ」(〜1269年)
1238年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ガリチ公「ロスチスラフ・ミハイロウイチ」(〜同年)⇒「ダニール・ロマノウイチ」(1254年よりルーシ王併称〜1264年)
1238年-02:00|ウクライナ| ||<即位>キエフ大公「ミハイル2世」(〜1239年)
1238年-02:00|トルコ| ||<即位>トレビズント帝国第4代皇帝「マヌエル1世」(〜1263.3死去)
1238年-02:00|シリア・アラブ| ||<退位>アイユーブ朝(ダマスカス)アミール「アッ=サーリフ・イスマーイル」
1238年-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<死去>ポズナニシュ=シュラフ=シュトルブ公「ラティボル2世」
1238年-01:00|フランス| ||<就任>オマル伯「Alphonso of Portugal」Mathildeと結婚(〜1253年)
1238年-01:00|ドイツ| ||<就任>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン伯「ヨハン1世」(⇒1261年ホルシュタイン=キール伯〜12630420死去)、「ゲルハルト1世」(⇒1261年シャウエンブルク伯・ホルシュタイン=イツェホー伯〜12901221死去)
1238年-01:00|フランス| ||<就任>モルテン伯「アフォンソ3世」(〜1245年)
1238年-01:00|スペイン| ||<即位>グナタ王国スランタン「ムハンマド1世」(〜12730122死去)ナセル朝がグナタに新都アルハンブラを建設
1238年-01:00|ドイツ| ||<退任>シャウエンブルク伯兼ホルシュタイン伯「アドルフ4世」
1238年-01:00|スペイン| ||アラゴン王ハイメ1世はバレンシアの南にあるイスラムのバレンシア王国を征服
1238年 00:00|チンギス諸島/フランス| ||<死去>オルタニ島領主「Pierre L' Ingenieur」
1238年1月18日-09:00|日本| ||嘉禎4年|<任命>遠江国守護「北条時房」(〜不明)
1238年1月18日-08:00|中国| ||大理・仁寿8年|<譲位>後大理第6代皇帝「神宗永惠帝(段智祥)」
1238年1月18日-08:00|中国| ||大理・仁寿8年|<即位>後大理第7代皇帝「孝義帝(段祥興)」(〜1251年)
1238年2月-03:00|サウジアラビア| ||<復位>メッカ・アミール「ラージー・ブン・カタダ・ブン・イトリース・アル=ハサニー」(5回目〜1239年)
1238年2月17日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| ||元・太宗10年2月2日|モンゴル帝国のハトゥを総司令官としたヨーロッパ遠征軍がウラジミール大公国の首都ウラジミールを攻撃して同地を占領し、ユーリ2世の一族はほとんど殺されてしまった
1238年3月4日-04:00|ロシア| ||<死去>ウラジミール大公「ユーリ2世」戦死
1238年3月4日-04:00|ロシア| ||<死去>ロストフ公「ウァシリコ・コンスタンチノウイチ」
1238年3月4日-04:00|ロシア| ||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「ヤロスラフ2世」(〜12460930死去)
1238年3月4日-04:00|ロシア| ||<即位>ロストフ公「ボリス・ウァシリコウイチ」(〜1277年死去)

1250迄 (2474件)

1238年3月6日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ 朝タ マスカス・アミール「アル=カーミル」
1238年3月6日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ 朝第6代スルタン「アル=アッ=イル2世」(~1240年退位)兼(タ
マスカス)第9代アミール(~1239年退位)12480209死去
1238年3月16日-09:00|日本| ||嘉禎4年2月29日|<死去>弁長(77歳)浄土宗の僧
1238年3月19日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド 公・グワグフ公「ヘンリク1世ブダティ」
1238年3月19日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド 公「ヘンリク2世ボジヌイ」ヘンリク1世の息子/シロンスク公を兼ねる(~12
410409レグニツァの戦いで落命)
1238年4月2日-09:00|日本|京都府京都市左京区|嘉禎4年閏2月16日|鞍馬寺焼失
1238年4月16日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|嘉禎4年3月|勸進聖人の浄光が鎌倉大仏を建立
1238年4月30日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「エッペスのヨハネ」
1238年4月30日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「ウィリアム・オブ・サヴォイア」(~12391101死去)
1238年5月15日-09:00|日本|栃木県|嘉禎4年3月30日|<死去>下野守護・播磨守護「小山朝政」(84歳)武将
1238年7月13日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|嘉禎4年6月|尼念阿弥陀仏、笠覆寺(笠寺観音)建立
1238年7月31日-09:00|日本|京都府京都市|嘉禎4年6月19日|幕府、京都に簀屋を置き洛中警護を命じる
1238年9月28日-09:00|日本| ||嘉禎4年8月19日|幕府が双六を禁止
1238年10月3日-09:00|日本|京都府八幡市|嘉禎4年8月24日|九条道家、石清水社に新三昧堂を建立
1238年10月23日-09:00|日本| ||嘉禎4年9月14日|<死去>葛西清重(78歳)奥州総奉行
1238年11月10日-09:00|日本| ||嘉禎4年10月3日|<死去>持明院棟子(北白河院)(66歳)守貞親王の妃
1238年11月11日-09:00|日本| ||嘉禎4年10月4日|<死去>松殿師家(67歳)摂政・内大臣
1238年12月30日-09:00|日本| ||暦仁1年11月23日|嘉禎から暦仁に改元
1239年-05:30|インド| |||<即位>パラマラ朝国王「Jaitugideva」(~1255年)
1239年-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルハデ・イ・ヤーヤ・ビン・ムシ」
1239年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ 朝(ヒスン・カイファ)アミール「Al-Mu'azzam Turanshah」(~12491122)
1239年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ 朝タ マスカス・アミール「アッ=サーリフ・ナジムッテ・イン・アイユーブ」(~同年)⇒<復位>「アッ=
サーリフ・イスマーイル」(~1245年死去)
1239年-02:00|トルコ| |||<即位>アルトゥク朝スルタン「ガーズィー1世」(~1260年)
1239年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ロスチスラフ3世」(~同年)⇒「ダニール・ロマンノヴィチ」(~12401206、代官による支配
)
1239年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Malzarrah」(~1252年)
1239年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヴォロド・セヴェルスキー公「アントン・レイムスチスラヴィチ」(~1245年)
1239年-02:00|シリア・アラブ| |||<退位>アイユーブ 朝タ マスカス・アミール「アル=アッ=イル2世」
1239年-02:00|ウクライナ/カザフスタン| |||クリミアはジョチ・ウルスが支配(~1428年)
1239年-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Afonso3世」ポルトガル王(~1259. 1)
1239年-01:00|クロアチア| |||<即位>ポルツァ公「トレン」建国
1239年 00:00|イギリス| |||<就任>6代レスター伯「シモン・ド・モンフォール」(⇒1264年兼8代チェスター伯~1265年剥奪)
1239年 00:00|イギリス| |||<就任>エセックス伯「ハフリーズ・ド・ブーン」(~12750924死去)
1239年2月3日-09:00|日本| ||暦仁1年12月28日|<死去>九条任子(宜秋門院)(66歳)後鳥羽天皇の中宮
1239年2月6日-09:00|日本|愛媛県西条市|暦仁2年|越智盛氏、桑村郡に観念寺を建立
1239年2月6日-08:00|中国| ||大理・道隆1年|後理国の段祥興が道隆(-1251年)と改元
1239年2月7日-09:00|日本| ||暦仁2年1月2日|戊刻、彗星申方に出現。芒気3尺、辰巳を指す。色白赤。前年末から
見えたとも云う
1239年2月9日-09:00|日本| ||暦仁2年1月4日|彗星の芒気4尺。色赤弱くなる。7日歳星の傍らに出現。芒気は良方
を指し5尺。軸星は大きく太白に似る
1239年2月16日-09:00|日本| ||暦仁2年1月11日|陸奥の人民が布の代りに銭貨で貢納するが、幕府はこれを禁止
し、白河関以東での銭貨の流通を停止
1239年2月16日-09:00|日本| ||暦仁2年1月11日|戊刻、彗星辟一星を犯す
1239年2月23日-09:00|日本| ||暦仁2年1月18日|彗星奎近に出現。変異祈禱。20日祈禱と護摩を行う。17日より20
日にかけて光芒盛ん
1239年3月3日-09:00|日本| ||暦仁2年1月26日|戊刻彗星王良第五星を犯す。光芒薄くなる。27日將軍上洛を思召
すが、窮民慰撫のために延引
1239年3月12日-09:00|日本| ||暦仁2年2月6日|夜になって彗星出現。14日に天文道等終夜彗星観測。彗変内天に
入るという
1239年3月13日-09:00|日本| ||延応1年2月7日|暦仁から延応に改元
1239年3月28日-09:00|日本|島根県隠岐郡隠岐の島町|延応1年2月22日|<死去>「後鳥羽法皇」配所の隠岐で/60歳(
誕生:治承4(1180)0714)承久の乱を起こして敗れた82代天皇
1239年3月31日-02:00|ウクライナ| |||<死去>オウガル公「ウジミル・リュリコヴィチ」
1239年6月4日-09:00|日本| ||延応1年5月1日|綸旨を下して人身売買を禁ず
1239年9月16日-09:00|日本|石川県白山市|延応1年8月17日|加賀の白山が噴火。白山権現が焼失
1239年9月21日-01:00|フランス| |||<死去>オマル伯「Simon of Dammartin」
1239年9月21日-01:00|フランス| |||<就任>オマル女伯「Joan of Dammartin」(~12790316死去)、オマル伯「Ferdinand1世」
Joanと結婚(~12520530死去)
1239年10月16日-01:00|チェコ| |||<死去>モラヴィア辺境伯「フシェミル」

1250迄 (2474件)

1239年10月16日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「ウラジスラフ3世」ホーヘンシュタット王「アルブレヒト1世」の息子(〜12470103死去)
1239年10月16日-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| |||モラヴィアはホーヘンシュタット政権下(〜1246年4月)
1239年11月1日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「ウィリアム・オブ・サヴォイア」
1239年11月6日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー対立王「スケール・ホー・ド・ソン」(〜12400524)
1239年11月13日-01:00|フランス| |||<死去>バル伯「アンリ2世」
1239年11月13日-01:00|フランス| |||<就任>バル伯「ティボ-2世」(〜1291年)
1239年12月-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公・シュター・ア・マル公「フリートリヒ2世」(2回目〜12460615死去35歳)
1239年12月21日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領「ジャージー-島・ガーンジー-島主」Henri de Trubleville
1239年12月31日-09:00|日本| ||延応1年12月5日|<死去>土佐国守護「三浦義村」
1239年12月31日-09:00|日本| ||延応1年12月5日以降|<任命>土佐国守護「三浦氏」(〜1247年)
1240年-04:00|ロシア| |||<復位>プスコフ公「ヤロスラフ・ウラジミロヴィチ」(〜1242年)
1240年-04:00|ロシア/ウクライナ| |||このころキエフ近辺で乱獲により毛皮獣が消滅
1240年-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・アミール「ラーゼン・ブン・カタダ・ブン・イドリース・アル=ハサニー」(6回目〜1241年)
1240年-02:00|ギリシャ| |||<死去>ロードス島とキクラデス諸島の帝王・領主「レオ・ガバラス」
1240年-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「ティアソン「ヒェール・ド・ヴァイルブライト」」(〜12420917)
1240年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ロードス島領主「イオニス・ガバラス」(〜1248年)
1240年-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ朝第7代スルタン「サーリフ」(〜12491122死去)
1240年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルツク公「ロチスラフ・ミハイロヴィチ」(〜同年)
1240年-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<退位>アイユーブ朝第6代スルタン「アル=アデイル2世」
1240年-02:00|トルコ| |||アタリアで神の使徒と称するバーバー=イサハクが反乱
1240年-01:00|イタリア| |||<再任>フェララ侯「アッソ7世」エステ辺境伯(〜12640216死去)
1240年-01:00|ドイツ| |||<死去>ヴェルテンベルク伯「ハルトマン」
1240年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ミクロス・ガット・ケルト」(〜同年)
1240年-01:00|フランス| |||<就任>リネー領主「Henry1世」(〜12811224死去)
1240年-01:00|ポーランド| |||<即位>ペレムイシリ公「Grigory Vasil'evich」(1度目〜1243年)
1240年 00:00|モロッコ| |||<死去>マリーン朝スルタン「ウスマーン1世」
1240年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領「ジャージー-島守護者」Guillaume de Boeles(〜1241年)
1240年 00:00|イギリス| |||<即位>アバフロー大公・ウェルズ公・スノートン卿「デヴィッド・オブ・ルウェリン」(〜1246年戦死)
1240年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「ムハマト1世」(〜1244年死去)
1240年1月26日-09:00|日本| ||延応2年|<任命>伊予国守護「宇都宮頼業」(〜不詳)
1240年1月26日-09:00|日本| ||延応2年|<任命>尾張国守護「中条家平」(〜不詳)
1240年1月26日-09:00|日本| ||延応2年|<任命>武蔵国守護「北条泰時」(〜不明)
1240年1月26日-09:00|日本|岡山県高梁市|延応2年|備中有漢郷の地頭秋庭三郎重信が臥牛山の大松山に櫓を築いた(→備中松山城(高梁城))/岡山県
1240年2月-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ホムス)アミール「Al-Mujahid Shirkuh」
1240年2月-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ホムス)アミール「Al-Mansur Ibrahim」(〜12460628死去)
1240年2月2日-09:00|日本| ||延応2年1月8日|ハレ彗星出現/大騒ぎになる
1240年2月18日-09:00|日本| ||延応2年1月24日|<死去>北条時房(66歳)承久の乱において泰時とともに大將軍を務めた北条時政の子
1240年3月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|延応2年2月6日|幕府の政所が焼ける
1240年4月1日-01:00|ノルウェー| |||<即位>ノルウェー王「ハコン5世ハコンソン若王」共同統治(〜12570505没)
1240年4月10日 00:00|イギリス| |||<死去>グウィネット公「ルウェリン・オブ・ヨーク」
1240年4月10日 00:00|イギリス| |||<即位>グウィネット公「ダヴィッド・オブ・ルウェリン」(〜12460225死去)
1240年4月11日-09:00|日本| ||延応2年3月18日|幕府御家人郎党の任官を禁ず
1240年5月3日-09:00|日本| ||延応2年4月10日|僧永尊ら、尾張国大興寺の大日如来像の座光を再興
1240年5月23日-09:00|日本| ||延応2年5月1日|幕府が再び人身売買を禁じる
1240年5月27日 00:00|イギリス| |||<死去>サリ伯「ウィリアム・ド・ワーレン」
1240年5月27日 00:00|イギリス| |||<就任>サリ伯「ジョン・ド・ワーレン」(〜13040929死去)
1240年6月12日-09:00|日本| ||延応2年5月21日|<死去>藤原秀能(57歳)武將、歌人
1240年6月16日-09:00|日本| ||延応2年5月25日|幕府が公家と結婚した御家人の娘に所領を譲ること、および先祖伝来の本領を御家人以外に売却することを禁止
1240年6月30日-09:00|日本|京都府京都市北区|延応2年6月9日|祇陀林寺塔竣工
1240年7月15日-01:00|スウェーデン/ロシア| |||ボグド川の戦いで、アレクサンドル・ネフスキーがスウェーデン軍を破る
1240年7月22日 00:00|イギリス| |||<死去>リカン伯「ジョン・ド・レイシー」
1240年8月-01:00|フランス| |||フランス南部のガソニとベジエの「副伯」レモン・トランカヴェルがラングドックで蜂起
1240年8月-01:00|ドイツ/イタリア| |||フリートリヒ2世が、ラヴェンナを占領
1240年8月1日 00:00|イギリス| |||城外にあったセント・ピーター・アト・ウィンキル教会がロンドン塔内に移され、聖堂の献堂式が行われる
1240年8月5日-09:00|日本| ||仁治1年7月16日|延応から仁治に改元
1240年9月17日-09:00|日本|愛媛県松山市|仁治1年9月|温泉郡石手寺の金剛力士像が造られる
1240年10月14日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルタン「ラシヤヤ」

1250迄 (2474件)

1240年10月14日-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝スルターン「ムイズ・ツティーン・ハ・フラム・シャー」イルトゥクミシュの子(〜12420515死去)

1240年12月6日-02:00|ウクライナ| |||<退位>キエフ大公「ダニール・ロマンノヴィチ」代官による支配

1240年12月6日-02:00|ウクライナ/モンゴル| ||元・太宗12年11月22日|モンゴル軍がキエフを陥落し、キエフ公国が滅亡

1240年12月26日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「ロベルト・トウロツテ」(〜12461016死去)

1241年-05:30|インド| |||<即位>パンデヤ朝君主「サダヤヴァルマン・ウイッキラン1世」(〜1250年)

1241年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「アレクサンドル・ヤロスラヴィチ」(〜1252年)

1241年-03:30|イラン| |||<即位>ヤズド・アタベク朝スルタン「ルクヌッディーン・サルグルシャー・イブン・マフムード・シャー」(〜1252年)

1241年-03:00|イラク| |||<即位>ザンギー朝ジャズィーラ・アミール「マフムード・アルマリク・アルザ・ヒル」(〜1250年)

1241年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・アミール「アル・ハッサン・アブ・ル・サード」(〜1254年)

1241年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「トマス・ダント・ロ」(〜1243年)

1241年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァウ騎士団団長「アント・レウス・フォン・グェルウエン」(1回目〜1242年)

1241年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニーヒウ公「ロスチスラフ・ミハイロヴィチ」(〜1242年)

1241年-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「ミハイル2世」(2期目〜1243年)

1241年-02:00|ギリシャ| |||エペロスがテッサリアを併合(〜1268年)

1241年-01:00|フランス| |||<死去>マリー伯「Mary」

1241年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴェルテンベルク伯「ウルリヒ1世」(〜12650225死去)

1241年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「デニス・チュルジエ」(〜1245年)

1241年-01:00|フランス| |||<就任>マリー伯「John1世」(〜12800505死去)

1241年-01:00|クロアチア/ハンガリー/モンゴル| |||モンゴルがハンガリーとクロアチアの大部分を占領(〜1242年)

1241年-01:00|ドイツ| |||リュベック、ハンブルク間にハンザ都市同盟確立

1241年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島守護者「Drouet de Barentin」(2期目〜1252年)

1241年 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ヒート2世」(〜12680515死去)

1241年1月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>テュリンゲン方伯「ヘルマン2世」

1241年1月3日-01:00|ドイツ| |||<就任>テュリンゲン方伯「ハインリヒ・ラスベ」ドイツ対立王(〜12470216死去)

1241年1月4日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|仁治1年11月21日|幕府、鎌倉市中にも防犯のため簀屋を設置し住民に勤務させる(自身番の先駆け)

1241年2月13日-09:00|日本| ||仁治2年|<任命>筑後国守護「北条時章」(〜文永9(1272)年)

1241年2月13日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|仁治2年|神子栄尊、肥前国万寿寺を建立

1241年2月13日-08:00|中国| ||宋・淳祐1年1月1日|南宋の理宗が淳祐(〜1252年)と改元

1241年3月-02:00|ルーマニア/モンゴル| |||モンゴルがワラキアの大部分を占領(〜1243年、撤退)/モルダヴィアを占領

1241年3月21日-09:00|日本|京都府京都市左京区|仁治2年2月8日|<建立>大原法華堂(後鳥羽天皇の遺骨埋葬)

1241年3月28日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「ヴァルデマー2世」70歳

1241年4月-02:00|ルーマニア/モンゴル| |||<就任>トランシルヴァニア総督「モンゴル総督サイバン」(〜1243年)

1241年4月9日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド公「ヘンリク2世ボシェン」レクニツァの戦いで落命

1241年4月9日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ボレスワフ2世カトカ」ヘンリク2世の息子/シロンスク公を兼ねる(〜1241.7退位)

1241年4月9日-01:00|チェコ/モンゴル| |||ウロツワはモンゴル人によって破壊される

1241年4月9日-01:00|ドイツ/ポーランド/中国/モンゴル| ||元・太宗13年2月27日|ワルシュタットの戦い/シュレジン公ハインリヒ2世のドイツとポーランドの連合騎士・農民軍がポーランドに侵入したモンゴル軍と戦ったが撃破された

1241年4月11日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「アーノルド・フィア・アーノルド・ネンペリ・ハット」(〜1242年)

1241年4月11日-01:00|ハンガリー/中国/モンゴル| |||<モロの戦い>モンゴル軍がハンガリー軍に圧勝しハンガリー全域占領

1241年5月13日-01:00|ハンガリー/モンゴル| |||モンゴルのバトゥ軍がハンガリーのブタペストを略

1241年5月15日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|仁治2年4月3日|鎌倉大地震、由井浜の鶴岡拝殿・船舶など破壊

1241年6月24日-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「イヴァン・アセン2世」

1241年6月24日-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「カリマン1世アセン」(〜1246年8月死去)

1241年6月27日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック伯「ギルバート・マーシャル」

1241年6月27日 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「ウォルター・マーシャル」(〜12451124死去)

1241年7月-01:00|ポーランド| |||<退位>ポーランド公「ボレスワフ2世カトカ」

1241年7月-01:00|ポーランド| |||<復位>ポーランド公「コンラト1世マゾヴィエツキ」(〜1243年退位. 12470831死去)

1241年8月-01:00|オーストリア/モンゴル| |||モンゴル軍の先遣隊がオーストリアに侵入

1241年8月9日-09:00|日本|福岡県福岡市博多区|仁治2年7月|この月、僧弁円筑前国崇福寺を創建

1241年8月22日-01:00|バチカン| |||<死去>第178代ローマ教皇「グレゴリウス9世」

1241年8月25日-09:00|日本|広島県廿日市市|仁治2年7月17日|「厳島社内宮」遷宮

1241年9月23日 00:00|アイスランド| |||<死去>アイスランドの政治家、詩人「スノリ・ストゥルソン」アイスランド併合を目論むルウエー王ホーコン4世の刺客に暗殺される

1241年9月26日-09:00|日本| ||仁治2年8月20日|<死去>「藤原定家」(80歳)歌人「新古今和歌集」の撰者

1241年10月23日-09:00|日本| ||仁治2年9月17日|<死去>下総国守護「千葉時胤」(頼胤が継ぐ〜建治元(1275)年8月16日死去)

1241年10月25日-01:00|バチカン| |||<就任>第179代ローマ教皇「クレステニス4世」(〜12411110死去)

1241年10月29日-01:00|フランス| |||<死去>ヌヴェール伯「Guigues4世」

1241年11月10日-01:00|バチカン| |||<死去>第179代ローマ教皇「クレステニス4世」即位後16日

1250迄 (2474件)

1241年12月-01:00|フランス| |||フランス西部ホークの有力者「ラ・マルシュ伯」ユークがフランス王ルイ9世に反乱をおこすが鎮圧
1241年12月11日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗13年11月8日|<死去>モンゴル帝国第2代皇帝「太宗トゲイ」深酒が原因で/56歳(誕生1186年)モンゴル軍の西への大遠征が中止される
1241年12月11日-08:00|中国/モンゴル| ||元・太宗13年11月8日|<就任>モンゴル帝国監国(太宗の皇后)トウキナ(トレゲネ脱列哥那~1246年)
1242年-03:30|イラン| |||<即位>オムス王「Rokn ed-Din Mahmud3世」(~1277年)
1242年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグア騎士団団長「ディートリッヒ・フォン・グリュニンゲン」(2回目~1246年)
1242年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<復位>チェルニヒウ公「ミハイル・フセヴォロドヴィチ」(2期目~1246年)
1242年-01:00|スペイン| |||<死去>サルタニャ伯「Nuno」
1242年-01:00|フランス| |||<死去>ルション伯「Nuno Sancho」
1242年-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「モンテフェルトラーノ2世・ダ・モンテフェルトロ」(~12550929死去)
1242年-01:00|スペイン| |||<就任>サルタニャ伯「James1世」(~12760727死去)
1242年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「ラスロー・ネペリカーン」(~1245年)
1242年-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<就任>フランク・ローマ帝国総督「ハインリヒ・ラス」|「ホヘンシュタイン1世」(~1245年)
1242年-01:00|フランス| |||<就任>ルル伯「ジャン1世」(~1251年)
1242年-01:00|クロアチア/ハンガリー| |||ハンガリーによるダルマチアのザラ支配(~1243年)
1242年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「トニャット・ケアブリーチ・オー・ブリアン」
1242年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「コンチョバル・ナ・スィダ・イヌ・オブリアン」トニャット・ケアブリーチ・オー・ブリアンの息子(~1268年没)
1242年1月7日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|仁治2年12月5日|宇和郡三島社社殿を修造
1242年2月2日-09:00|日本| ||仁治3年|<任命>豊後国守護「大友頼泰」(~1285年、以後、貞親、貞宗、氏泰、氏時、氏継、親世、親著、持直、親綱、親繁、政親、義右、親治、義長(義親)、義鑑、義鎮(宗麟)、義統と続く⇒1587年豊後府内、豊後一国安堵)
1242年2月2日-09:00|日本|福岡県福岡市博多区|仁治3年|この年、浄業西林寺を創建
1242年2月10日-09:00|日本| ||仁治3年1月9日|<死去>87代「四条天皇」(12歳)
1242年2月21日-09:00|日本| ||仁治3年1月20日|<就任>関白「近衛兼経」(~仁治3年3月25日)
1242年2月21日-09:00|日本| ||仁治3年1月20日|<踐祚>「邦仁親王」/3月18日88代「後嵯峨天皇」として即位(~12460129)
1242年2月26日-09:00|日本| ||仁治3年1月25日|<死去>伯近真(66歳)雅楽家
1242年3月3日-01:00|ハンガリー/中国/モンゴル| ||元・乃馬真后1年2月|モンゴル軍がハンガリー全土を制圧/しかしホータイ死去の報が届き東方帰還の途につく
1242年3月20日-09:00|日本| ||仁治3年2月18日|<任命>筑後国守護「大友頼泰(泰直)」(~建治3(1277)年)
1242年3月26日 00:00|イギリス| |||<死去>オマル伯「William de Forz」
1242年3月26日 00:00|イギリス| |||<就任>オマル伯「William de Forz」(~1260年死去)
1242年3月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「テオトリッヒ2世」
1242年3月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「アルノルト2世」(~12591105死去)
1242年4月4日-09:00|日本| ||仁治3年3月3日|幕府が、鎌倉の僧徒が剣を帯びることを禁じる
1242年4月5日-02:00|エストニア/ドイツ/ロシア| |||アレクサンドル・ネフスキが、チュド湖の「氷上の戦い」でドイツ騎士団の大軍に勝つ
1242年4月6日-09:00|日本|京都府京都市中京区|仁治3年3月5日|行願寺焼失
1242年4月7日-09:00|日本|滋賀県|仁治3年3月6日|<死去>佐々木信綱(62歳)近江守護
1242年4月26日-09:00|日本| ||仁治3年3月25日|<就任>関白:二条良実(~寛元4年正月28日)
1242年5月15日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルターン「ムイッデイン・ハフラム・シャー」
1242年5月15日-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝スルターン「アラー・ウッデイン・マサウト・シャー」フィールズ・シャーの子(~12460610死去)
1242年6月26日 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯「トマス・ド・ボーマント」
1242年6月26日 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック女伯「マーガレット・ド・ボーマント」先代の妹(~12530603死去)
1242年7月1日-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ウルス・ハン「チャガタイ」
1242年7月1日-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン「カラ・フレグ」チャガタイの長男モイトウケンの四男(~1246年)
1242年7月14日-09:00|日本| ||仁治3年6月15日|<死去>鎌倉幕府第3代執権「北条泰時」赤痢のため(60歳)
1242年7月14日-09:00|日本| ||仁治3年6月15日|<就任>4代鎌倉幕府執権「北条経時」(~寛元4年3月23日)
1242年7月22日-01:00|フランス/イギリス| |||(21日~)フランス南西部のアキテーヌを併合しようとするフランス王ルイ9世、サント(ホーク)ーシヤント地域圏、シヤント=マリタイム県)城外の「タイブールの戦い」でイングランド王ヘンリー3世を破る
1242年8月12日-09:00|日本|徳島県|仁治3年7月15日|<死去>小笠原長清(81歳)御家人、阿波守護
1242年10月7日-09:00|日本|新潟県佐渡市|仁治3年9月12日|<死去>「順徳上皇」配流先の佐渡にて(84代天皇)46歳
1242年10月26日-09:00|日本|福岡県福岡市博多区|仁治3年10月|この月宋人謝国明筑前国に承天寺を創建
1242年12月2日-03:00|イラク| |||<死去>バグダード・アッバース朝カリフ「ムスタンスル」
1242年12月2日-03:00|イラク| |||<即位>バグダード・アッバース朝カリフ「ムスタアシム」(~12580221処刑された)
1242年12月4日 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒト朝アミール「アブドゥルワヒド・ラシド」(アブドゥルワヒド2世)
1242年12月4日 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒト朝アミール「アブールハサン・サイード」(~1248年死去)
1243年-07:00|カンボジア| |||<死去>クメール王朝国王「イントラヴァルマン2世」

1250迄 (2474件)

1243年-07:00|カンボジア| |||<即位>ケメル王朝国王「ジヤヤ・ウ・アルマン8世(チェイウ・アルマン8世)」(~1295年退位)
 1243年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャー-朝国王「Fariburz3世」
 1243年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャー-朝国王「Akhsitan2世」(~1260年死去)
 1243年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティニア公「ヤコポ・パロツィ」(~1245年)
 1243年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「レーリク(=ラウレンティウス)」(~1252年)
 1243年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ヤロスラフ3世」(~12460930死去)
 1243年-02:00|トルコ| |||ルム・セルジューク朝がモンゴルに臣従
 1243年-02:00|ルーマニア| |||ワキアはハンガリーの一部(~1324年)
 1243年-01:00|アントラ| |||<死去>ウルジェイ伯「Ponc1世」
 1243年-01:00|アントラ| |||<就任>ウルジェイ伯「Ermengol IX」(~同年)⇒「Alvaro el Castilla」(~1268年死去)
 1243年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・パン「シュテファン4世パボニッチ」(~1249年)
 1243年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ボレスワフ5世フティボリグ・イ」レシェク1世の息子(~12791207死去)
 1243年-01:00|ポーランド| |||<退位>ポーランド公「コンラト1世マゾヴィエツキ」(~12470831死去)
 1243年-01:00|ポーランド| |||<復位>ペレムイシリ公「Rostislav Mikhailovich」(2度目~1245年)
 1243年-01:00|クロアチア/イタリア| |||ヴェネツィアによるダルマチアのザラ/ザダル支配(~1311年)
 1243年 00:00|イギリス| |||<死去>初代セント・パウル伯「ヒューバート・ド・バウ」
 1243年1月-01:00|フランス| |||フランス王ルイ9世(のち聖王、聖王)、パリの南方ロリス(サントル地域圏ロレ県)で「ロリスの和約」を結ぶ/「トゥールズ伯」レモン7世を屈服させる
 1243年1月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハーン・デーネン・デーネン辺境伯「ヘルマン5世」
 1243年1月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハーン・デーネン・デーネン辺境伯「ヘルマン6世」(~12501004死去)
 1243年1月17日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェローナ辺境伯「Herman5世」
 1243年1月17日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェローナ辺境伯「Herman6世」(~12501004死去)
 1243年1月19日-09:00|日本| ||仁治3年12月27日<死去>近衛家実(64歳)太政大臣、摂政・関白
 1243年1月22日-09:00|日本| ||仁治4年<任命>讃岐国守護「三浦光村」(~1247年)
 1243年1月22日-09:00|日本|奈良県葛城市|仁治4年|この年、当麻寺曼荼羅堂できる
 1243年1月22日-09:00|日本|奈良県奈良市|仁治4年|西大寺の僧・忍性、北山十八間戸を建てる(ハンセン病患者などを救済、保護)
 1243年1月24日-09:00|日本|京都府京都市|仁治4年1月3日|祇園西大門前の民家数百戸焼亡
 1243年2月-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||ジョチ・ウルス「バトゥ」がボルガ川下流のザイに首都を置き、建国(~1502年)
 1243年3月18日-09:00|日本| ||寛元1年2月26日|仁治から寛元に改元
 1243年4月-01:00|セルビア| |||<即位>第5代セルビア王(ネマニッチ朝)「ステファン・ウロシュ1世」ステファン・ネマニッチの末子、ステファン・ウラディスラフの異母弟(~1276年10月、息子のステファン・ドラギティンによって打倒された。12770501死去)
 1243年4月7日-01:00|フランス/イギリス| |||ホルダーの和約が結ばれ、イングランドとフランスが5カ年間の休戦が成立
 1243年4月19日-09:00|日本| ||寛元1年3月29日<死去>諦子内親王(明義門院)(27歳)順徳天皇の皇女
 1243年5月7日 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「ヒュー・ド・オービニー」
 1243年5月20日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|寛元1年5月|北条経時、蓮華寺を材木座に移し光明寺と改名
 1243年5月31日-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「グーティエリ」キヨム・ド・シャトヌフ」(~12580624/ホラスムの囚人12441018~12501017)
 1243年6月25日-01:00|パチン| |||<就任>第180代ローマ教皇「インケンティウス4世」(~12541207死去)
 1243年6月26日-02:00|トルコ/中国/モンゴル| ||元・乃馬真后2年6月8日|モンゴル軍がキョセ・タグでルムセルジューク朝軍を撃破
 1243年6月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|寛元1年6月11日<建立>鎌倉の高徳院で木造大仏の開眼供養
 1243年8月13日-09:00|日本|岡山県|寛元1年7月26日<死去>加地信実(68歳)備前守護
 1243年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「オト・スカリ」フィリップ・オブ・スターベート
 1243年11月1日-09:00|日本| ||寛元1年9月18日<死去>大炊御門麗子(陰明門院)(59歳)土御門天皇の中宮
 1243年11月20日-01:00|スイス| |||ベルンとフリブールの都市同盟が成る
 1243年12月27日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|寛元1年11月15日|宇和郡仏木寺造営
 1244年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝ハマー・アミール「アル＝ムサッファル・マフムード」
 1244年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エピロス・テッサロニキ専制公「ヨハネス・コムネノス・ドゥーカス」
 1244年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝ハマー・アミール「アル＝マンズール・ムハンマド2世」(~1284年死去)
 1244年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エピロス・テッサロニキ専制公「デメトリオス・アンゲロス・ドゥーカス」(~1246年)
 1244年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サルツォ侯「マンフレート3世」
 1244年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サルツォ侯「トマーゾ1世」(~1296年死去)
 1244年-01:00|イタリア| |||<創立>ローマ大学
 1244年 00:00|イギリス| |||<死去>4代マー伯「トノホー」
 1244年 00:00|モロッコ| |||<死去>マリーン朝スルタン「ムハンマド1世」
 1244年 00:00|イギリス| |||<就任>5代マー伯「ウィリアム」(~1276年死去)
 1244年 00:00|イギリス| |||<就任>パカン伯「アレクザンダー・ガミン」(~1289年死去)
 1244年 00:00|イギリス| |||<即位>デューハース王「Maredudd ap Rhys」(~1271年)
 1244年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「アブー・ヤフヤー・アブー・バクル」(~1258年死去)
 1244年2月2日-09:00|日本| ||寛元1年12月22日|幕府奴婢雑人の10才未満の子女は其の父母に付せしむの令を下す

1250迄 (2474件)

1244年2月10日-09:00|日本| ||寛元2年|<任命>香岐国守護「千葉胤継」(~不詳)
1244年3月16日-01:00|フランス| ||フランス王ルイ9世、フランス南部のモンセギュールの「山城」に立て籠もった数百人の「カトリ派」信徒(アルビの町が1番「カトリ派」に肩入れしていたので「アルビ派」ともいう)を包囲し、司教ベルラン・ダン・マル以下生き残った者205人全てを処刑する
1244年3月26日-09:00|日本| ||寛元2年2月16日|幕府が奴婢養子、飢饉救助、人身売買、西国奉行職などの諸法を制定
1244年3月27日-09:00|日本| ||寛元2年2月17日|<死去>源光行(82歳)大和守・河内守、文学者、歌人
1244年4月 00:00|イギリス| ||<死去>ストラサン伯「ロバート」
1244年4月 00:00|イギリス| ||<就任>ストラサン伯「マリス2世」(~1271年死去)
1244年4月26日-09:00|日本| ||寛元2年3月18日|御書所を置く
1244年6月1日-09:00|日本|愛知県新城市|寛元2年4月24日|僧朝弁ら、僧行慶に阿弥陀如来坐像を造立させる
1244年6月5日-09:00|日本| ||寛元2年4月28日|<就任>鎌倉第5代将軍「九条頼嗣」
1244年6月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・乃馬真后3年5月14日|<死去>耶律楚材/53歳(誕生:1190)/元の政治家
1244年8月4日-02:00|イスラエル| ||十字軍エルサレム王国がエルサレム再取得
1244年8月22日-09:00|日本|福井県勝山市|寛元2年7月18日|波多野義重、道元禅師を開山として越前国大仏寺(曹洞宗大本山永平寺)創建
1244年8月23日-02:00|パレスチナ/エジプト| ||ホムス 雇兵隊がアイユーブ朝の支援を受けてエルサレムを陥落させる/エルサレムがキリスト教の手から離れる/「タンブル騎士団」348人のうち312人が戦死
1244年10月-02:00|イスラエル/パレスチナ| ||エルサレム陥落、聖ヨハネ騎士団本拠地はサン・ジエバン・ダクレ(アッコ、1291年陥落)、クラック・デ・シュバリエ(1271年陥落)、マルガット城(マルガブ)(12850525陥落)に移された
1244年10月18日-02:00|イスラエル/パレスチナ| ||<就任>聖ヨハネ騎士団が「デ・ジャン・ト・ロネ」(~12500211)
1244年11月14日-09:00|日本| ||寛元2年10月13日|幕府が博奕を禁じる
1244年12月5日-01:00|オランダ/ベルギー/フランス| ||<死去>エノー伯・フランドル伯「ジャンヌ」
1244年12月5日-01:00|フランス/ベルギー| ||<死去>フランドル伯「トマ」
1244年12月5日-01:00|オランダ| ||<就任>エノー伯「マルグリット1世」(~1253年)
1244年12月5日-01:00|フランス/ベルギー| ||<就任>フランドル伯「マルグリット2世」(~1278年)
1245年-05:30|インド| ||<即位>チャンドラ朝国王「Vira-Varman」(~1285年)
1245年-05:30|インド| ||東ガング朝ナラシハガベングルに侵入
1245年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>カト朝マリーク「Shams-uddin Muhammad bin Abu Bakr」(~1277年)
1245年-04:00|ジョージア| ||<死去>グルジア国王「ルダトン」
1245年-04:00|ジョージア| ||<即位>グルジア国王「デビッド6世」(~1259年)
1245年-03:30|イラン| ||<即位>カト朝マリーク「シャムステーション・ムハンマド・イブン・アブー・ハクル」ヘラートで創設(~1278年死去)
1245年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ジョヴァンニ・ザネ」(~1249年)
1245年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| ||<即位>チェルニヒウ公「アントン・レイ・ムスチスラヴィチ」(~同年)
1245年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ベルス公「レフ・ダニロヴィチ」(~1269年)
1245年-02:00|シリア・アラブ| ||<復位>アイユーブ朝タマサス・アミール「アッ＝サリフ・ナジームステーション・アイユーブ」(~12491122死去)
1245年-01:00|スロベニア| ||<就任>カルニオラ辺境伯「Frederick2世 the Warlike」(~12460615死去)
1245年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のパン「ラズロ・ハン」(~同年)
1245年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「デニス・ネンペリトウルジェ」(1回目~1246年7月)
1245年-01:00|フランス| ||<就任>モルテン伯「Jeanne de Dammartin」(~1251年)「Walter of Chatillon」(~1250年)
1245年-01:00|ポーランド| ||<復位>ベラムイシリ公「Grigory Vasil'evich」(2度目~1246年)
1245年1月30日-09:00|日本| ||寛元3年|<任命>武蔵国守護「北条経時」(~不明、次に時頼、長時が就任~不明)
1245年1月30日-09:00|日本|京都府京都市上京区|寛元3年|この年山城廬山寺再建
1245年2月15日 00:00|イギリス| ||<死去>デウオン伯「Baldwin de Redvers」
1245年2月15日 00:00|イギリス| ||<就任>デウオン伯「Baldwin de Redvers」(~12620913死去)
1245年3月30日-09:00|日本| ||寛元3年3月1日|寅刻替星室壁の間に現れる。長さ2尺
1245年3月31日-09:00|日本| ||寛元3年3月2日|幕府が殺生を禁止
1245年4月-01:00|パチン/モンゴル| ||ローマ教皇インノセント4世がプラノ・カルピニをモンゴルに派遣(~1247)
1245年4月 00:00|イギリス| ||<就任>ウォリック伯「ジョン・デューブル」マーガレット・ド・ボームの二番目の夫(~12530606)
1245年5月3日-09:00|日本| ||寛元3年4月6日|<死去>越中国守護「名越(北条)朝時」
1245年5月29日-09:00|日本| ||寛元3年5月3日|幕府守護地頭等六波羅の命に背き出京せざる者の罰を定む
1245年7月5日-09:00|日本|岩手県西磐井郡平泉町|寛元3年6月10日|僧能親、尾張国平泉寺の阿弥陀如来坐像を修理
1245年8月19日-01:00|フランス| ||<死去>ブワングアン伯「レモン・ペランジエ4世」
1245年8月19日-01:00|フランス| ||<就任>ブワングアン伯「ベアトリス」(~12670923死去)
1245年8月19日-09:00|日本| ||寛元3年7月26日|将軍藤原頼嗣と執権北条経時の妹檜皮姫との婚儀
1245年8月20日-01:00|ハンガリー/クロアチア| ||<即位>ハンガリー王「イシュトヴァーン5世」兼クロアチア王「ステファン5世」ペーラ4世の長男(12700503まで共同王~12720806死去)
1245年11月18日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「ジェフリー・セント・レガー」(~1246年7月)
1245年11月24日 00:00|イギリス| ||<死去>ペンブルック伯「ウォルター・マージヤル」
1245年11月24日 00:00|イギリス| ||<就任>ペンブルック伯「アンセルム・マージヤル」(~12.23死去)
1245年12月23日 00:00|イギリス| ||<死去>ペンブルック伯「アンセルム・マージヤル」

1250迄 (2474件)

1246年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「ラージェントラ・チョーラ3世」(~1279年死去)
1246年-05:30|インド| |||<即位>ヤダヴァ朝君主「クリシュナ」シंगा2世の孫(~1261年)
1246年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン「イエス・モンケ」チャガタイの五男(~1252年死去)
1246年-02:00|トルコ| |||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイホスロ2世」
1246年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リウ・オニア騎士団団長「ハインリッヒ・フォン・ハイムブルク」(~1248年)
1246年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「ギョム2世・ド・ウ・イルアルト・ウアン」(~1278年)
1246年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「セヴ・オロト・ヤロム・ルコヴィチ」(~1261年)
1246年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ大公(フリヤンスク公)「ロマン1世・ミハイロヴィチ」(~1288年)
1246年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイホスロ2世」(~1257年)
1246年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ「ンダ・ヒロ・サメンバ」(~1279年)
1246年-02:00|トルコ| |||<即位>ビザンティン帝国の第2代皇帝ヨハネス3世「ドゥカス・ウァタクセス」かつての東ローマ帝国第二の都市であるテッサロニキを占領
1246年-01:00|オランダ| |||<就任>エノー伯「ジャン1世」(~1257/1224死去)
1246年-01:00|フランス| |||<就任>オーベールニュ伯「Robert5世」(~1277年)
1246年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「シャルル1世」(~1285/107死去)
1246年-01:00|ポーランド| |||<復位>ペレミシリ公「Rostislav Mikhailovich」(3度目~1249年)
1246年-01:00|北マケドニア/トルコ/コソボ| |||マケドニア、コソボはビザンチン帝国の一部(~1282年)
1246年1月4日-09:00|日本|広島県福山市|寛元3年12月15日|木造仁王立像(福山福盛寺蔵)成る
1246年1月19日-09:00|日本|長崎県対馬市|寛元4年|津島に阿比留氏にかえ、太宰府は惟宗重尚を遣わし、重尚は阿比留国時を鶏知で滅ぼした
1246年1月19日-08:00|中国| ||元・定宗1年|<即位>天山ウイグル王国「サラン・イ・テギン」(撒憐丁的斤)「ケスス」の弟(~1253年)
1246年1月31日-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯兼フロアンヌ伯「シャルル1世」兼シチリア国王、アルバニア国王、エルサレム国王、メヌ伯、フォカルギエ伯/ル18世とブランシュ・ド・カステルの末子(~1285/107死去58歳)兼
1246年2月15日-09:00|日本| ||寛元4年1月28日|<就任>関白:一条実経
1246年2月16日-09:00|日本| ||寛元4年1月29日|<就任>摂政:一条実経(~寛元5年正月19日)
1246年2月16日-09:00|日本| ||寛元4年1月29日|<譲位>88代「後嵯峨天皇」
1246年2月16日-09:00|日本| ||寛元4年1月29日|<踐祚>「久仁親王」後嵯峨天皇の子/3月11日89代「後深草天皇」
として即位(~正元元年11月26日(1260/109))
1246年2月25日-01:00|ベルギー/オランダ/ドイツ| |||<死去>リンブルフ公・ベルグ伯「ハインリヒ4世」
1246年2月25日 00:00|イギリス| |||<死去>グウィネト公「ダフイド・アプ・リウエルン」
1246年2月25日 00:00|イギリス| |||<即位>ウェールズ公・アバフー大公・グウィネト公「オウエイン・ゴック・アプ・グリフィス」(オウエイン赤公)「(~1254.6)」、「ルウエルン・アプ・グリフィス」(1267年モンゴリ条約により、ウェールズ大公~1282/1211戦死)共同統治
1246年4月-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア辺境伯「ウラジスラフ5世」ボヘミア王「アツラフ1世」の息子(~1247/103死去)
1246年4月10日-09:00|日本| ||寛元4年3月23日|<引退出家>第4代執権「北条経時」病気のため
1246年4月10日-09:00|日本| ||寛元4年3月23日|<就任>5代鎌倉幕府執権「北条時頼」(~康元1年11月22日)
1246年4月19日-09:00|日本| ||寛元4年4月2日|<死去>尊快入道親王(43歳)後鳥羽天皇の皇子、天台座主
1246年5月-02:00|パレスチナ| |||ホラズムシャーの残存勢力がパレスチナで消滅させられる
1246年5月11日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|寛元4年4月24日|名越光時、前將軍頼経を擁して執権時頼を除こうとし鎌倉中騒動す
1246年5月17日-09:00|日本| ||寛元4年閏4月1日|<死去>「北条経時」(鎌倉幕府4代執権)[1224生~]
1246年5月22日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ・イタリア対立王「ハインリッヒ・ラスベ」(~1247/0216死去)
1246年6月10日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルタン「アー・ウッデイン・マヌート・シャー」
1246年6月10日-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝スルタン「ナシルッデイン・マフムト・シャー」イルウトウミシュの子(~1266/0218死去)
1246年6月15日-01:00|オーストリア| |||<死去>オーストリア公「フリードリヒ2世」喧嘩公35歳/ハベーンベルグ家断絶
1246年6月15日-01:00|スロベニア| |||<死去>カニオラ辺境伯「Frederick2世 the Warlike」
1246年6月15日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公「ゲルトルト」(~1251/1206)
1246年6月28日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ムス)アミール「Al-Mansur Ibrahim」
1246年6月28日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝(ムス)アミール「Al-Ashraf Muzaffar al-Din Musa」(~1248.8退位)
1246年7月-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア公摂政「ウラディスワフ・マルキオ・モラヴィア」モラヴィア侯ウラジスラフ5世(~1247/103)
1246年7月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「イシュトヴァーン・フィアト・ラゲン・ネンペリ・ガット・ケレト」(~1248年4月)
1246年7月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジョン・フィッツジェフリー卿」(~1254年6月))
1246年7月20日-09:00|日本|京都府京都市|寛元4年6月6日|<京都寛元4年の大火>火元が四条坊門町、北限が三条大路、南が八条坊門南の八条大路あたり、西が西洞院大路、東が鴨川の河原までという京市街の中心部でかなりの範囲/焼失した主な建物は、生け花発祥地の六角堂(頂法寺)、因幡堂(平等寺)、釈迦堂、東洞院高辻の祇園(社)大政所(御旅所)、源融の旧邸・河原院堂舎、五条薬師堂、月卿雲客亭(公卿や昇殿を許された殿上人の邸宅)数十か所などで京都の半ば以上焼失
1246年7月22日-09:00|日本|京都府京都市東山区|寛元4年6月8日|建仁寺焼亡

1250迄 (2474件)

1246年7月22日-01:00|バチカン/中国/モンゴル||元・定宗1年6月8日|ローマ教皇インノセント4世の使フランシスコ修道士プラノ・カルビーニがカフカスのモンゴル皇帝を訪問

1246年7月27日-09:00|日本|静岡県伊豆市|寛元4年6月13日|北条光時伊豆に流罪

1246年7月29日-09:00|日本|福井県吉田郡永平寺町|寛元4年6月15日|道元、大仏寺を永平寺と改称

1246年8月-02:00|ブルガリア|||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「カリマン1世アッセン」

1246年8月-02:00|ブルガリア|||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミハイル2世アッセン」(~1256年7月死去)

1246年8月23日-09:00|日本||寛元4年7月11日|鎌倉前將軍九条頼経がクーデターに失敗し、京都に送還される

1246年8月24日-08:00|中国/モンゴル||元・定宗1年7月12日|<即位>モンゴル帝国第3代皇帝「定宗グユク」カグタイの長男(~定宗3年3月25日1248年4月20日)

1246年9月26日-09:00|日本||寛元4年8月15日|<死去>昱子内親王(16歳)後堀河天皇の皇女、伊勢斎宮

1246年9月30日-04:00|ロシア|||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「ヤロスラフ2世」

1246年9月30日-04:00|ロシア|||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「スヴャトスラフ3世」(~1248年)

1246年9月30日-02:00|ウクライナ|||<死去>キエフ大公「ヤロスラフ3世」

1246年9月30日-02:00|ウクライナ|||<即位>キエフ大公「アレクサンドル1世」(~12631114死去)

1246年10月16日-01:00|ベルギー|||<死去>リエージュ公「ロベルト・トウロット」

1246年10月22日-01:00|ポーランド|||<死去>ポーランド王「ミェシュコ2世」

1246年10月22日-01:00|ポーランド|||<就任>ポーランド公「ウワディスワフ・ホェルスキ」(~12810514死去)

1246年12月-02:00|ブルガリア/トルコ|||ニケーア王国ヨハネス3世がトラキアのビザンチン王国領を併合

1246年12月14日-09:00|日本|徳島県|寛元4年11月5日|<死去>小笠原長経(69歳)御家人、阿波守護

1247年-04:00|ジョージア|||<即位>カレッジ王国王「ダビデ7世」(~1270年死去)

1247年-03:00|イラク|||<即位>アイユーブ朝(メソポタミア)アミール「Al-Kamil Muhammad」(~1260年)

1247年-01:00|ドイツ|||<就任>ヴァイマル-オーラムンデ伯「オットー3世」(~1285年),「ヘルマン3世」(~1283年)

1247年-01:00|カザフスタン|||<就任>スラフ・オニ全土のハン「ロシュティスラフ・ムステイスラフ・イチ」(~同年)

1247年-01:00|フランス/ベルギー|||<就任>フランドル伯「ギヨーム2世」(~12510606死去)

1247年-01:00|ドイツ|||<就任>ヘッセン方伯「ハインリヒ1世」(~1308年)

1247年-01:00|イタリア|||<就任>ミラノ・シニョレ「パガーノ2世・デッラ・トルレ」(~1257年)

1247年-01:00|ベルギー|||<就任>リエージュ公「ハンス・ド・ケルダース」(~1274年退任)

1247年-01:00|ベルギー/オランダ|||<就任>リンブルフ公「ウアルム4世」(~12791014死去)

1247年 00:00|イギリス|||<死去>ダーク伯爵「William de Ferrers」

1247年 00:00|イギリス|||<就任>ダーク伯爵「William de Ferrers」(~12540328死去)

1247年 00:00|イギリス|||<就任>ベングルク伯「ウィリアム・ド・ヴァランス」(~12960518死去)

1247年1月3日-01:00|チェコ|||<死去>モラヴィア辺境伯「ウラジスラフ5世」

1247年1月3日-01:00|チェコ|||<就任>モラヴィア辺境伯「オカル2世」ホーヘンシュタイン王カール1世の次男(⇒1253年兼ホーヘンシュタイン王~12780826死去)

1247年1月29日-09:00|日本||寛元4年12月21日|<死去>九条立子(東一条院)(56歳)順徳天皇の中宮

1247年2月7日-09:00|日本||寛元5・宝治1年|<任命>伊賀国守護「千葉頼胤」(~1275年、次に胤宗、貞胤と続く~1333年)

1247年2月7日-09:00|日本||寛元5・宝治1年|<任命>讃岐国守護「北条重時」(~1251年)

1247年2月12日-01:00|ルクセンブルグ|||<死去>ルクセンブルグ伯「エルメジンド」女伯

1247年2月12日-01:00|ルクセンブルグ|||<就任>ルクセンブルグ伯「ハインリヒ5世」リンブルフのヘンドリック4世/ナミュールのアンリ3世(~12811224没)

1247年2月16日-01:00|ドイツ/イタリア|||<死去>ドイツ・イタリア対立王・テューリンゲン方伯「ハインリヒ・ラスペ」

1247年2月16日-01:00|ドイツ|||<就任>テューリンゲン方伯「ハインリヒ3世」マイン辺境伯、ハインリヒ・ラスペの甥(~1265年)

1247年2月25日-01:00|ドイツ|||<就任>ベルク伯「アドルフ7世」(~12590422死去)

1247年2月25日-09:00|日本||寛元5年1月19日|<就任>摂政:近衛兼経(~建長4年10月3日)

1247年4月5日-09:00|日本||宝治1年2月28日|寛元から宝治に改元

1247年7月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|宝治1年6月5日|北条時頼が三浦泰村(44)とその一族を滅ぼす(寶治合戦)

1247年7月9日-09:00|日本||宝治1年6月6日|<死去>河内国・相模国守護「三浦泰村」

1247年7月10日-09:00|日本|千葉県長生郡睦沢町|宝治1年6月7日|大須賀胤氏ら千葉秀胤を一宮の大柳谷に襲撃し秀胤自殺

1247年8月3日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル||元・定宗2年;高麗・高宗35年7月|蒙古軍、再び高麗へ

1247年8月5日-09:00|日本||宝治1年7月3日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条長時(極楽寺流赤橋氏)」(~建長8(1256)年3月28日→評定衆→執権)

1247年8月31日-01:00|ポーランド|||<死去>マゾフシェ公「コンラト1世」

1247年8月31日-01:00|ポーランド|||<即位>マゾフシェ(プウォツク)公「ボレスワフ1世」コンラト1世の息子(~12480225死去)

1247年9月28日-09:00|日本|京都府京都市左京区|宝治1年8月28日|法勝寺阿弥陀堂が焼亡

1247年10月3日-01:00|ドイツ/イタリア|||<即位>ドイツ王・イタリア王「ウィルヘルム・フォン・ホラント」ホラント伯(12540521まで対立王~12560128没)

1247年12月5日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|宝治1年11月7日|鎌倉寿福寺焼失

1247年12月25日-09:00|日本||宝治1年11月27日|幕府が、守護・地頭が勝手に検田することを禁じる

1248年-08:00|インドネシア|||<死去>シンガサリ王国国王「アサハティ」

1250迄 (2474件)

1248年-08:00|インドネシア| |||<即位>シンガリ王国国王「トージヤ」(~1250年死去)
1248年-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「ミハイル・ホフリット」(~1.15戦死)
1248年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Imad al-Din ibn Hazarasp」(~1251年)
1248年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「アルマデ・イ・アフマド・ヒン・アルセイ」(~12580220死去)
1248年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「サクリ・アジソン」(~1249年死去)
1248年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグ・オア騎士団団長「アント・レナス・フォン・グェルゲン」(2回目~1253年)
1248年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カルチ・アルスラン4世」(~1265年死去)
1248年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||ロードス島がジェノヴァに占領される(~1250年)
1248年-01:00|フランス| |||<死去>シャトル伯「Isabelle」
1248年-01:00|フランス| |||<就任>シャトル伯「Matilda」(~12560512死去)
1248年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「イシュトヴァン・グート＝クレド」(~1260年)
1248年-01:00|ポーランド| |||<就任>レグニツァ公「ホレスワ2世禿公」(~12781226死去)、「コンラッド1世」(~1251年)
1248年-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア・シュタイアーマルク公「ヘルマン6世」ハートン辺境伯(~12501004死去)
1248年-01:00|リビア/チュニジア| |||トリポリタニアはチュニシに編入(~1327年)
1248年 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド朝アミール「アフ・ルハサン・サイード」
1248年 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「ウマル・ムタタール」(~1266年死去)
1248年1月4日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「サンシュ2世」
1248年1月4日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「アフォンソ3世」(~12790216死去)アフォンソ2世の子
1248年1月9日-09:00|日本| ||宝治1年12月12日|幕府本地頭と新地頭の徴租法式を定む
1248年1月15日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「ミハイル・ホフリット」戦死
1248年1月15日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「アント・レイ2世」(~12520724)
1248年1月28日-09:00|日本| ||宝治2年|<任命>常陸国守護「奥戸国家」(~1250年)
1248年1月28日-09:00|日本|沖縄県|宝治2年|<死去>琉球王「舜馬順熙」(64歳)⇒世子の義本が即位
1248年2月1日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<死去>ブラバント公「アンリ2世」
1248年2月1日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<即位>ブラバント公「アンリ3世」(~12610208死去)
1248年2月18日-01:00|ドイツ/イタリア| |||フリードリヒ2世が、第2次ロンバルディア都市同盟に敗れる
1248年2月25日-01:00|ポーランド| |||<死去>マゾフシェ(フウォツク)公「ホレスワ1世」
1248年2月25日-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ(フウォツク)公「シモヴィト1世」ホレスワ1世の兄弟(~12620623死去)
1248年2月26日-09:00|日本|愛知県東海市|宝治2年2月|尾張国観福寺の本堂宮殿が造られる
1248年4月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「デーネス・ネペリ・テュリエ」(2回目~9.1)
1248年4月9日-01:00|フランス| |||<死去>サン＝ポル伯「ユーク5世」
1248年4月9日-01:00|フランス| |||<就任>サン＝ポル伯「ギー3世」(~1289年死去)
1248年4月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・定宗3年3月25日|<死去>モンゴル帝国第3代皇帝「定宗ゲユク」/年43
1248年4月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・定宗3年3月25日|<就任>モンゴル帝国監国(定宗の皇后)ガ・イミシ(ハイミシ海迷失-1251)
1248年4月26日-01:00|フランス| |||キリストの荊冠や十字架などの「聖遺物」を納める「王宮付属の礼拝堂」としてパリの「サント・ジャベル(聖礼拝堂)」(1区「シテ島」)が完成/フランス王ルイ9世(のち聖王、聖ルイ王)の命により、建築家ピエール・ド・モンルイが手がけた(パリ最古のステンドグラスが有名)
1248年6月11日-09:00|日本|和歌山県伊都郡高野町|宝治2年5月18日|<死去>安達景盛(不明)上野・摂津守護. 高野山で死去
1248年6月19日-01:00|フランス/クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<死去>メーノ公・ブルゴーニュ伯「オトン3世」兼イストリア辺境伯・カニオラ辺境伯「オット2世」
1248年6月19日-01:00|スロベニア| |||<就任>カニオラ辺境伯「Ulric3世」(~12691027死去)
1248年6月19日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴーニュ伯「アデライド」(~12790308死去)、「ユーク・ド・シャロン」アデライドの最初の夫(~12661122死去)
1248年6月19日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「白人詩人オラフ・ソート・ダルソン」(1回目~1251年)
1248年7月21日-09:00|日本| ||宝治2年夏|万代和歌集出来る
1248年8月-02:00|シリア・アラブ| |||<退位>アイユーブ朝(ホムス)アミール「Al-Ashraf Muzaffar al-Din Musa」
1248年8月25日-01:00|フランス| |||聖王ルイ9世の第7回十字軍がリオン湾の港エグモントを船出
1248年9月1日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ロランド・フィアト・モクス・ネペリ・ラット」(~1261年8月)
1248年11月11日-09:00|日本| ||宝治2年10月25日|<死去>甲斐・安芸国守護「武田信光」87歳/信政が継ぐ
1248年11月23日-01:00|スペイン| |||カスティリヤ王フェルナンド3世が、セビリヤ・カタルハを陥す
1248年11月24日-01:00|フランス| |||フランス・モンテラニルで土砂災害、死者3千人
1248年12月21日-09:00|日本|山梨県|宝治2年12月5日|<死去>武田信光(87歳)御家人、甲斐・安芸守護
1249年-08:00|モンゴル| |||アント・レド・ロジューモのモンゴル遣使(~1251)
1249年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ゲレフ・ロズスラヴィチ」(~1278年死去)
1249年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Muhammad」(~1271年)
1249年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッセル朝スルタン「ムザファル・ユセフ1世」(~12961122死去)
1249年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「マリノ・ファリエ」(~1250年)
1249年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「スティゴット・アジソン」(~同年)
1249年-02:00|ヨルダン| |||<即位>アイユーブ朝(カラク)アミール「Al-Mughith Umar」(~1263年)

1250迄 (2474件)

1249年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公(リュリク朝)アレクサンドル1世(〜1263年)ジョチ・ウルの封臣
 1249年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイバート2世」(〜1257年死去)
 1249年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<死去>ハフス朝アミール「アブー・ザカリヤ・ヤフヤー1世」
 1249年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「マリノ・モロシニ」(〜1253年)
 1249年-01:00|ドイツ| |||<就任>ラーフェンベルク伯「オットー3世」(〜13060305死去)
 1249年-01:00|ドイツ| |||<就任>リュッケン公「ヤロマル2世」(〜1260年)
 1249年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブー=アブドゥッラー・ムハンマド・アル=ムスタンスィル」(〜1277年死去)
 1249年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「ダニファームリン修道院長ロバート・デ・ケルデレス」(〜1250年)
 1249年 00:00|ポルトガル| |||ポルトガル王アフォンソ3世がファロとシルヴェスを占領し、南部のアルガルヴェからイスラム教勢力を駆逐し、ポルトガル国内でのレコンキスタ(国土回復運動)を完成
 1249年1月7日-09:00|日本| 京都府京都市| 宝治2年12月22日| 武者小路西洞院炎上
 1249年1月8日-09:00|日本| || 宝治2年12月23日| 幕府百姓と地頭との訴訟の法を定む
 1249年2月14日-09:00|日本| || 宝治3年・建長1年|<任命>美濃国守護「宇都宮泰綱」(〜不詳)
 1249年2月14日-09:00|日本| || 宝治3年|<任命>和泉国守護「北条重時」(〜1261年)
 1249年2月14日-09:00|日本| 奈良県生駒郡斑鳩町| 宝治3年| 法隆寺西円堂出来る
 1249年2月28日-09:00|日本| || 宝治3年1月15日|<死去>道助入道親王(54歳)後鳥羽天皇の皇子
 1249年3月16日-09:00|日本| 京都府京都市| 宝治3年2月1日| 時の後深草天皇が皇居として使用されていた「閑院内裏」が火災となり焼失
 1249年5月2日-09:00|日本| || 建長1年3月18日| 宝治から建長に改元
 1249年5月3日-09:00|日本| || 宝治3年3月19日|<死去>加藤景正(82歳)陶工、瀬戸焼の開祖
 1249年5月6日 00:00|マン島| |||<死去>マン王「Haraldr Olafsson (Harold1世)」
 1249年5月6日 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Rognvaldr Olafsson (Ragnal2世)」(〜30日死去)
 1249年5月7日 03:00|日本| 京都府京都市| 建長1年3月23日|<京都建長元年の大火>午の刻(午前12時ごろ)、姉小路室町から出火/被災地域は京都の半ばに達し、北は三条坊門まで、南は八条まで、西は洞院まで、東は鴨川の河原までに及び六角堂も焼失/炎が強風に乗って河原を飛び越え、遙か蓮華王院まで飛び火し、同院の塔から御堂(三十三間堂)に移り、千体の観音像のうち156体と二十八部衆の像は取り出したが、残りの像と御堂は全焼
 1249年5月30日 00:00|マン島| |||<死去>マン王「Rognvaldr Olafsson (Ragnal2世)」
 1249年5月30日 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Haraldr Gudhfridharson (Harold2世)」(〜1250年)
 1249年6月6日-02:00|エジプト/フランス| |||聖王ルイの第7回十字軍がエジプトのダミエッタを占領
 1249年6月13日-09:00|日本| 香川県善通寺市| 建長1年5月1日| 僧道範、弘法大師誕生所に一堂を建立し、誕生院と号する
 1249年6月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>マルク伯「アドルフ1世」
 1249年6月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>マルク伯「エンゲルベルト1世」(〜12771116死去)
 1249年7月8日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド 王「アレクザンダー2世」ノルウェーからのヘヴリゲス諸島の奪還を目指して進軍中に
 1249年7月13日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド 王「アレクザンダー3世栄光王」アレクザンダー2世の息子(〜12860319落馬による事故死)
 1249年9月27日-01:00|フランス| |||<死去>トゥールーズ 伯「レモン7世」
 1249年9月27日-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ 伯兼プロヴァンス辺境伯「ジャンヌ」アルフォンス・ド・ポワティエと結婚(〜12710825死去)
 1249年11月13日-09:00|日本| || 建長1年10月8日| 朝廷沽価法を定む
 1249年11月16日-09:00|日本| 愛知県犬山市| 建長1年10月11日| 僧秀賢ら、仏師僧鏡慶に三河国随求寺の聖観音菩薩坐像を造立させる
 1249年11月22日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<死去>アイユーブ 朝第7代スルタン兼ダマスカス・アミール「アッ=サーリフ・ナジームムッ=イン・アイユーブ」十字軍との戦いで
 1249年11月22日-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ 朝(ヒスン=カイファ)アミール「Muwahhid Taqiyya ad-Din Abdullah」(〜1294年)
 1249年11月22日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ 朝第8代スルタン「トゥーラーン=シャー」兼ダマスカス・アミール(〜12500502死去)
 1249年12月20日-09:00|日本| 愛知県岡崎市| 建長1年11月15日| 三河国滝山寺三重塔の落慶供養
 1249年12月28日-09:00|日本| 京都府京都市| 建長1年11月23日| 幕府が永福寺を供養
 1250年-08:00|インドネシア| |||<死去>シンガリ王国国王「トージュヤ」
 1250年-08:00|インドネシア| |||<即位>シンガリ王国国王「ウ・イシュマルタナ」(〜1268年)
 1250年-08:00|フィリピン| |||フィリピンのバナイ島で最古の成文法が完成
 1250年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラン国王「アラウピュー」(〜1256年)始祖
 1250年-05:30|インド| |||<建国>オカ国
 1250年-05:30|インド| |||<建国>カマ国
 1250年-05:30|インド| |||<建国>ハンスガ 国
 1250年-05:30|インド| |||<建国>マルワール国
 1250年-05:30|インド| |||<即位>パ=ンティヤ朝君主「Maravarman Vikkiranman2世」(〜1251年)
 1250年-05:30|インド| |||カーカティヤ朝のガハパティがカンチーを攻略
 1250年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ=シャリフ「アブー=サード・ハサン・ブン・アリー・ブン・カタダ」(〜1253年10月、ジャンマーズ・ブン

1250迄 (2474件)

・ハンによって殺された)、「アブー・ヌマイム・ハヌマト・ブン・アビー・サード」(~1253年10月)
1250年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ピエトロ・オリオ」(~1252年)
1250年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Nure Sufi Bey」(~1256年)
1250年-02:00|ギリシャ| |||ドデカネス諸島とロードス島はコニア帝国の一部(~1261年)
1250年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ボスニア・ハン「プリエズダ1世」(~1287年)
1250年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Egno von Eppan」(~1273年)
1250年-01:00|チュニジア| |||ドミニコ会がチュニシにアラビア学院を建設しイスラム研究に着手
1250年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド 大法官「セントアンドリュース司教ガムラン」(~1253年)
1250年 00:00|イギリス| |||<就任>ペンブルック伯「ウィリアム・ト・ウァランス」(~12960518死去)
1250年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「John Dugaldsson」(~1252年)
1250年 00:00|ヨーロッパ| |||このころ、ヨーロッパで馬をもちいた耕作が普及
1250年 05:00|エクアドル| |||エクアドル北部高地でキトのDuchicela族を中心にCaranqui連盟と呼ばれる部族連合が成立、インカの来襲まで150年にわたり支配を継続/このほかグアヤス地方にワカビル王国が成立
1250年 07:00|メキシコ| |||このころ、マヤでマヤンが覇権をにぎり繁栄
1250年1月13日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長1年12月9日|評定衆の下に御家人の領地訴訟の裁判の迅速さと公正さをはかる為に引付衆を設置
1250年2月2日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「エリク11世」34歳
1250年2月2日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ヴァルデマル1世」(~12750722~13021226死去63歳)
1250年2月3日-09:00|日本| ||建長2年|<任命>大隅国守護「北条時章」(~1272年)
1250年2月8日-02:00|エジプト| |||カイロ進出を企てていた聖王ルイ9世がバール・アサーリフ運河を突破
1250年2月8日-01:00|フランス| |||<死去>アルトリ伯「Robert1世」
1250年2月8日-01:00|フランス| |||<就任>アルトリ伯「Robert2世」(~13020711死去)
1250年2月13日-09:00|日本| ||建長2年1月11日|<死去>道覚法親王(47歳)後鳥羽天皇の皇子、天台座主
1250年4月6日-02:00|エジプト/フランス| |||フランス王ルイ9世、「第6回十字軍」遠征中、「マンズラの戦い」(エジプト)でイスラム勢力に敗北/ルイ9世が捕虜となる/「タンブル騎士団」総長ギヨーム・ド・ソナックが戦死
1250年5月-02:00|レバノン/イスラエル| |||十字軍エルサレム王国がシドン再取得
1250年5月2日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<死去>アイユーブ朝第8代スルタン兼ダマスカス・アミール「トゥーラーン・シャー」ハフリー・マムルークに殺害される
1250年5月2日-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ朝第9代スルタン「アル・アシュラフ・ムサー」(~1250. 7)
1250年5月2日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝ダマスカス・アミール「アン・ナシル・ユースフ」(~1260年死去)
1250年5月2日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「シャジャール・アッ＝トゥッル(女)」(~7月)
1250年5月8日-02:00|エジプト/フランス| |||捕虜となっていた聖王ルイ9世がダミエッタ返還と50万リーヴルの身代金により釈放され、シリアに向かう
1250年5月22日-09:00|日本| ||建長2年4月20日|幕府庶民の帯刀を禁ず
1250年6月13日 00:00|イギリス| |||<死去>初代キャリック伯「ダナン」
1250年6月13日 00:00|イギリス| |||<就任>2代キャリック伯「ニール」先代の長男(~1256年死去)
1250年7月-02:00|エジプト/シリア・アラブ/イェメン| |||<即位>アイユーブ朝スルタン「Izz al-Din Aybak」(~5日間)⇒「アル・アシュラフ・ムサー」(~1257年死去)
1250年7月31日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ムイッス・アイバク」(~12570410,暗殺される)
1250年7月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|建長2年7月|円明寺両脇侍立像が造られる
1250年7月31日-09:00|日本|京都府京都市北区|建長2年7月|竜源院釈迦如来像(行心)できる
1250年8月4日-09:00|日本| ||建長2年7月5日|幕府質債法を制定
1250年8月10日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「エリク4世」
1250年8月10日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王代行「アベル・ヴァルデマルセン」ヴァルデマー2世とベレンガリア・デ・ポルトガルの次男(⇒11. 1. 王~12520629没)
1250年10月4日-01:00|オーストリア/ドイツ/イタリア| |||<死去>オーストリア・シュタイマルク公兼バーテン＝バーテン辺境伯・ヴェロナ辺境伯「ヘルマン6世」
1250年10月4日-01:00|オーストリア/ドイツ/イタリア| |||<即位>オーストリア・シュタイマルク公兼バーテン＝バーテン辺境伯・ヴェロナ辺境伯「フリートリヒ1世」(~12681029死去)
1250年12月13日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝・エルサレム王「フリートリヒ2世」兼シチリア王「フェデリコ1世」兼イタリア王「フェデリコ2世」
1250年12月13日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「コラード」ドイツ王・イタリア王・エルサレム王・シベールン大公(~12540521死去)
1250年12月23日-09:00|日本| ||建長2年11月29日|幕府が鷹狩りを禁じる